

工場及其ノ南一部、寄宿舎ヲ除ク。天王崎町(天王崎橋以南全部)。葛町(服部小十郎裏筋以東)。古郷町(慶圓寺前東側以東陸連筋西側以西)。上日置町(全町)。千早町(全町)。西境町(一丁目全部)。西脇町(松本寅之助ヨリ南佐藤泰次郎迄其ノ以東)。東陽町(自九丁目至十二丁目)。南瓦町(全町)。宮前町(全町)。下奥田町(全町、塚越宮前ノ一部ヲ含ム)。熱田西町(鳥頭、幣懸全部)。
以下(尿ノミ)

東白壁町(全町)。百人町(全町)。車道町(廣小路以北)。黒門町(全町)。東矢場町(全町)。城番町(全町) 車道東町(廣小路以北)。筒井町(全町)。手代町(全町)。往還町(全町)。石神堂町(全町)。安房町(全町) 布池町(全町)。水筒先町(全町)。裏筒井町(全町)。添地町(全町)。葵町(全町)。山口町(北側東部)。新 出來町(四丁目全部ト五丁目半分除ク)。

十一月一日ヨリ施行(尿尿共)

和泉町(全町)。花車町(江川通佐藤繁次郎ヨリ南、東柳北)。上園町(一丁目全部)。五平藏町(三丁目 小便)。菊井町(市營住宅ノ内北ノ一棟及平松、中西、二戸ヲ除ク全部及三丁目加藤政次郎閑所全部)。 江川町(二丁目南側加藤泰次郎ヨリ西へ及北側須賀ヒサヨリ東へ加藤由太郎迄及二丁目ヨリ五丁目迄全 部)。江川横町(四ノ切藤田俊一ヨリ四ノ切全部)。西萬町(全町)。北鷹匠町(全町)。上仲町(一丁目北側 全部ヲ除ク全部)。松島町(明倫小學校)。那古野町(電鐵本社東北部)。中ノ町(全町)。替地町(中筋ノ北 部)。橋詰町(全町、新川町西堀江ニ豫約二二〇)。六句町(全町)。白塚町(東側北ヨリ大関所迄全部)。 南押切町(下十二島溝通西全部)。前ノ川町(全町)。上笹島町(三丁目西側)。茶屋町(公設便所)。桑名 町(公設便所)。志摩町(幾田龜吉ヨリ南へ麻裏屋岡本彦一迄)。七間町(三丁目、四丁目全部)。大津町 (全部)。杉ノ町(二、三丁目全部北側及四丁目西ヨリ北側中程迄)。白壁町(一丁目南側西ヨリ角田勝次 郎迄、白壁小學校及三丁目全部)。前ノ町(杉浦鐵次郎ヨリ勝沼兼次郎迄)。東外堀町(二丁目東側寺西吉

三郎ヨリ大喜多寅之助迄及淺野逸藏ヨリ南へ全部)。長塚町(一丁目全部及二丁目北側幡野はなヨリ東 全部)。研屋町(二丁目北側及三丁目全部)。久屋町(三丁目全部)。東片端町(全町)。平田町(全町)。西 魚町(全町)。東主税町(電通東側北端山田ノ借家ヨリ鎌田慶藏迄)。伊勢町(一丁目)。石町(二丁目足 立金之助ヨリ加藤豊吉迄)。東魚町(二、三丁目北側)。高岳町(二丁目西側大河内喜三郎ヨリ堀田ゑつ迄 及南側門山捨男ヨリ山上すま迄)。南外堀町(七、八、九丁目)。長久寺町(全町)。關鍛冶町(二、三、四丁 目)。櫻町(全町)。東門前町(全町)。豎三藏町(二丁目東側)。東洲崎町(全町)。下笹島町(東洋紡績男工 寄宿舎及舎宅全部、其ノ通南側全部、下笹島小學校裏ノ一廊全部)。旅籠町(南側法然寺前崎野ヨリ東へ 金澤町通迄、金澤町通ヨリ東全部、西側松浦ヨリ横井富次郎迄)。正木町(箱橋南西側大西てう迄東側東へ 中川留吉迄)。西脇町(山ノ神筋通東側以東)。東瓦町(全町)。老松町(南部實地案内ス)。東田町(全 町)。南辰巳町(全町)。中ノ町(東側南端ヨリ湯屋ノ隣迄)。下廣井町(二丁目横井仙吉ヨリ北へ岡本藤 次郎迄)。西洲崎町(中村鈞太郎北西へ堀川通洲崎橋詰迄)。禰宜町(四丁目全部ト三丁目三十二番地吉田 市左衛門ヨリ北へ野村榮二迄)。根津町(全町)。榎町(全町)。鶯谷町(北ノ筋北側全部)人員相違ニ依 リ百人減ス。永樂町(全町)。正木町(暗ノ森東北側ノ一廓)。古郷町(南側大矢しげヨリ東へ蛭子町 迄)。新榮町(尿全部、六丁目ヨリ九丁目迄北側)。傳馬町(鈴木長之助ヨリ中村久太郎迄)。西町(根山、 白鳥全部)。

第百二十五 大正十年十一月二十四日名古屋市衛生課長ハ市内各衛生組合長ヘ左ノ通り照會セリ

拜啓愈々御清安慶賀此事ニ候陳ハ豫テ御承知ノ通り本年十月一日ヨリ本市尿尿ノ一半ヲ市直營ヲ以テ汲取 リ加工スルコトニ相成夫々準備中ノ處(一半ハ依然會社ト契約中ノ農民汲取リ居リ候)過般ノ暴風雨ニ際シ 工場ノ大破、尿尿船ノ沈没等甚大ナル被害ヲ蒙リ加フルニ連日ノ降雨ニテ貯溜場其他ノ築造物ノ工事著シ ク遅延シ豫期ノ進捗ヲ見ルニ至ラス尿尿處分上一大支障ヲ惹起致シ爾來晝夜該施設ノ完成ヲ期シ候結果去

月末ニ至リ其大半竣成致シ銳意尿尿汲取ノ圓滑ヲ圖リ居リ候ヘ共何分ニモ近年農村ノ經濟狀態及農民ノ思想頓ニ激變致シ候折柄トテ尿尿ノ需給關係ニ一大變調ヲ來シ加フルニ一般勞働者ノ思想上ノ變化ハ延テ本市常備汲取人夫及舟夫等ノ取廻シ方ニ就キ一方ナラサル苦心モ有之旁々到底未タ汲取リ順調ニ至ラサルハ勿論ノ儀ニ有之候ヘ共幸ニ部下吏員ノ熱誠ナル努力ニヨリ多少市民ノ苦痛ヲ減シ得候事ト信シ居リ候就テハ甚乍御手数數部下吏員指導督勵ノ參考ニ資シ度候間左記餘白ヘ夫々御記入相成置キ不日係員參上ノ節ハ密封ノ上御返戻相煩度右御依頼旁々得貴意候也 敬白

尿尿汲取實況回答

町衛生組合長

- 一、本年十月下旬以降ト本年九月以前トノ汲取ノ良否比較成績
 - 二、本年十月一日ヨリ現在迄ノ汲取回数及月日(月日ハ推定ニテ差支ナシ)
 - 三、本年十月下旬以降ニ於ケル汲取人夫ノ行動ノ良否
(金品ヲ要求シ、不潔ノ取扱ヲ行ヒ、完全ニ汲取リヲ爲サザリシ等ノ事ナキヤ否ヤ其他御心附ノ事項)
 - 四、本年十月下旬以降ニ於ケル汲取申込(電話、口頭、書面又ハ不淨申込箱ニ投入等)後翌日迄ニ汲取ヲ了セシヤ否ヤ又ハ二回以上モ申込ヲ要セシコトナキヤ否ヤ
 - 五、本年十月一日以降町内受持ノ掃除巡視カ尿尿停滯ノ有無ニ付キ視察又ハ問合セ等ニ來訪シタルコトアルヤ否ヤ其言行懇切ナリシヤ否ヤ
 - 六、町内ニ於ケル尿尿汲取方ニ關スル一般ノ希望、風評等
 - 七、其他尿尿汲取方ニ付テ參考トナルヘキ事項
- 第百二十六 大正十年十二月十四日愛知縣衛生課長ヨリ名古屋市長ヘ左ノ照會タリ
尿尿處分ニ關シ内務省衛生局長ヨリ照會ノ次第モ有之候ニ付左記事項御調査ノ上至急御回報ニ預リ度此段

及照會候也

左記

- 一、硫安肥料製造ニ關スル收支關係
 - 二、作業中生スル廢液ノ量及其ノ處置方法
 - 三、廢液ノ分析試驗成績書
- 右試驗セラレタルコトナケレハ廢液ノ相當量ヲ供試用トシテ送付セラレ度
- 第百二十七 大正十一年一月九日名古屋市長ヨリ愛知縣衛生課長ヘ左ノ通り回答セリ
客年十二月十四日附收第八一五一號ヲ以テ照會ニ係ル尿尿處分ニ關スル件左記ニ依リ御了承相成度候
- 一、尿尿加工ニ關スル硫安壹千貫當、收支計算書

品名	數	單價	金額	摘	要
硫安	一、〇〇〇貫	六〇〇〇	六〇〇〇〇	單價八十貫ニ付	
品名	數 <td>單價 <td>金額 <td>摘 <td>要</td> </td></td></td>	單價 <td>金額 <td>摘 <td>要</td> </td></td>	金額 <td>摘 <td>要</td> </td>	摘 <td>要</td>	要
尿尿	一、一一七、一〇〇	二〇〇〇	二、三〇〇、〇〇〇	尿尿一石ニ付硫安九百匁ヲ得ル見込	
硫酸	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	單價八十貫ニ付	
消石灰	五五、五〇〇	一、〇〇〇	五五、五〇〇	單價八十貫ニ付	
石炭	一九、〇四七	一〇〇、〇〇〇	一九〇、〇四七〇	單價八壹萬斤ニ付	
所要材料其他支出金					

動力費	電燈料	火夫其他	職工給料	包装材料	機械油	防臭劑	消耗品費	合計
九・九三〇	一・九八〇	八〇・九五〇	二・七八〇	二・三八〇	一五・八七〇	二四・一三〇	六〇三・二一〇	
一ヶ月百八拾七圓五拾錢 製造數量一萬八千九百貫	電燈四十三個此電燈料一ヶ月參拾七圓五拾錢 製造數量一萬八千九百貫	火夫四人一人參圓一日拾貳圓、職工十五人 一人當貳圓六拾錢一日當參拾九圓、合計五 拾壹圓、一日當硫安製造高六百三十貫	一吹十五貫 繩所要高一吹ニ付二百匁	一日當一升 一升ニ付金壹圓五拾錢 一日當硫安製造高六百三十拾貫	一日當防臭劑使用高拾圓 一日當硫安製造高六百三十貫	最近ノ實蹟ニ依ル		

差引製品壹千貫當缺損金參圓貳錢

二、廢液ノ處置 石灰其他ノ有機物ヲ充分沈澱セシメ其上澄液ヲ海中ニ放流セシム其數量ハ使用尿尿ニ比シ約二割ノ增量ヲ示セルモノト認ム

三、廢液ノ分析 近ク實行ノ筈ナルモ未タ其ノ運ニ至ラサルヲ以テ別途供試用品ヲ送付シタリ

自十一月尿尿加工實蹟表

鴨浦工場

區分	十月分(硫安製產高)			十一月分(硫安製產高)			合計(硫安製產高)		
	數量	單價	金額	數量	單價	金額	數量	單價	金額
尿尿	三、六〇〇石			七、九六三石			一一、五六三石		
硫酸	六五度二七八 (三、二六六) 五〇度二一七 (一、七九)	四・〇〇〇 七三・二〇〇 二二〇・六〇〇	七三・二〇〇 二二〇・六〇〇	六五度一四三 (一、七四) 六度二七五 (三、三二五) 五〇度八 (八〇)	四・〇〇〇 三・五〇〇 一・八〇〇	五六八・〇〇〇 九六二・五〇〇 一四一・八〇〇	三三・八四〇 三三・五 (三、三二五) 一八六 (一、九八〇)	二、八〇〇 九六二・五〇〇 三三・二二五	二九・六四 二九・六四
消石灰	一、九八〇 (一、六八三)	一五・四〇〇	一五・四〇〇	三、七一 (三、一五五)	八〇	二九六・八〇〇	五、六九 (四、八三六)	四、八三六	五、〇八一
石炭	二六六、五〇〇斤	一、四九八、五〇〇	一、四九八、五〇〇	一、八〇〇斤	三、七六九、〇〇〇	六、八〇〇	四、〇三六、三三三	三、六七五、四三三	四、五八三
動力費		一八七・五〇〇	一八七・五〇〇			一八七・五〇〇	三二・二八四	三二・二八四	四一・〇八一
電燈料		三三・二〇〇	三三・二〇〇			一九・三三〇	三・二七五	三・二七五	五・〇八一
火夫其他	二三人三四	四六・三五〇	四六・三五〇	三〇一人〇	五七九・七七	一七・三三〇	三・二七五	三・二七五	五・〇八一
職工賃	一、九四一、二二〇	四・五〇〇	八、八〇〇	三、三九	四・四〇	一四・九七五	五、三九四	一〇、四〇一	一六・七一九
包装材料	繩 三、八八一、四〇〇	一五・五三三	六〇、五〇〇	七、九八	四・四〇	三二・九二	二、九九九	四、七、四〇〇	二、九〇六
機械油	マシ油 四、五〇〇 内部油 三升 一、九〇〇	一八・〇〇〇 二七・七〇〇	一八・〇〇〇 二七・七〇〇	其他 五、五〇 一、四〇	一、四〇	二二・五〇〇	五、五八九	一三、七〇〇	六・〇八一
消耗品費		一三〇・五〇〇	一三〇・五〇〇			一四四・二二〇	二四・〇五九	二四・〇五九	三〇・八八一
合計		三、七三三、七三〇	三、七三三、七三〇			五、二四五、六九〇	八七五、三三八	六、〇二一、〇七〇	九七六、四七三
硫安	一、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	一、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇

備考

一、機械油消耗品ノ使用高及一般單價ハ請負人ノ口述ニ依リ計上シタリ
 二、直營實施後ニ屬スル十月ヨリ十一月ニ至ル實蹟ハ本表ノ如クナルモ其當初ニ於テ分配罐始メ化合機等ノ修理改作ニ從事シツ、アリシ折柄稀有ノ暴風雨ニ遭遇シ之カ復舊ニ十數日ヲ費シ漸ク作業開始ノ處機械ノ調節不充分ナルノミナラス原料ノ拂底又ハ材料品ノ供給圓滿ヲ缺ク等幾多ノ蹉跌ヲ來シ爲メニ石炭ノ消費量ヲ多大ナラシムルアリ事業經營上頗ル不經濟ニ陥リ之ヲ以テ標準トナスニ足ラサレトモ參考トシテ添付シタリ

第二百二十八 大正十一年一月三十日名古屋市衛生課長ハ市内各衛生組合長ヘ左記ノ通り通牒セリ

拜啓愈々御清安本市衛生ノ爲御盡瘁相成候段感謝ノ至リニ不堪候陳者昨年來各地ニ頻發シタル地主小作關係紛爭ノ結果現ニ本市附近農村耕地ノ約二、三割ハ全ク耕作者定マラス荒廢ノマ、放任シアリ斯カル急轉直下ノ實狀ハ到底從來ノ如ク尿尿ヲ有價物トシテ營利會社ニ依托處分セシメ難キ儀ト信シ候因テ本市ハ來ル四月一日以降ハ現在本市尿尿ノ約三分ノ二ヲ請負販賣ヲ爲シツ、アル興農株式會社及愛知肥料購買合資會社トノ間ニ豫テ締結シアリタル契約ヲ解除シ更ニ郡市町村農會又ハ其他ノ團體ニ相當條件ヲ附シ無償ニテ希望ニ依リ所要區域ノ尿尿ヲ汲取處分セシメ殘餘ノ過剩區域ハ市直營ヲ以テ疏安其他ノ加工ヲ營ム計畫立案中ニ有之候處勞銀依然低下セサル爲之カ汲取運搬人夫賃ニ尠カラサル經費ヲ要シ候間可成此ノ直營區域ヲ減少セシメ度希望ニ付先般工場、會社、學校、官公署、劇場、料理店等尿尿排泄多キ個所ヘ別紙ノ如キ尿尿淨化裝置設備ノ勸誘狀ヲ發シ且ツ本市ニ於テモ理想的淨化裝置ヲ増設スル計畫ヲ立テ同時ニ又遠隔ノ地ヘ輸送シ得ル諸種ノ肥料ヲ試作スル等努メテ尿尿ノ需給關係ヲ調節シツ、アル次第ニ有之候ヘ共何分

本市財政ノ現狀ハ未タ徹底的ノ根本處分法ヲ直ニ實施致シ難キ事情モ有之遺憾此ノ事ニ候就テハ貴組合ニ於テ町内ノ尿尿ニ限リ何等カ御處分ノ途有之御回示被成下候ハ、幸甚ノ至ニ候

先ハ右今後ノ應急ノ尿尿處分豫定計畫ノ概要御報旁々得貴意度斯如ニ御座候

追而右ニ關スル根本的方法ニ就テハ更ニ進ンテ講究計畫中ニ付キ近キ將來相當具體化スル見込ニ有之候

間爲念申添候 敬白

大正十一年一月三十日

町衛生組合長殿

記

名古屋市衛生課長 金原庄治郎

拜啓寒氣格別嚴敷候折柄益々御清穆奉賀候却說本市ノ尿尿汲取ハ近年特ニ著ク圓滑ヲ失シ到底從來ノ如ク完全ナル汲取ヲ爲ス能ハス甚タ遺憾ニ不堪候其ノ原因ハ種々有之候ヘ共就中市ノ發展ニ伴ヒ年々市内ノ尿尿量増加スルニ反シ需要地タル市附近ノ耕地ハ工場ニ變シ或ハ住宅ト化シ漸次減少シ加フルニ之等ノ方面ヨリ排泄セラル、尿尿ハ距離ノ關係上農家ノ供給ニ便ナル結果一層市内ノ尿尿汲取ニ惡影響ヲ及ホスノ已ムヲ得サル實況ニ有之候尙近年都市附近ニ於ケル農民ハ經濟上農閑期ニ於テハ努メテ市内ニ於ケル勞働ニ從事シ是ニ因リ得タル勞銀ノ一部ヲ割テ尿尿ニ代フルニ人造肥料ノ購入ニ充ツルヲ有利ナリトシ且ツ農村ニ於ケル青年ハ一般農作ヲ嫌忌シ都市ニ於ケル勤勞生活ニ轉移セント欲スル思想上ノ變化モ加ハリ最近各地ニ於ケル地主對小作問題ノ頻發スル等ノ結果現在市内ニ於ケル尿尿量一日約二千五百石ニ對シ農民ノ汲取ハ自家肥料ト爲スモノ約一千五百石ニ過キス殘餘ノ約一千石ハ全ク一定ノ汲取人無之隨テ是等ノ過剩分ニ對シテハ本市ニ於テ多額ノ勞銀ヲ支拂ヒ人夫ヲ僱用シ極力汲取ニ努ムト雖之レニ要スル經費ハ甚タ少カラサル額ト相成而モ汲取リタル尿尿ハ本年十月以來曩年本市カ尿尿市營ノ安全辦トシテ建設シタル鴨浦工場ニ於テ疏安製造ヲ爲シツ、アルモ製品ノ暴落ト勞銀ノ高騰トハ尠カラサル欠損ヲ覺悟セサル可カラサル

ノミナラス尿尿量ノ増加ハ無限ナルニ反シ加工作業ノ能力ハ有限ナルニ想到セハ尿尿調節機關トシテ甚々微弱ナルモノニシテ之ヲ永久ニ持續スル能ハサルハ明白ナル實狀ニ御座候サレハ都市ニ於ケル尿尿ノ根本政策トシテハ是レヲ從來ノ如ク生肥トシテ農家ニ供給シ又ハ年々多額ノ經費ヲ要スル加工事業ノ如キハ之レヲ避ケサル可カラス勢ヒ歐米都市ノ如ク特殊ノ沈澱濾過池ヲ有スル下水管ニ放流スルカ又ハ海中拾數渾ノ沖合ニ放棄スルノ方法ニ據ラサル可カラサルコト、愚考致居候現在本市ノ如キ何等裝置ナキ下水管ニ其儘放流スルカ如キハ衛生上甚々寒心ニ不堪候然リト雖此裝置ヲ實施センニハ工費トシテ約四百萬圓ノ巨額ヲ投セサルヘカラス市財政ノ現狀ハ到底差當リ實現ノ見込無之遺憾此事ニ御座候

最近東京警視廳ニ於テ尿尿壺ヲ改造シ水洗式ト爲シ自然淨化裝置ヲ施ス場合ハ下水管ニ放流スルモ妨ケナシトノ新例ヲ得既ニ東京、大阪等ニ於ケル商店、工場、會社ニ於テハ續々之レカ工事ニ着手シ各自尿尿問題ヲ解決セラレツ、アルハ眞ニ時機ニ適シタル處置ト信シ候當市ニ於テモ遞信局南分局、日ノ出軒、渡邊義郎氏邸等ニ於テハ已ニ此裝置完成セラレ又明治銀行及稻山女學校ニ於テハ最近此裝置ニ着手セラレテ自家ノ保清ト同時ニ衛生上合理的設備ヲ施サル、ハ尿尿處分上最モ都合ト存居候貴組合ニ於カセラレテモ此ノ際之レカ處分方ニ就キ篤ト御考慮ヲ費サレ相當施設ヲ加ヘラレ無臭無害ノ汚水ニ變化セシメ以テ汲取ノ勞費ヲ省クト同時ニ衛生上極メテ安全ナルコトニ御留意相煩度茲ニ本市尿尿ノ現狀ヲ御報旁々得貴意候也

追テ市モ將來所屬學校、公設便所等ニ右淨化裝置ヲ應用致度目下計畫中ニ有之尙最近市役所構内ニ新築シタル公設便所ニ城口式自然淨化裝置ヲ又憲兵隊橫公設便所ニ西原式自然淨化裝置ヲ應用致シ候ニ付御序ノ節御檢分相成度申添候

大正十一年一月 日

名古屋市衛生課長 金 原 庄 治 郎

第二百二十九 大正十一年二月一日名古屋市長ハ水面使用ノ件ニ付愛知縣知事ヘ左ノ通り申請セリ

發衛第二七號

大正十一年二月一日

名古屋市長 大喜多寅之助

愛知縣知事 川 口 彦 治 殿

名古屋港内南區熱田神戸橋南方紀北橋ト紀南橋ノ間ニ該當スル防波堤西側ノ水面地帶別紙略圖朱書ノ通り

- 一、水面ノ面積 四百四十坪(長五十五間、幅八間)
- 一、占用ノ目的 尿尿船繫留用
- 一、無料占用
- 一、占用期間 大正十一年二月十日ヨリ大正二十一年二月十日ニ至ル向十ヶ年間

右ハ本市ノ經營ニ係ル鴨浦工場へ兩堀川ニ據リ硫酸原料ニ充當スヘキ尿尿ヲ船積トナシ輸送致居候處該船舶ノ繫留場施設ナキタメ輸送上頻ル困難ヲ極メ居リ候間無料占用ノ儀御許可相成度此段及申請候也

追テ繫留場ノ施設ニ對シテハ別紙圖面朱點ノ箇所ニ二斗樽大ノ浮標八箇ヲ適當ノ間隔ニ排列スヘク而シテ各箇毎ニ徑一寸ノ「マニラロープ」ヲ以テ二箇ノ錨ヲ結束シ重トナシ海底ニ沈メ置ク施設ヲシ以テ表識トナスモノトス

第三百三十 大正十一年二月一日尿尿汲取運搬契約解除ノ件左記ノ通り本市市會ノ決議ヲ經タリ
大正十一年第三十四號議案

尿尿汲取運搬契約解除ノ件

左ノ各契約ヲ大正十一年三月三十一日限り解除ス

- 一、明治四十五年六月十七日附本市ト興農株式會社間ノ尿尿汲取運搬契約
 - 一、大正三年七月二十七日附本市ト愛知肥料購買合資會社間ノ尿尿汲取運搬契約
 - 一、大正九年三月三十一日附本市ト名古屋肥料合名會社間ノ尿尿汲取運搬契約
- 大正十一年二月一日提出 名古屋市長 大喜多寅之助

第三百三十一 大正十一年二月一日尿尿無償汲取契約ニ關シ左記ノ通り本市市會ノ決議ヲ經タリ
大正十一年第三十五號議案

尿尿汲取契約ノ件

本市内ニ於ケル尿尿ハ別紙條件ニ依リ無償汲取契約ヲ隨意締結スルコトヲ得
大正十一年二月一日提出
名古屋市長 大喜多寅之助

(別紙) 尿尿汲取契約條件

- 一、契約ノ相手方ハ郡市町村農會其他ノ團體タルコト
- 二、契約保證金トシテ相當金額ヲ納付セシムルコト
- 三、汲取ヲ怠リタル場合ハ市ニ於テ代執行ヲ爲シ其費用ヲ負擔セシムルコト
- 四、汲取掃除ヲ完全ニ勵行セシムルコト
- 五、市ノ都合ニ依リ區域ノ増減及契約解除ヲ爲シ得ルコト

第三百三十二 大正十一年二月十三日名古屋市長ハ市内各警察署長ヘ左ノ依頼書ヲ差出セリ

客年來本市ノ尿尿ハ市ノ發展、耕地減少、農民ノ思想變化等種々ナル原因ニ依リ著シク過剩ヲ來シ之レカ處分其他ニ關シ目下極力考慮實行中ニ有之候處一面之レカ汲取人ニ在テハ此機ニ乘シ種々ナル事柄ヲ構ヘテ市民ヨリ金品ヲ強要スル者日々増加ノ傾向ニ有之本市ニ於テモ極力之レカ取締中ニ有之候ヘ共到底其弊ヲ除去シ難ク斯クテハ倍々其脅威ヲ逞フセシメ本市ノ尿尿政策上ニ至大ノ惡影響ヲ及ホスノミナラス延ヒテ社會風教上ニ及ホス惡影響實ニ寒心ニ堪エサルモノ有之候就テハ御多用中恐入候ヘ共本件ニ對シ取締方特ニ御配意相煩シ度此段及御依頼候也

第三百三十三 大正十一年二月十五日名古屋肥料合名會社ヨリ尿尿代金免除ニ關シ左ノ歎願書ヲ提出シ來レリ
歎願書

當會社儀名古屋御處分權ニ屬スル尿尿汲取ヲ請負之ヲ販賣スル目的ヲ以テ大正八年八月二十二日資本金貳千圓ヲ以テ設立致シ大正八年度ヨリ尿尿汲取ヲ契約之ヲ販賣セシニ同年度ニ於テ金貳百參拾六圓貳拾參錢ノ缺損ヲ生シタリ然レトモ是全ク營業方法ノ未熟ト存シ大正九年度ニ於テハ極力研究勉勵仕候處該年度モ又々大失敗ニ終リ金壹千八百九拾七圓九錢ノ缺損ヲ醸シ爲ニ基本ノ資金モ全部消失致候モ尙方法未熟ノ結果ト確信シ更ニ金壹千圓ヲ増資シ大正十年度モ大イニ奮勵致候處不幸ナル哉農民ノ思想ハ漸次無價物ノ人氣ニ轉換致シ爲メニ如何ナル督促ヲナスモ言語ヲ左右ニ托シテ約束ノ尿尿代金ヲ支拂ハス荏苒今日ニ立至リ爲メニ會社ハ愈窮地ニ陥リ折角ノ増資金モ忽チ雲散霧消ト申ス有様ニテ自然市ニ上納スヘキ尿尿契約代モ納ムヘキ金員ナキタメ今日迄未納ト申ス不都合ナル所爲ト相成誠ニ恐縮ノ次第ニ御座候就テハ如何ニ思慮仕候モ全ク人氣大勢ノ轉換ニテ今日ノ場合如何ニ盡力仕候モ尙到底約束ノ尿尿代金ハ將來徵收方覺束ナキ様恐察仕候ニ付何卒篤ト現況御調査ノ上特別ノ御詮議ヲ以テ大正十年度契約尿尿代金御免除被成下度此段奉願候也

大正十一年二月十五日

名古屋肥料合名會社

代表者 平野竹四郎

名古屋市長代理 助役 山崎林太郎殿

第三百三十四 大正十一年二月十六日興農株式會社ヨリ左ノ損害金控除願書ヲ提出シ來レリ

損害金控除願

明治四十五年六月十七日貴市ト本會社トノ間ニ尿尿汲取契約ヲ締結シ其當時ハ殆ント全部ノ尿尿ヲ名古屋市附近ノ農民ヲシテ汲取ラシメ來リ候處市ノ發展ニ伴ヒ大正六年ニ至リ尿尿ノ需給關係ハ逐次供給超過ノ傾向ヲ帶ヒ來リタルヲ以テ大正七年日本人造肥料會社ヲシテ換算人員約二萬五千人分加工處分ヲ施サシメ以テ辛フシテ需要關係ノ調節ヲ圖リタルニ翌八年七月ニ至リ該會社ハ加工事業ノ收支相償ハサルヲ以テ尿

尿賣買契約ノ解除ヲ申出テタリ時恰モ人夫賃金高騰ノ折柄トテ其實情已ムヲ得サルモノアルヲ認メ本會社ハ終ニ之ヲ承認セサルヘカラサルニ至リ而シテ其部分ノ尿尿ハ已ムヲ得ス料金ヲ低減シテ大正九年三月迄ヲ期限トシ一時農民ヲシテ汲取ラシムルノ窮策ヲ施シ以テ局面ヲ彌縫シタリト雖モ是レ元ヨリ臨機ノ處置ニシテ永久的ノ策ニ無之從テ尿尿供給超過ノ趨勢ハ一層其度ヲ高メ加フルニ大正九年後半期ニ至リ諸物價低落ノ傾向ヲ生スルヤ之ヲ奇貨トシ尿尿料低減ノ聲漸ク汲取人ノ間ニ喧シク從ツテ會社經營ノ困難モ亦漸次大ナラントスルノ状態ニ陥リ爲ニ大正九年度ニ於ケル尿尿料徴收不能ニ終リシモノ金壹萬參百九拾七圓餘ニ上リ而モ倍々惡化ノ兆アルヲ以テ本社ハ再三貴市ト交渉ヲ重ネ大正十年三月ニ至リ貴市ト協定ノ上本會社ハ更ニ換算人員約二萬二千人分ノ尿尿ヲ本社自ラ加工シ之カ調節ニ勉メタルモ未タ完全ナル需要調節ノ域ニ達セサルノミナラス加工事業ノ損害ハ實ニ莫大ニシテ僅カニ六ヶ月ニシテ貴市補給金五千四拾貳圓七拾貳錢以外ニ金壹萬五千壹百八拾參圓八拾四錢ノ缺損ヲ生シ到底微力ナル本社ノ堪ユル處ニ非ラス尙加フルニ一方農民ヨリハ續々汲取解除ヲ申出テ同年七月ニ至リ既ニ農民ノ汲取解除シタルモノ七千六百六十餘戸ニ達シ其人員一萬七千八百九十九人ノ過剩ヲ生シ之レカ汲取處分ノ人夫賃金トシテ毎月平均貳千參百參拾貳圓ヲ要シ僅カニ六ヶ月間ニシテ實ニ壹萬參千九百九拾四圓餘ヲ費消シタルモ猶安全状態ニ達セス終ニ尿尿市營ノ根柢ヲ破壞スルノ恐レアルヲ以テ大正十年六月十六日附ニテ之レカ維持策トシテ過剩尿尿及本社自營ノ加工事業ヲ貴市ニ於テ直營加工セラレタキ旨歎願スルノ已ムヲ得サルニ至リ貴市ニ於テハ事態甚タ險惡ナルヲ以テ直チニ十月一日ヨリ直營加工セラレタル事ト相成本社ハ尿尿貯溜場及尿尿運搬船竝ニ尿尿積込場ノ建設物等無償貸與シテ之レカ援助ニ努メタリ然ルニ市ハ加工汲取人夫ヲ主トシテ農民ヲ使役セラレタルヲ以テ農民ハ尿尿供給超過ノ真相ヲ知り而カモ狡猾ナル輩ハ一方ニ於テ相當ノ勞銀ヲ得タル上尙尿尿無料汲取ノ惡習ヲ味ヒタル際搗テテ加ヘテ郡農會及町村農會ヨリハ無料汲取ノ希望ヲ徴シツツアルヲ以テ尿尿ハ全ク無價物ト化シ其結果ハ直チニ本社ノ營業状態ニ反映シ既ニ本社カ發行シタル本年上半期尿

尿料四萬壹千參百五拾五圓餘ニ對シ辛フシテ領收シタルモノ壹萬六千壹百六拾七圓餘ニ過キス然カモ近來農家ノ状態ハ經濟ノ根本タル米作ハ數十年來稀有ノ不作ニシテ唯一ノ副業タル養蠶ハ昨年來不振ヲ重ネ農家購買力ノ衰退ハ克ク其窮況ヲ物語ルモノニシテ既ニ小作料モ半作内外ニ減額セラレタル折柄ナレハ之レカ肥料ニ供シタル尿尿料ノ如キハ輕々ニ附シテ支拂ハサル状態ニ有之候是レ實ニ天災地變ト一般殆ント不可抗力ニ有之候得ハ前記ニ列記セシ諸損害ハ孰レモ尿尿汲取契約第十一條ノ正當ノ理由ニ因ル損害ニ付御承認ノ上納付金ヨリ御控除相成度此段相願候也

大正十一年二月十六日

興農株式會社
取締役社長 堀 尾 茂 助

名古屋市長代理 助役 山崎林太郎殿

種 目	金 額	備 考
九年度徴收不能	一〇、三九七、五〇〇	
十年度上半期徴收不能	二五、一八九、九一〇	
同 下 半 期 分	約二五、〇〇〇、〇〇〇	
臨時停滯人夫賃	一三、九九四、〇〇〇	
合 計	七四、五八一、四一〇	市ノ代理執行以前ノモノ

御買上ヲ受クヘキモノ

種 目	新設金額	備 考
船 隻	一、二〇〇・〇〇〇	
積 込	二、七三四・九一〇	
計	三、九三四・九一〇	
種 目	控除確定ノモノ	
種 目	控 除 金 額	備 考
加工損害金	五、〇四二・七二〇	
浸水汲取人夫賃	一、〇三五・六〇〇	
水槽便所及ヒ自家用	六六二・〇〇〇	
計	六、七四〇・三二〇	見 込 額

第三百三十五 大正十一年二月二十日愛知肥料購買合資會社ヨリ尿尿代金免除ニ關シ左記歎願書ヲ提出シ來レリ

歎 願 書

本會社ハ大正三年愛知硫酸肥料株式會社汲取不可能ニヨリ尿尿問題ノ一大紛擾ニ際シ該問題ヲ救濟ノ意味ニ於テ石川久兵衛氏專ラ盡力セラレ僅ニ壹萬圓ノ資本ヲ以テ設立ナシ御市ニ保證金六千圓ヲ提供シ殘餘ノ資金ヲ以テ事務所ヲ開始シ事務所費ノ如キモ一切借入金ヲ以テ處辨シ農民ヨリノ集金季節ニ於テ返濟シ來リシモノニシテ表面上會社組織ナルモ内實ハ純然タル組合組織ニシテ只管市民農民ノ便益ヲ圖ル目的ヲ以

テ設立シタル會社ニ有之候初年度ニ於テハ徵收料金ヨリ事務費ヲ控除シタル殘金ヲ納付致シ爾來比較的順調ニ營業ヲ繼續シ來リ候處九年度ニ至リ當時市近郊町村ノ膨脹發展非常ナルモノアリ大會社ノ工場日ヲ次キテ起リ爲メニ農民ノ大部分ハ其ノ尿尿ノ供給ヲ之等近クニ求メテ當會社ニ契約解除ヲ申込ムモノ頗ル多ク之カ料金徵收不可能トナリ終ヒニ同年度ニ於テハ前年度ニ比シ換算人員一萬二千六百十二人ノ解約ヲ見ル多ニ至リ尿尿料金七千五百六拾七圓貳拾錢ノ減收トナリ之ニ對スル臨時汲取人夫賃亦參千貳百參拾圓ノ額ノ支拂ヲ餘儀ナクセシメラレ終ヒニ決算上八千八百圓ノ缺損ヲ見ルニ至リ殆ント資本金ノ九分通りヲ失ヒ止ムナク御市ニ對シ口頭ヲ以テ解約方ヲ申出テ候モ御市ニ於テハ納付金ニ付テハ如何様ニモ取計フモ先以テ誠心誠意事業ノ經營ニ盡力ス可キ旨申サレ此處ニ料金延納方ヲ願出尙御市ノ御忠告ニヨリ一月ヨリ加工開始致ス可ク努力仕候モ日本人造肥料株式會社ノ加工場解約抄ラス漸ク四月一日ヨリ興農株式會社ト共同加工開始致シ本社ハ換算人員一萬七千人分ノ尿尿ヲ本社自ラ加工シ之レカ調節ニ勉メ候モ未タ完全ナル調節ノ域ニ達セサルノミナラス加工事業ノ損害夥シク僅カニ六ヶ月間ニ壹萬有餘圓ノ損害ヲ蒙リ微力ナル當社ノ到底堪エ得ル所ニアラス一方農民ヨリハ續々汲取解約ヲ申込來リ此ノ状態ニテハ終ニ尿尿市營ノ根柢ヲ破壊スル怖レアルヲ以テ大正十年六月十六日附ヲ以テ之レカ維持策トシテ過剩尿尿及本社直營ノ加工尿尿ヲ御市ニ於テ直營加工セララルノ止ムヲ得サル旨歎願致候處御市ハ直チニ十月一日ヨリ直營加工セララル事ト相成リ本社ハ尿尿貯溜所及ヒ之レニ要スル器具機械ヲ無償ニテ貸與シ之レカ援助ニ勉メ候處尿尿ノ引締ナキタメ農家ヨリ汲取解約ヲ申込ムモノ益々多ク隨テ臨時停滯數甚タシク搗テテ加ヘテ料金徵收ハ全ク不可能トナリ一方農家ノ状態ハ經濟ノ根本タル米作ハ數十年來稀有ノ不作ニテ唯一ノ副業タル養蠶亦昨年來不振ヲ重ネ農家ノ購買力ノ衰退ハ良ク其ノ窮狀ヲ語ルモノニ有之既ニ控米スラモ半減セラレタル折柄ニ候ヘハ之レカ肥料ニ供シタル尿尿ノ代金ノ如キ輕々ニ附シテ支拂ハサル状態ニ有之是レ實ニ天災地變ト一般殆ント不可抗力ニ有之候隨ツテ汲取契約第十四條ノ正當ノ理由ニ因ル損害ノミニテ別表列記ノ如キ

龍大ナル損失ヲ蒙リ當會社ニ於テ最早如何トモ爲シ能ハサルノ状態トハ相成候此處ニ當會社カ窮狀ヲ逐一具申シ御市未納付金御免除ヲ歎願スルノ止ムナキ次第ニ御座候尙御聞キ届ケノ上ハ微力ナカラ社員一同誠心誠意之レカ事業ニ盡力致スヘク候條何卒右事情諒察ノ上滯納金御免除相成度此段奉願上候也
大正十一年二月二十日
名古屋市中區古澤町一丁目四番地
愛知肥料購買合資會社

名古屋市長代理 山崎林太郎殿

社 長 石川久一郎

年 度	一、契約人員減少ニ因ル損害		八年度ト比較シタル差額	損害金額
	契 約 人	契 約 料 金		
大 正 八 年 度	八六、七一四 ^人	八六、七一四 ^円		一、七四一 ^円 ・八〇〇
大 正 九 年 度	八三、八一 ^一	八三、八一 ^一		一六、〇一七 ^円 ・〇〇〇
大 正 十 年 度	六〇、〇一九	六〇、〇一九		一七、七五八 ^円 ・八〇〇
合 計				三、〇七三

年 度	一、料金徴收不能ニ因ル損害			同上換算人員
	契 約 料 金	收 納 金 額	損 害 金 額	
大 正 九 年 度	五〇、二八四 ^円 ・四七〇	四四、四六一 ^円 ・一四〇	五、八三五 ^円 ・三三〇	九、七九 ^人
大 正 十 年 度	三六、〇一一 ^円 ・一六〇	三三、七六八 ^円 ・一八〇	一三、二四三 ^円 ・九八〇	三、〇七三

計

八六、二九七・六三〇

六七、三九・三三〇

一九、〇六八・三二〇

三、七六一

一、臨時停滯汲取人夫賃ニ因ル損害

臨時停滯汲取ニ要シタル金額

大 正 八 年 度
大 正 九 年 度
大 正 十 年 度
合 計

三、二三〇・〇〇〇^円
一九、三四七・九五〇
二二、五七七・九五〇

一、損害金合計表

年 度	一、損害金合計表		合 計
	契約人員減少ニ因ル損害	料金徴收不能ニ因ル損害	
大 正 九 年 度	一、七四一 ^円 ・八〇〇	五、八三五 ^円 ・三三〇	八、五七六 ^円 ・一三〇
大 正 十 年 度	一六、〇一七 ^円 ・〇〇〇	一三、三四三 ^円 ・九八〇	四八、六〇七 ^円 ・九三〇
合 計	一七、七五八 ^円 ・八〇〇	一九、〇六八 ^円 ・三二〇	五九、四〇五 ^円 ・〇六〇

大正十年(自一月一日至十二月末日)一ヶ年間決算書

一、貸借対照表

資 産 部

地 所

一五、〇一七・四八〇

什

器

三、六八三・九〇〇

一九三

家屋造作	一、一三二、六一五	尿溜	二、一三二、〇六〇
貯溜尿	四、八八〇、〇〇〇	保證金	六、〇〇〇、〇〇〇
未收尿料金	一四、三〇七、七一五	未收預金利息	三六〇、〇〇〇
現在金	二一七、四二〇	前期繰越缺損金	八、八四六、三二五
本期間缺損金	三九、四四一、〇一五	合計	九六、〇一八、五三〇
資本	一〇、〇〇〇、〇〇〇	積立金	二、四七二、五七〇
保證金	七五八、三一〇	借入金	三二、八八八、六四〇
未拂配當金	一〇五、一一〇	未納市納付金	四八、七一五、一六〇
未拂徵收手數料	二〇〇、〇〇〇	未拂雜費	三六二、五〇〇
未拂臨時汲取費	五一六、二〇〇	合計	九六、〇一八、五三〇
一、損益計算書		預金利息	四六四、九七〇
利益	三四、〇七五、八九五	雜收入	五二、九四〇
雜益	一、九九八、三五〇	合計	七六、〇三三、一七〇
本期間缺損金	三九、四四一、〇一五	支拂利息	一、五〇五、三一〇
損失	四〇、四〇〇、〇〇〇	總會費	五八四、三〇〇
市納付金	七五九、六七〇	借家料	一二五、〇〇〇
諸信費	一三一、九三〇	旅費	八七、七四〇
徵收手數料	四三〇、〇〇〇	諸給與	四二五、〇〇〇
給料及手當	五、五一九、三〇〇	雜損	三四一、〇三七五
賄料	一九九、九九五	臨時汲取費	一九、三四七、九五〇
雜費	一、七五六、二七〇	尿溜償却金	五五〇、〇〇〇
什器償却金	六七五、二三〇	合計	七六、〇三三、一七〇
家屋造作償却金	一二五、〇〇〇		

備考 尙本年一月ヨリ三月末日迄ノ三ヶ月間臨時汲取費營業費約六千圓並ニ貸借對照表ノ未收尿料金
 壹萬四千參百七圓七拾壹錢五厘ノ内壹萬壹千參百七圓七拾壹錢五厘ハ本月ニ至ルモ未納ノモノニシテ
 徵收不可能トナルトキハ缺損ニ加ハルモノナリ

大正三年自九月至十二月	八、八八八、八九〇	大正四年度	二六、六六六、六六〇
大正五年度	三四、四四四、四四〇	大正六年度	三六、〇〇〇、〇〇〇
大正七年度	四〇、〇〇〇、〇〇〇	大正八年度	四〇、〇〇〇、〇〇〇
大正九年度	内金三〇、〇九九、九九〇	大正十年度	未納 四〇、〇〇〇、〇〇〇

第百三十六 大正十一年三月三日名古屋市長ハ愛知縣知事ヘ左ノ申請書ヲ提出セリ
 原動機検査證書書換申請

名古屋市南區稻永新田 鴨 浦 工場
 右者從來興農株式會社、愛知肥料購買合資會社ヘ貸與中ノ處今同返還致候ニ付原動機取締規則第十八條ニ
 依リ検査證ノ書換相成度曩ニ御交付相成候検査證相添此段申請候也
 第百三十七 大正十一年三月三日名古屋市長ハ愛知縣知事ヘ左ノ變更屆書ヲ提出セリ

工業主變更屆

名古屋市南區稻永新田 鳴浦工場

右者從來興農株式會社、愛知肥料購買合資會社へ貸與中ノ處今回本市直營ヲ以テ作業繼續可致候間工場寄宿舎及附屬建設物取締規則第十四條ニ依リ此段御届候也

大正十一年三月三日 前工業主 興農株式會社

大正十一年三月三日 工業主 名古屋市長 大喜多寅之助

愛知縣知事 川口彦治殿

第三百三十八 大正十一年三月十六日名古屋市長ハ市會ノ決議ヲ經タル屎尿汲取運搬契約解除ノ件左記ノ通り通牒セリ

大正十一年三月十六日 名古屋市長 大喜多寅之助

(其一) 興農株式會社々長宛

明治四十五年六月十七日附本市ト貴社間ニ締結セル屎尿汲取運搬契約ハ大正十一年三月三十一日限り該契約書第十二條ニ據リ解除可致候條御了承相成度候

(其二) 愛知肥料購買合資會社々長宛

大正十一年七月二十七日附本市ト貴社間ニ締結セル屎尿汲取運搬契約ハ大正十一年三月三十一日限り該契約書第十一條ニ據リ解除可致候條御了承相成度候

(其三) 名古屋肥料合名會社代表者宛

大正九年三月三十一日附本市ト貴社間ニ締結セル屎尿汲取運搬契約ハ大正十一年三月三十一日限り該契約書第九條ニ據リ解除可致候條御了承相成度候

第三百三十九 大正十一年三月十七日名古屋市長代理助役ヨリ遞信局海事部へ鴨浦丸航路變更並ニ田子浦丸定期検査申請書ヲ提出セリ

航路定限變更認可申請書

發動機船 鴨浦丸 本船番號 船鑑札三九〇六

所有者住所氏名 名古屋市役所 船籍港 名古屋市

總噸數 一五三噸 船長氏名及種類 乙種二等運轉士

航行ル航路 新三河國伊良湖崎ヨリ志摩國菅島ニ至ル線内 西口音藏

右船舶航路變更ノ上使用致度候ニ付御認可相成度此段申請候也

大正十一年三月十七日

名古屋市長代理

名古屋市長代理 山崎林太郎

名古屋遞信局海事部御中

發衛第一〇三號

船舶第十七回定期検査申請書

汽船 田子浦丸 本船番號 船鑑札三九〇一

所有者住所氏名 名古屋市役所 船籍港 名古屋市

總噸數 一〇噸 船長氏名及種類 乙種二等運轉士

航行ル航路 三河國伊良湖崎ヨリ志摩國菅島ニ至ル線内 西口音藏

検査スル期日 大正十一年五月二日 検査スル場所 名古屋

検査申請事由 定期検査ニ付

右御検査相成度船舶検査手帳相添此段申請候也

大正十一年三月十七日

名古屋市長代理

一九八

名古屋市長代理 山崎林太郎

名古屋遞信局海事部御中

第四百十 大正十一年三月二十七日愛知肥料購買合資會社ヨリ納付金免除ニ關シ左ノ通り追願書ヲ提出シ來レリ

納付金免除追願書

大正十一年一月ヨリ三月ニ至ル尿尿料金ハ市農會ヨリ無料宣傳以後農民ニ於テハ尿尿料金ヲ納付スルノ意志更ニ無之料金納入通知書ヲ發送スルモ到底徵收ノ見込更ニ無之臨時尿尿停滯汲取人夫賃ノミニテモ一月ヨリ三月末日迄ニ金五千有餘圓ノ莫大ナル支出ヲ要シ之レカ辨濟ニモ窮シ居リ候狀態ニ有之候條何卒右事情御諒察ノ上曩ニ免除歎願申上候滯納金ト共ニ本年三ヶ月分ノ納付金全免ニ預リ度此段及懇願候也
大正十一年三月二十七日
名古屋市中區古澤町一丁目四番地
愛知肥料購買合資會社

社 長 石川久一郎

名古屋市長代理 山崎林太郎殿

大正十一年自一月至三月 尿尿料金契約額

農家ト契約額

同上ニ對スル會社領收金

大正十一年自一月至三月

七、一五三、八五〇

ナ

第四百十一 大正十一年三月三十一日名古屋市長代理助役ハ鴨浦工場硫酸製造作業請負及硫酸拂下ニ付左ノ契約ヲ締結セリ

契約書 (其一)

一、鴨浦工場ニ於ケル硫酸製造作業請負

右硫酸製造作業ニ付名古屋市長ヲ甲トシ請負人堀傳次郎ヲ乙トシ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 乙ハ名古屋市長ノ設置セル鴨浦工場ニ於テ甲ノ指揮命令ニ從ヒ尿尿ヲ以テ硫酸製造竝ニ包裝ニ必要ナル火夫、職工、石炭、硫酸、消石灰、機械油其他消耗品ヲ提供シ作業ニ從事スルモノトス

第二條 甲ハ前條作業ノ代償トシテ硫酸製品十貫毎ニ左ノ標準ニ依リ乙ニ其代金ヲ支拂フモノトス

(一) 一ヶ月製品總量一日平均二百貫未滿ノ場合ハ金八圓

(二) 一ヶ月製品總量一日平均三百貫未滿ノ場合ハ金七圓

(三) 一ヶ月製品總量一日平均四百貫未滿ノ場合ハ金六圓五拾錢

(四) 一ヶ月製品總量一日平均五百貫未滿ノ場合ハ金六圓

(五) 一ヶ月製品總量一日平均六百貫未滿ノ場合ハ金五圓五拾錢

(六) 一ヶ月製品總量一日平均六百貫以上ノ場合ハ金五圓

第三條 前條ノ支拂金ハ甲ニ於テ其翌月算定シ之レヲ乙ニ支拂フモノトス

第四條 乙ハ契約履行ノ保證金トシテ金五百圓ヲ本契約締結ノ日ヨリ十日以内ニ甲ニ納付スルモノトス

但シ國債證券ヲ以テ代納スル場合ハ五分利附ノモノニ對シテハ額面壹百圓ヲ八拾圓ニ四分利附ノモノニ對シテハ額面壹百圓ヲ七拾圓ニ換算ス

第五條 乙ニ於テ本契約條項中不履行ノ場合ハ違約金トシテ前條保證金ヲ甲ノ所得トス此場合ハ甲ヨリ乙

ニ對シ保證金沒收ノ通知ヲ爲スノミヲ以テ足ル尙本契約條項中不履行ニ依テ生シタル甲ノ損害ハ乙賠償

ノ責ニ任スルモノトス

第六條 本契約期間ハ大正十一年四月一日ヨリ大正十一年九月三十日迄トス

第七條 乙ニ於テ本契約不履行ノ場合ハ甲ハ何時ニテモ解約スルコトヲ得

一九九

但シ一週間以前ニ乙ニ對シ之レカ豫告ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テ乙ニ損害アルモ甲ニ對シ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス
第八條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ甲ノ意見ニ從フモノトス
本契約ヲ證スル爲メ契約書二通ヲ作り各一通ヲ所持スルモノトス
大正十一年三月三十一日

名古屋市長代理 山崎林太郎
名古屋市助役 堀傳次郎
名古屋市南區築地三十番地

契約書 (其二)

名古屋市長ヲ甲トシ堀傳次郎ヲ乙トシ鴨浦工場ニ於テ製産スル硫安ヲ拂下クル爲メ契約スルコト左ノ如シ
第一條 甲ハ鴨浦工場ニ於テ製産スル硫安全部ヲ同工場内藥品置場ニ於テ乙ニ引渡スモノトス
第二條 乙ハ前條ノ代金トシテ硫安製品十貫ニ付金六圓ノ割ヲ以テ甲ニ納付スルモノトス
第三條 乙ハ前條ノ納付金トシテ一ヶ月分ヲ前納シ翌月製品受渡量ニ應シ計算シ剩餘アルトキハ甲ハ之ヲ乙ニ還付シ不足アルトキハ甲ハ乙ニ支拂フヘキ作業費ヨリ控除スルモノトス
第四條 本契約期間ハ大正十一年四月一日ヨリ大正十一年九月三十日迄トス
第五條 乙ハ契約履行ノ保證金トシテ金五百圓ヲ本契約締結ノ日ヨリ十日以内ニ甲ニ納付スルモノトス
但シ國債證券ヲ以テ代納スル場合ハ五分利附ノモノニ對シテハ額面壹百圓ヲ八拾圓ニ四分利附ノモノニ對シテハ額面壹百圓ヲ七拾圓ニ換算ス
第六條 乙ニ於テ本契約條項中不履行ノ場合ハ違約金トシテ前條保證金ヲ甲ノ所得トス此ノ場合ハ甲ヨリ乙ニ對シ保證金沒收ノ通知ヲ爲スノミヲ以テ足ル尙本契約條項中不履行ニ依テ生シタル甲ノ損害ハ乙其責ニ任スルモノトス
第七條 乙ニ於テ本契約不履行ノ場合ハ甲ハ何時ニテモ解約スルコトヲ得
但シ一週間以前ニ乙ニ對シ之レカ豫告ヲナスコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テ乙ニ損害アルモ甲ニ對シ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス
第八條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ名古屋市長ノ意見ニ從フモノトス
本契約ヲ證スル爲メ契約書二通ヲ作り各一通ヲ所持スルモノトス
大正十一年三月三十一日

名古屋市長代理 山崎林太郎
名古屋市助役 堀傳次郎
名古屋市南區築地三十番地

第四百二十二 大正十一年三月三十一日名古屋市長代理助役ハ關西電氣株式會社ト左ノ契約繼續ヲ締結セリ

契約繼續書

名古屋市鴨浦工場ニ要スル電力五十馬力ニ關スル大正十年三月三十一日附契約書ハ本月末日限り期間満了スヘキ處更ニ大正十二年三月三十一日ヲ期限トシ現契約ヲ繼續ス
右契約繼續ノ證トシテ本書二通ヲ作製シ各一通ヲ所持ス
大正十一年三月三十一日

名古屋市長代理 山崎林太郎
名古屋市助役 堀傳次郎
關西電氣株式會社 取締役社長 伊丹彌太郎

第四百二十三 大正十一年三月三十一日名古屋市長代理助役ハ屎尿運搬ニ付左ノ通り契約ヲ締結セリ

一、屎尿水上運搬ニ付名古屋市長ヲ甲トシ請負人飯田半四郎ヲ乙トシ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 乙ハ甲ノ指示スル新堀川屎尿積込場ヨリ鴨浦工場迄屎尿ノ船積運搬ヲ爲スモノトス

第二條 乙ハ前條作業ノ爲メ一日船夫十名以上ヲ使役スルモノトス

第三條 甲ハ毎月二回第一條ノ運搬費トシテ一石ニ付金拾錢ノ割合ヲ以テ乙ニ支拂フモノトス

但シ比重其他ノ試験ニヨリ屎尿ニ混水セシメタリト甲ニ於テ認メタルトキハ前項運搬費ヲ減額ス

前項ノ場合ニ於ケル計算歩合ハ甲ノ認定ニ從フモノトス

第四條 前條ノ運搬石數算定ハ鴨浦工場ニ於ケル吸揚ニ依ルモノトス

第五條 本契約期間ハ大正十一年四月一日ヨリ同年同月三十日迄トス

第六條 乙ハ本契約保證金トシテ金貳百圓ヲ甲ニ提供スルモノトス

但シ國債證券ヲ以テ代納スル場合ハ五分利附ノモノニ對シテハ額面壹百圓ヲ八拾圓ニ四分利附ノモノニ對シテハ額面壹百圓ヲ七拾圓ニ換算ス

第七條 甲ハ自己ノ保有スル屎尿運搬船及附屬船具一切ヲ本契約期間中乙ニ無償貸與ヲ爲スモノトス

第八條 前條ノ運搬船及船具破損修理費ハ乙ノ負擔トス

但シ自然破損ハ甲ニ於テ之ヲ爲スモノトス

第九條 甲ニ於テ乙カ正當ノ理由ナクシテ本契約ヲ履行セサルモノト認メタルトキハ甲ハ何時タリトモ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ハ甲ハ乙ノ保證金ヲ沒收シ尙損害アルトキハ乙ニ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第十條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ名古屋市長ノ意見ニ因ル

本契約ヲ證スル爲メ契約書ニ通ヲ作り各一通ヲ所持スルモノトス

大正十一年三月三十一日

名古屋市長代理 山崎 林 太郎
名古屋市助役 飯田 半 四 郎
名古屋市南區西築地二號地三十七番戶

契約書 (其ノ二)

一、屎尿水上運搬ニ付名古屋市長ヲ甲トシ請負人野々垣八百藏ヲ乙トシ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 乙ハ甲ノ指示スル堀川屎尿積込場ヨリ鴨浦工場迄屎尿ノ船積運搬ヲ爲スモノトス

第二條 乙ハ前條作業ノ爲メ一日船夫十名以上ヲ使役スルモノトス

第三條 甲ハ毎月二回第一條ノ運搬費トシテ一石ニ付金拾五錢ノ割合ヲ以テ乙ニ支拂フモノトス

但シ比重其他ノ試験ニヨリ屎尿ニ混水セシメタリト甲ニ於テ認メタルトキハ前項運搬費ヲ減額ス

前項ノ場合ニ於ケル計算歩合ハ甲ノ認定ニ從フモノトス

第四條 前條運搬石數算定ハ鴨浦工場ニ於ケル吸揚ニ依ルモノトス

第五條 本契約期間ハ大正十一年四月一日ヨリ同年同月三十日迄トス

第六條 乙ハ本契約保證金トシテ金貳百圓ヲ甲ニ提供スルモノトス

但シ國債證券ヲ以テ代納スル場合ハ五分利附ノモノニ對シテハ額面壹百圓ヲ八拾圓ニ四分利附ノモノニ對シテハ額面壹百圓ヲ七拾圓ニ換算ス

第七條 甲ハ自己ノ所有スル屎尿運搬船及附屬船具一切ヲ本契約期間中乙ニ無償貸與ヲ爲スモノトス

第八條 前條ノ運搬船及船具破損修理費ハ乙ノ負擔トス

但シ自然破損ハ甲ニ於テ之ヲ爲スモノトス

第九條 甲ニ於テ乙カ正當ノ理由ナクシテ本契約ヲ履行セサルモノト認メタルトキハ甲ハ何時タリトモ契約

約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ハ甲ハ乙ノ保證金ヲ沒收シ尙損害アルトキハ乙ニ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第十條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ名古屋市長ノ意見ニ因ル

本契約ヲ證スル爲メ契約書二通ヲ作り各一通ヲ所持スルモノトス

大正十一年三月三十一日

名古屋市長代理

名古屋市助役 山崎 林 太郎

名古屋市南區熱田東町字澤上八十七番地

野々垣 八百藏

第四百四十四 大正十一年三月左ノ通り土地ヲ買收セリ

南區八熊町字石場所在ノ元興農株式會社其他ノ所有地壹千六十九坪ヲ尿尿貯溜場並塵芥燒却所建設用地ト

シテ金二萬二千四百三十五圓三十五錢ヲ以テ買收シ右土地内ニアリタル元興農株式會社ノ設置ニ係ル尿尿

溜容積壹千石 壹個、百三十石 三個、十四石入 十四個ハ之ヲ其ノ儘市ノ尿尿溜ニ充當セリ

第四百四十五 大正十一年三月名古屋市長ハ尿尿無償汲取ニ付鬼頭藤兵衛外四百五十二名ト左ノ契約ヲ締結セリ

契 約 書

名古屋市長ヲ甲トシテ名古屋市 區 番戶汲取總代何某ヲ乙トシ名古屋市内ニ於ケル尿尿無償汲取ニ

關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 乙ハ左ノ區域内ニ於ケル尿尿ヲ汲取搬出スルモノトス

何 町 何 戶 何 人

何 町 何 戶 何 人

何 町 何 戶 何 人

第二條 本契約ニ據ル尿尿汲取實行期間ハ大正十一年四月一日ヨリ大正十二年三月三十一日迄トス

第三條 乙ハ甲ニ對シ汲取契約保證金トシテ金何圓ヲ提供スルモノトス

第四條 乙ハ第一條區域内各戶ノ尿尿排泄量ニ應シ豫メ甲ノ承認ヲ經テ日次ヲ定メ常ニ停滯ナキ様完全ニ

汲取掃除ヲ爲スモノトス

第五條 乙カ尿尿汲取ヲ怠リタルトキハ甲ハ代執行ヲ爲シ其ノ尿尿ハ甲ニ於テ適宜處分ス

甲ニ於テ代執行ヲ爲シタルキハ乙ハ尿尿一石ニ付金五拾錢ノ割ヲ以テ甲ニ代執行費ヲ納付スルモノトス

前項代執行ハ前月中ノ分ヲ翌月十日迄ニ納付スルモノトス

第六條 甲ハ乙カ正當ノ理由ナクシテ本契約ヲ履行セスト認メタルトキハ之ヲ催告シ尙之ニ應セサルトキ

ハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ハ第三條ニ依リ乙ノ提供シタル保證金ハ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ所得ニ

歸シ代執行費ノ未納其ノ他損害アルトキハ乙ハ別ニ之ヲ賠償スルモノトス

第七條 乙ハ汲取區域ノ増減、汲取處分方法ノ改良及其他ニ關シ甲ノ指示ニ從フモノトス

第八條 暴風雨其他ノ變災ニヨル浸水尿尿ハ甲ニ於テ處分スルモノトス

本契約ヲ證スル爲メ本證二通ヲ作り各一通ヲ所持スルモノトス

大正十一年三月 日

名古屋市長代理

名古屋市助役 山崎 林 太郎

汲取人總代 氏 名印

第四百四十六 大正十一年四月一日名古屋市長ハ尿尿船内殘渣無償汲取ニ付小鹿逸次郎外二名ト左ノ契約ヲ締

結セリ

契 約 書

名古屋市長ヲ甲トシ名古屋市 區

町農總代何某外何名ヲ乙トシ名古屋市鴨浦工場棧橋ニ於ケル尿

尿船ヨリ生スル残渣無償汲取掃除ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 乙ハ名古屋市鴨浦工場尿船内ヨリ生スル残渣汲取掃除ヲナスモノトス

但シ契約保證金トシテ金何圓ヲ提供スルモノトス

第二條 本契約ニ據ル残渣汲取掃除實行期間ハ大正十一年四月一日ヨリ大正十二年三月三十一日迄トス

第三條 乙ハ第一條ニ依ル義務ノ履行ヲ遂クル爲メ日次ヲ定メ常ニ停滯ナキ様完全ニ汲取掃除ヲ爲スモノトス

第四條 乙カ義務ノ履行ヲ怠リタルトキハ甲ハ代執行ヲ爲シ其ノ残渣ハ甲ニ於テ適宜處分ス

甲ニ於テ代執行ヲ爲シタルトキハ残渣汲取掃除費トシテ甲ニ代執行費ヲ納付スルモノトス

前項代執行費ハ前月中ノ分ヲ翌月十日迄ニ納付スルモノトス

第五條 甲ハ乙カ正當ノ理由ナクシテ本契約ヲ履行セスト認メタルトキハ之ヲ催告シ尙之ニ應セサルトキハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ハ保證金ヲ沒收シ尙代執行費ノ未納其他損害アルトキハ乙ハ別ニ之ヲ賠償スルモノトス

但二百五十石船ハ人夫三名トシ此賃金六圓六拾錢トス

二百石船ハ人夫二名トシ此賃金四圓四拾錢トス

百五十石及百石船ハ人夫一名トシ此賃金貳圓貳拾錢トス

四十石船ハ三艘ヲ以テ人夫一名トシ此賃金貳圓貳拾錢トス

第六條 乙ハ尿尿船残渣ノ増減、汲取處分方法ノ改良其他ニ關シ甲ノ指示ニ從フモノトス

第七條 暴風雨其他ノ變災ニヨル浸水残渣ハ甲ニ於テ處分スルモノトス

前項暴風雨ニ際シテハ左記日割ニ相當ノ乙ハ鴨浦工場へ出場シ甲ノ指示スル人員ヲ出場セシメ其ノ勞費ヲ受クルモノナリ

本契約ハ大正十一年何月何日ヨリ效力ヲ生ス

大正十一年 月 日

住 所

名古屋市長 川崎 卓吉

氏 名

契 約 書

第四百七十七 大正十一年四月一日名古屋市長ハ尿船積無償交付ニ付久野鐵次郎外十三名ト左ノ契約ヲ締結セリ

名古屋市長ヲ甲トシ愛知縣 郡 村農會長何某ヲ乙トシ名古屋市中區西堀川尿尿積込場ニ於テ尿ヲ無償船積交付ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 乙ハ左ノ區域内ニ於ケル尿ヲ船積搬出スルモノトス

一、中區西堀川天王崎橋以南古渡橋以北内尿尿積込場

第二條 本契約實行期間ハ大正十一年四月一日ヨリ大正十二年三月三十一日迄トス

第三條 乙ハ甲ニ對シ運搬契約保證金トシテ金何圓ヲ提供スルモノトス

第四條 乙ハ第一條區域内へ搬出スル處ノ尿ノ石數ニ應シ常ニ配船交付ヲ受ケ完全ニ運搬スルモノトス

第五條 乙カ故ナク配船及運搬ヲ怠リタルトキハ甲ハ代執行ヲ爲シ其ノ尿ハ甲ニ於テ適宜處分ス

甲ニ於テ代執行ヲ爲シタルトキハ乙ハ尿一石ニ付金五錢ノ割ヲ以テ甲ニ代執行費ヲ納付スルモノトス

第六條 甲ハ乙カ正當ノ理由ナクシテ本契約ヲ履行セスト認メタルトキハ之ヲ催告シ尙ホ之ニ應セサルトキハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ハ第三條ニ依リ乙ノ提供シタル保證金ハ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ所得ニ

キハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ハ第三條ニ依リ乙ノ提供シタル保證金ハ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ所得ニ

歸シ代行費ノ未納其他損害アルトキハ乙ハ別ニ之ヲ賠償スルモノトス

第七條 乙ハ甲ニ於テ汲取區域ノ増減、汲取處分方法ノ改良及其他ニ關シ尿ノ搬出量ニ増減アルモ甲ノ指示ニ從フモノトス

第八條 暴風雨變災其他船舶故障ノ爲メ配船不可能ノ場合ハ甲ニ於テ適宜處分シ乙ニ對シ代行費ヲ要求セサルモノトス

本契約ヲ證スル爲メ本證ニ通フ作り各一通ヲ所持スルモノトス

年 月 日 住 所 名 古屋市長 川 崎 卓 吉

農 會 長 氏 名

第四百四十八 大正十一年四月十四日名古屋市長ハ興農株式會社外ニ社ヘ左ノ通り通牒セリ

大正十一年三月十六日附ヲ以テ尿尿汲取運搬契約解除ノ通牒ニ基キ該契約保證金ハ本市ニ沒收可致候條御了知相成度候

大正十一年四月十四日

名古屋市長 川 崎 卓 吉

興農株式會社々長宛

愛知肥料購買合資會社々長宛 (前ニ同文)

名古屋肥料合名會社代表者宛 (前ニ同文)

第四百四十九 大正十一年四月三十日名古屋市長ハ尿尿水上運搬ニ付左ノ通契約ヲ締結セリ

契 約 書

一、尿尿水上運搬ニ付名古屋市長ヲ甲トシ請負人飯田半四郎ヲ乙トシ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 乙ハ甲ノ指示スル堀川及新堀川尿尿積込場ヨリ鴨浦工場迄尿尿ノ船積運搬ヲ爲スモノトス

第二條 乙ハ前條作業ノ爲メ一日船夫十三名以上ヲ使役スルモノトス

第三條 甲ハ毎月二回第一條ノ運搬費トシテ一石ニ付堀川積込ノモノ金拾壹錢、新堀川積込ノモノ金拾六錢ノ割合ヲ以テ乙ニ支拂フモノトス

但シ比重其他ノ試驗ニヨリ尿尿ニ混水セシメタリト甲ニ於テ認メタルトキハ前項運搬費ヲ減額ス

前項ノ場合ニ於ケル計算歩合ハ甲ノ認定ニ從フモノトス

第四條 前條ノ運搬石數算定ハ鴨浦工場ニ於ケル吸揚ニ依ルモノトス

第五條 本契約期間ハ大正十一年五月一日ヨリ同年九月三十日迄トス

第六條 乙ハ本契約保證金トシテ金貳百圓ヲ甲ニ提供スルモノトス

但シ國債證券ヲ以テ代納スル場合ハ五分利附ノモノニ對シテハ額面壹百圓ヲ八拾圓ニ四分利附ノモノニ對シテハ額面壹百圓ヲ七拾圓ニ換算ス

第七條 甲ハ自己ノ所有スル尿尿運搬船及附屬船具一切ヲ本契約期間中乙ニ無償貸與ヲ爲スモノトス

第八條 前條運搬船及船具破損修理費ハ乙ノ負擔トス

但シ自然破損ハ甲ニ於テ之ヲ爲スモノトス

第九條 甲ニ於テ乙カ正當ノ理由ナクシテ本契約ヲ履行セサルモノト認メタルトキハ甲ハ何時タリトモ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ハ甲ハ乙ノ保證金ヲ沒收シ尙損害アルトキハ乙ニ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第十條 甲カ指示シタル各衛生事務所配置ノ船夫數出場セス作業ニ支障ヲ來シタルトキハ甲ハ第二條ノ支拂金ヨリ一日一人ニ付金參圓ノ割ヲ以テ減額スルモノトス

第十一條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ名古屋市長ノ意見ニ因ル

本契約ヲ證スル爲メ契約書二通ヲ作り各一通ヲ所持スルモノトス

大正十一年四月三十日

名古屋市長 川崎卓吉
名古屋市南區築地二號地三十番地

飯田半四郎

第五十 大正十一年八月二十三日愛知縣知事ヨリ左ノ水面使用ノ許可指令ヲ受ケタリ

指令第五八七號

大正十一年二月一日發衛第二十七號申請海面使用ノ件別紙命令書ノ通條件ヲ附シ之ヲ許可ス

大正十一年八月二十三日 愛知縣知事 川口彦治

(別紙) 命令書

第一條 愛知縣名古屋市ニ對シ公有水面使用ヲ許可スル位置ハ愛知縣名古屋市南區豊田町地先海面四百四十坪ニシテ申請書添付圖面ノ通りトス

第二條 使用ノ目的ハ屎尿船繋留用トス

第三條 使用期間ハ大正十一年八月ヨリ向フ十ヶ年間トス

第四條 使用料金ハ無料トス

第五條 使用ノ爲ニスル工作物施設ノ着手及竣功ハ本縣名古屋港務所ニ届出テ指揮若クハ検査ヲ受クヘシ

第六條 使用者ハ許可ヲ受ケタル日ヨリ 日內ニ其ノ面積目的期間及氏名ヲ記載シタル標杭ヲ使用地ニ建設スヘシ

第七條 使用期間ノ終了若クハ使用者ニ於テ使用ヲ廢止シタルトキ若クハ愛知縣知事ニ於テ許可ヲ取消シタルトキハ 日內ニ使用ニ供スル物件ヲ取拂ヒ原形ニ復シ其ノ旨届出ツヘシ

第八條 左ノ場合ニ於テ愛知縣知事ハ許可ヲ取消シ又ハ其ノ效力ヲ停止シ若クハ此ノ命令書ノ條項ヲ變更シ又ハ既設工作物ヲ改築若クハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ使用ニ因リテ生スル危害ヲ豫防ス

ル爲メニ必要ナル設備ヲ命スルコトアルヘシ

一、使用ノ爲他ニ障害ヲ及ホシ又ハ其ノ虞アリト認メタルトキ

二、許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三、此ノ命令書若クハ此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

四、公益ノ爲必要アルトキ

第九條 使用者ニ於テ此ノ命令書若クハ此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ因リ履行スヘキ義務ヲ履行セサルトキハ愛知縣知事ニ於テ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ代テ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第十條 此ノ命令書ニ從ヒ使用者ノ履行スヘキ義務ノ爲ニ要スル費用及第九條ノ費用ハ總テ使用者ノ負擔トス

第十一條 此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ因リ使用者ニ於テ損害ヲ蒙ルコトアルモ之カ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十二條 許可ニ依リテ生スル權利義務ハ愛知縣知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

右命令ス

大正十一年八月二十三日 愛知縣知事 川口彦治

第五十一 大正十一年九月九日名古屋市長ト東邦電力株式會社ト左ノ變更契約ヲ締結セリ

變更契約書

名古屋市ト元名古屋電燈株式會社トノ間ニ締結シタル大正十年三月三十一日附電力需給契約書第八條ヲ左ノ通り變更ス

第八條 乙ノ供給スル電力ハ交流三相三線式六十「サイクル」ニシテ甲ノ工場内引込口ニ於テ約三千「ヴォ

ルト」ノ電壓ヲ有スルモノトス(三千「ヴォルト」用變壓器ハ乙ノ所有トス)
右契約締結ノ證トシテ本書ニ通テ作製シ各一通ヲ所持ス

大正十一年九月九日

名古屋市長 川崎 卓吉
東邦電力株式會社 取締役社長 伊丹 彌太郎

第五百二十二 大正十一年九月十八日名古屋市長ハ鴨浦工場硫酸製造供給請負及硫酸拂下ニ付左ノ契約ヲ締結セリ

契約書 (其一)

市立鴨浦工場ニ於ケル硫酸製造ニ關スル供給請負

右硫酸製造ニ要スルモノ、供給ニ付名古屋市長ヲ甲トシ請負人箕村幹ヲ乙トシ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 乙ハ工場ニ於テ甲ノ指揮命令ニ從ヒ尿尿ヲ以テ硫酸製造ニ必要ナル火夫、職工、石灰、硫酸、消石灰、機械油、防臭劑其他ヲ提供スルモノトス

- 第二條 甲ハ前條提供ノ代價トシテ硫酸製品十貫毎ニ左ノ標準ニ據リ乙ニ其代金ヲ支拂フモノトス
- (一) 一ヶ月製品總量一日平均二百貫未滿ノ場合ハ金八圓
 - (二) 一ヶ月製品總量一日平均三百貫未滿ノ場合ハ金七圓
 - (三) 一ヶ月製品總量一日平均四百貫未滿ノ場合ハ金六圓五拾錢
 - (四) 一ヶ月製品總量一日平均五百貫未滿ノ場合ハ金六圓
 - (五) 一ヶ月製品總量一日平均六百貫未滿ノ場合ハ金五圓五拾錢
 - (六) 一ヶ月製品總量一日平均六百貫以上ノ場合ハ金五圓

第三條 前條ノ支拂金ハ甲ニ於テ其翌月算定シ之ヲ乙ニ支拂フモノトス

第四條 乙ハ工場内ニ於ケル原料ヨリ生スル殘渣及作業ニ依リ生スル廢液ヲ衛生上無害ノ方法ニ依リ處理スルモノトス

第五條 乙ハ工場内ニ硫酸製造作業ニ要スル石灰、硫酸、消石灰等ヲ少クトモ十日間以上ノ所要量ヲ貯藏スルモノトス

第六條 乙ハ當該吏員ノ指揮ニ從ヒ工場内外ノ掃除及硫酸製造作業ニ要スル器具器械ノ手入レヲナスモノトス

第七條 乙ハ契約履行ノ保證金トシテ金五百圓ヲ本契約締結ト同時ニ甲ニ納付スルモノトス
但シ國債證券ヲ以テ代納スル場合ハ五分利附ノモノニ對シテハ額面壹百圓ヲ八拾五圓ニ四分利附ノモノニ對シテハ額面壹百圓ヲ七拾五圓ニ換算ス

第八條 乙ニ於テ本契約條項中不履行ノ場合ハ違約金トシテ前條保證金ヲ甲ノ所得トス此場合ハ甲ヨリ乙ニ對シ保證金沒收ノ通知ヲ爲スノミヲ以テ足ル

尙本契約條項中不履行ニ依テ生シタル甲ノ損害ハ乙賠償ノ責ニ任スルモノトス

第九條 本契約期間ハ大正十一年十月一日ヨリ大正十二年三月三十一日迄トス

第十條 乙ニ於テ本契約不履行ノ場合ハ甲ハ何時ニテモ解約スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ乙ニ損害アルモ甲ニ對シ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第十一條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ甲ノ意見ニ從フモノトス

本契約ヲ證スル爲メ契約書ニ通テ各一通ヲ所持スルモノトス

大正十一年九月十八日
名古屋市長 川崎 卓吉
愛知縣海部郡佐屋村大字柚木千百二十二番地
日比野安全肥料株式會社

契約書

(其二)

代表取締役 箕村

二二四

幹

名古屋市長ヲ甲トシ箕村幹ヲ乙トシ市立鴨浦工場ニ於テ製産スル硫安ヲ拂下クル爲メ契約スルコト左ノ如シ

第一條 甲ハ工場ニ於テ製産スル硫安全部ヲ同場内製品置場ニ於テ無包裝ニテ乙ニ引渡スモノトス

第二條 乙ハ前條ノ代金トシテ硫安製品十貫ニ付未包裝ニシテ金七圓拾錢貳厘ノ割ヲ以テ甲ニ納付スルモノトス

第三條 乙ハ前條ノ代金ヲ翌月五日迄ニ甲ニ納付スルモノトス若シ納付ヲ怠リタルトキハ甲ハ乙ニ支拂フヘキ提供代償費ヲ以テ之ニ當テ尙不足アルトキハ之ヲ追徴スルモノトス

第四條 本契約期間ハ大正十一年十月一日ヨリ大正十二年三月三十一日迄トス

第五條 乙ハ契約履行ノ保證金トシテ金壹千圓ヲ本契約締結ト同時ニ甲ニ納付スルモノトス

但シ國債證券ヲ以テ代納スル場合ハ五分利附ノモノニ對シテハ額面壹百圓ヲ八拾五圓ニ四分利附ノモノニ對シテハ額面壹百圓ヲ七拾五圓ニ換算ス

第六條 乙ニ於テ本契約條項中不履行ノ場合ハ違約金トシテ前條保證金ヲ甲ノ所得トス此場合ハ甲ヨリ乙ニ對シ保證金沒收ノ通知ヲ爲スノミヲ以テ足ル尙本契約條項中不履行ニ依テ生シタル甲ノ損害ハ乙其責ニ任スルモノトス

第七條 乙ニ於テ本契約不履行ノ場合ハ甲ハ何時ニテモ解約スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ乙ニ損害アルモ甲ニ對シ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第八條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ名古屋市長ノ意見ニ從フモノトス

大正十一年九月十八日

名古屋市長

川

崎

卓吉

愛知縣海部郡佐屋村大字柚木千百二十二番地

日比野安全肥料株式會社

代表取締役 箕村

幹

幹

第五百十三 大正十一年九月二十七日名古屋市長ハ愛知縣知事宛硫安製造工場使用者解除ノ件左ノ通り報告セリ

硫安製造工場使用者解除ノ件報告

本市硫安製造工場ハ去ル大正十年十月一日ヨリ名古屋市南區築地二號地堀傳次郎ニ使用爲致來リ候處本月三十日限リ其契約ヲ解除候間此段及報告候也

大正十一年九月二十七日

名古屋市長

川

崎

卓吉

第五百十四 大正十一年九月二十七日名古屋市長ハ肥料製造營業開始届ヲ愛知縣知事へ提出セリ

肥料製造營業開始届

大正四年十二月十八日附製造第七二〇號ヲ以テ肥料製造業免許相受ケ大正七年一月十九日附發衛第一三號ニテ營業休止及御届置候處大正十一年十月一日ヨリ營業開始候ニ付此段及御届候也

大正十一年九月二十七日

名古屋市長

川

崎

卓吉

愛知縣知事 川口彦治殿

第五百十五 大正十二年一月二十九日日比野安全肥料株式會社ヨリ鴨浦工場貸與方ニ關シ左ノ通り出願シ來レリ

鴨浦工場貸與願

鴨浦工場内建物機械器具竝ニ建築物一切ヲ市ヨリ供給ノ屎尿ヲ以テ硫酸「アンモニア」製造致度候間左記條件ニ依リ無償御貸與相成度此段及御願候也

一、向五ヶ年間無償御貸與ヲ受度事

附記 硫酸「アンモニア」製造業ハ時々不測ノ暴落ニ遭逢致シ經營困難ニ陥ルコト有之之カ對抗策トシテ第三項記載ノ通り工場増築ノ御認可ヲ受ケ多年製造販賣ニ從事セル弊社特殊ノ配合肥料製造ノ一部ヲ鴨浦工場ニ於テ行ヒ前記不況ノ場合ヲ維持セント心得最少年限トシテ五ヶ年ヲ御認可願度候

二、原料ハ市ヨリ無償ヲ以テ供給ヲ受クル事

但シ一日平均四百石ノ供給ヲ仰キ度事

供給増加ノ場合ハ機械最高能率ヲ以テ必ス處理可致事

三、工場内ニ弊社ノ自辨ヲ以テ肥料製造上必要ノ工場増築ヲ御認可願度事

尤モ契約期間満了ノ上ハ弊社ノ費用ヲ以テ取毀原形ニ復シ可申事

四、建物機械器具竝ニ建築物ノ修理ハ市ノ費用ヲ以テ爲サレ度事

理由 貴重ナル物件ニ付永久御保存上完全ノ修理ヲ希望仕候爲ニ御座候

五、契約保證金ハ金參千圓納入ノ事

附記 第三項記載ノ通り弊社自辨ヲ以テ各種ノ設備致度ニ付其消却ヲ契約年限中ニ完了スルハ至極難事ニ有之候爲此點御酌量相願上前記金額御認可相成度候

右ノ通り及御願候也

大正十二年一月二十九日

愛知縣海部郡佐屋村大字柚木千百二十二番地

日比野安全肥料株式會社

代表取締役 箕 村 幹

名古屋市長 川崎 卓吉殿

第五百五十六 大正十二年三月六日日比野安全肥料株式會社ヨリ鴨浦工場契約期限延長ニ關シ左ノ通り出願シ來レリ

鴨浦工場契約期限延長御願

一、大正十二年一月十六日附ヲ以テ鴨浦工場向五ヶ年間無償御貸與方御願申上置候處今ニ御認可ノ御沙汰無之實ハ願書中記載ノ通り各種設備ノ準備モ致度御多用中乍勝手至急御詮議御進行御認可御取計ヒ賜リ度若一御詮議遷延可致候様ナレハ別途現契約ノ期間モ最早餘日無キ事ト相成居リ候間現契約ノ儘向フ一ヶ年間御延長相願度尤モ前記向フ五ヶ年間無償御貸與御認可御沙汰御下附ノ上ハ自然本願書モ無効タルヘキ事確守可致此段右及御願候也

大正十二年三月六日

愛知縣海部郡佐屋村大字柚木千百二十二番地

日比野安全肥料株式會社

代表取締役 鈴 木 正 峻

名古屋市長 川崎 卓吉殿

第五百五十七 大正十二年三月十二日屎尿汲取ニ關シ左ノ通り關係各衛生組合長へ通知セリ

一、拜啓愈々御清安慶賀此事ニ御座候陳者貴町 各戸ノ屎尿ハ本年四月一日ヨリ本市ト左記ノ者ト契約致候條貴組合員へ左記各項周知方御取計ヒ相成様致度此段及御依頼候也

追而汲取不充分又ハ汲取人ノ行動等ニ關シ不都合ノ點御氣付ノ場合ハ何卒 區

衛生事務所

(電話 番)へ御申越相煩度申添候也

左 記

◎汲取契約者住所氏名

市ト汲取人トノ契約條項中ノ拔萃

- 一、汲取人ハ契約締結後五日以内ニ汲取區域内各戸ノ尿尿汲取人配置表ヲ作製シ市ニ提出スルト同時ニ其排泄量ニ應シ市ヨリ指定セラレタル汲取日次ニ依リ常ニ停滯ナキ様完全ニ汲取り掃除ヲナスモノトス
- 二、暴風雨等ニ依ル浸水便壺ノ掃除ハ市ニ於テ適宜ノ處分ヲ爲スモノトス
- 三、汲取人カ滿半ケ年間其義務ヲ完全ニ履行シタル場合ハ市ハ市ノ定メタル規定ニ據リ汲取人ニ對シ相當ノ獎勵金ヲ交付スルモノトス
- 四、汲取人カ尿尿ノ汲取掃除ヲ怠リタルトキハ市ハ代執行ヲナシ其尿尿ハ市ニ於テ適宜處分ス
- 市ニ於テ代執行ヲ爲シタルトキハ汲取人ハ汲取尿尿一石ニ付金五拾錢ノ割ヲ以テ市ニ代行費ヲ納付スルモノトス

五、市ハ汲取人カ正當ノ理由ナク又ハ誠意ヲ以テ本契約ノ履行ヲナササルモノト認メタルトキハ何時タリトモ契約ヲ解除スルコトヲ得

汲取人ニ對スル注意

- 一、前記ノ契約ニ據リ汲取人ハ一定ノ期日ヲ定メ汲取ル筈ナルモ期日以前ニ停滯シタル場合ハ各戸ニ貼布シアル汲取人ヘ通知セラルルカ電話若クハ口頭ニテ區 衛生事務所ヘ申込マルルカ又ハ住所氏名ヲ判リ易ク書キタル紙片ヲ不淨申込函ヘ投入セラレタシ
- 二、汲取人ハ一戸又ハ二戸ノ爲メ屢々汲取りニ來ルコト及雨水ノ混入セル便所ヲ嫌フ故尿尿壺ハ家族數ニ應シ少ナクモ十日間ハ汲取りヲ要セス且ツ雨水ノ浸入セサル様改造セラレタシ
- 三、汲取人ハ非常ニ代執行費ノ支拂ヲ嫌ヒ代執行費請求ノ通知ハ恰モ警察ノ罰金科料ノ如ク思ヒ居ルヲ以テ尿尿ノ停滯セサルニ停滯申込ヲセラルル等ノ事ナク且ツ一面汲取人ヲ可成愛撫セラルル様致度

四、汲取成績良好ナリシ團體ニ對シテハ相當ノ獎勵金ヲ市ヨリ交付スル筈ナレハ各位ハ可成此名譽ヲ汲取人ニ與ヘラルル様援助アリ度

五、汲取人カ汲取區域取定メノ爲メ出頭ノ筈ナレハ其節ハ相當便宜ヲ與ヘラレ度

六、同一町内ノ汲取人ハ概ネ同一團體ノ者ナレハ汲取人ニ汲取方通知等ノ用向キハ可成他ノ汲取人ニ托送セラルル様致度

二、拜啓愈々御清安慶賀此事ニ御座候陳者貴

町 各戸ノ尿尿ハ本年四月一日ヨリ向フ一ケ年間本市直

營人夫ヲシテ汲取ラシム可ク候條貴組合員ヘ周知方御取計ヒ相成様致度此段及御依頼候也

追而汲取不充分又ハ人夫ノ行動等ニ關シ不都合ノ點有之候ハハ何卒 區衛生事務所(電話 番)

へ御申越相煩度申添候

第一百五十八 大正十二年三月廿日興農株式會社社長ヨリ損害金控除ノ儀ニ付左ノ通り再ヒ願書ヲ提出シ來レリ

損害金控除ノ儀ニ付再願

豫テ貴市ト當會社トノ間ニ締結セラレタリシ尿尿汲取契約書ニ基ツク大正九年度竝ニ大正十年年度尿尿料金ニ對シ損害金控除ノ儀ニ付去ル大正十一年二月二十二日ヲ以テ出願致置候處今日ニ至ルモ未タ御控除ノ命ニ接セス當會社ニ於テハ右御控除ノ御指令ヲ待ツテ解散ノ手續ヲ執リタキ意向ノ處往苒歲月ノミ經過致シ甚タ困惑罷在リ候次第ニ付テハ既ニ大正十一年二月二十二日提出ノ願書中ニ委曲ヲ盡シ置候モ尙茲ニ一言前記尿尿料控除ノ理由ニ付テハ既ニ大正十一年二月二十二日提出ノ願書中ニ委曲ヲ盡シ置候モ尙茲ニ一言ヲ費シ度ハ貴市尿尿市營ト當會社トノ關係ニ有之候抑々貴市カ明治四十五年尿尿市營ヲ實行セラルルニ當リ豫メ愛知、東西春日井、海部ノ四郡ニ互ル尿尿汲取人ノ團體タル興農義會ニ對シ汲取請負方ノ交渉有之興農義會ニシテ市ト農民トノ中間ニ處シ全責任ヲ以テ汲取方ヲ引受クルニ於テハ市ニ於テモ市營ヲ斷行セントノ御意向ニテ有之其當時ノ興農義會ノ幹部ハ貴市ノ御意向ヲ諒トシテ市ト農民トノ中間ニ立チテ汲取

方ヲ圓滑ナラシムルコトニ決意シ明治四十五年三月二十六日ヲ以テ名古屋市長阪本鈺之助氏ト興農株式會社創立發起人吉田高朗外八名(興農義會幹部)トノ間ニ尿尿汲取契約ヲ締結シ興農株式會社成立ニ至ルマテハ前記吉田高朗外八名ニ於テ契約ヲ履行シ會社成立ノ上ハ之ヲ繼承セシムルコトトシ會社成立後明治四十五年六月十七日改メテ契約ヲ交換シ爾來大正十一年三月三十一日ニ至ル滿十ケ年間興農株式會社ハ誠意ヲ披瀝シテ名古屋市ノ尿尿汲取ニ從事シ來リタル次第ニテ名古屋市ニ於ケル尿尿市營ハ當會社カ市ト農民トノ中間ニ立チテ其間ヲ調和シタルニ依リテ成立シタルモノト相信シ居リ候此ノ如ク當會社ト貴市ノ尿尿市營トハ實ニ唇齒輔車ノ關係ヲ持續シテ今日ニ至リタルモノニ有之從ツテ當會社ノ性質ハ他ノ商會社カ單ニ利益ヲ擧クルコトヲ唯一ノ目的トスルニ反シ半公共的ノ性質ヲ帶ヒタル會社ニ有之候事ハ契約書中ニモ處々ニ保護的ノ條項アルニ見テモ昭カナルコトト相信シ候尙別紙尿尿代納付經過一覽表ニモ示ス如ク市ニ於テモ此ノ實情ヲ參酌セラレ會社カ損害ヲ受ケタル年次ニハソレソレ納付金御控除ノ詮議アリタル次第ニ付何卒今同當會社カ受ケタル損害ニ對シテモ前陳ノ事情御酌量ノ上御控除ノ議速ニ御詮議相成度重テ相願申上候也

大正十二年三月十四日
名古屋市長 川崎卓吉殿
興農株式會社々長 堀尾茂助

年次	契約納付金	減額納付金	附記	年次	契約納付金	減額納付金	附記
大正元年度	六〇,〇〇〇.〇〇	六〇,〇〇〇.〇〇		大正六年度	七二,〇〇〇.〇〇	七二,〇〇〇.〇〇	
大正二年度	六六,六六六.六六	六六,六六六.六六	大正元年三月名古屋市會ニ於テ減額決議	大正七年度	八〇,〇〇〇.〇〇	八〇,〇〇〇.〇〇	大正元年三月名古屋市會ニ於テ減額決議
大正三年度	八〇,〇〇〇.〇〇	八〇,〇〇〇.〇〇	同上	大正八年度	八〇,〇〇〇.〇〇	八〇,〇〇〇.〇〇	大正七年三月二十九日契約更正
大正四年度	八〇,〇〇〇.〇〇	八〇,〇〇〇.〇〇	大正四年二月二十七日契約更正	大正九年度	八〇,〇〇〇.〇〇	六二,六六六.六六	壹萬六千圓未納

大正五年度 七二,〇〇〇.〇〇 大正五年度二月三十一日契約更正 大正十年度 五八,四〇六.四七

自大正九年度 損害金調表

- 一、尿尿料徴收不能額表
 - 大正九年度下半年期 大正十年度上半年期 大正十年度下半年期 合 計
 - 一〇,三九七.五〇 二四,〇八一.二四 二三,八四五.一一 五八,三二三.八五
- 二、臨時停滯汲取人夫賃金表
 - 合 計
 - 一五,一三九.八七 八,一一〇.〇〇 二三,二四九.八七
- 三、加工事業損害表
 - 合 計
 - 一四,二二五.五〇

鴨浦加工事業損害表

第五百五十九 大正十二年三月二十九日名古屋市長八日比野安全肥料株式會社ト鴨浦工場硫酸製造供給請負及硫酸拂下契約更新ノ件左記ノ通締結セリ

(其一) 鴨浦工場ニ於ケル硫酸製造ニ關スル供給請負契約更新ノ件
大正十一年九月十八日附名古屋市長ト箕村幹トノ間ニ締結シタル鴨浦工場ニ於ケル硫酸製造ニ關スル供給請負契約書第九條中「大正十二年三月三十一日」トアルヲ「大正十二年五月三十一日」ニ改ム
本契約ヲ證スル爲メ契約書二通ヲ作り各一通ヲ所持スルモノトス
大正十二年三月二十九日

名古屋市長 川崎卓吉
愛知縣海部郡佐屋村大字抽水千百二十二番地
日比野安全肥料株式會社

代表取締役 鈴木正峻

(其二) 鴨浦工場ニ於テ製産スル硫安拂下契約更新ノ件
大正十一年九月十八日附名古屋市長ト箕村幹トノ間ニ締結シタル鴨浦工場ニ於テ製産スル硫安拂下契約書
第二條中「金七圓拾錢貳厘」トアルヲ「金七圓七拾錢」ニ第四條中「大正十二年三月三十一日」トアルヲ
「大正十二年五月三十一日」ニ改ム
本契約ヲ證スル爲メ契約書二通ヲ作り各一通ヲ所持スルモノトス
大正十二年三月二十九日
名古屋市長 川崎卓吉
愛知縣海部郡佐屋村大字柚木千百二十二番地
日比野安全肥料株式會社

第一百六十

大正十二年三月三十一日名古屋市長ハ東邦電力株式會社關西支店ト左ノ契約ヲ締結セリ

契約繼續書

大正十一年度ニ繼續シタル名古屋市長鴨浦工場ニ要スル電力五十馬力ニ關スル大正十年三月三十一日附契約
書ハ本月末日限り期間滿了スヘキ所更ニ大正十三年三月三十一日ヲ期限トシ現契約ヲ繼續ス
右契約繼續ノ證トシテ本書二通ヲ作製シ各一通ヲ所持ス
大正十二年三月三十一日
名古屋市長 川崎卓吉
東邦電力株式會社關西支社
常務取締役 久留島政治

第一百六十一 大正十二年三月十六日名古屋市長ハ尿管尿管取賞與金ヲ左記標準ニ依リ代表者ニ交付セリ

一、汲取人十人以上若クハ汲取區域内換算人口百人以上ノ團體契約者ニシテ滿六ヶ月以上契約義務ヲ完
全ニ履行シ汲取成績優良ナルモノ
換算人口一人ニ付 金拾錢宛

二、前號團體契約者ニシテ滿六ヶ月間ニ於ケル契約區域内尿管尿管停滯申込件數カ其區域内戸數ニ對スル百
分ノ九以内ノモノ
換算人口一人ニ付 金八錢宛

三、同上百分ノ九以上百分ノ十五以内ノモノ
換算人口一人ニ付 金五錢宛

右標準ニ該當者西春日井郡甚目寺村代表者横井鐵次郎外三十九名ニ對シ同日市會議事堂ニ於テ交付式ヲ舉
行ス

表彰狀(寫) 住所 代表者 氏名

大正十一年四月本市ノ尿管尿管取契約ヲ締結シ爾來能ク其義務ヲ完全ニ履行シ成績優良ナルモノト認ム仍テ
茲ニ金一封ヲ贈與シ其功勞ヲ表彰ス
大正十二年三月十六日
名古屋市役所

第一百六十二 大正十二年四月十日興農株式會社長ヨリ損害金控除ニ關シ左ノ通り願書ヲ提出シ來レリ

十二月十四日附ヲ以テ弊會社ヨリ貴市ニ納付スヘキ尿管尿管料金中損害ニ對スル金額御控除ノ儀ニ付願仕置
候處該願書ノ末文ニ於テ貴市ト弊會社トノ關係ヲ陳情セシ文意中ニ弊會社ハ貴市ノ尿管尿管營上ニ付テハ保
護會社ノ性質ヲ帶ヒテ成立シタルモノナル旨言明仕リ置候ニ付蛇足ナカラ今左ニ其意味ヲ具體化シタル條

項ヲ拔萃シ以テ願意ヲ補足仕リ候間宜敷御高覽被成下度候
明治四十五年六月十七日附ヲ以テ貴市ト弊會社トノ間ニ締結セラレタル契約書中ニ左ノ條々ハ最モ明確ニ
保護會社タルコトヲ表示シタルモノト相考ヘ候

一、第七條 乙ハ其定款ヲ變更シ又ハ資本金ヲ増減シ若クハ社債ヲ起サントスルトキハ豫メ甲ノ承認ヲ
受クルヲ要ス

二、第八條 甲ハ乙ノ業務ヲ監督スル爲メ何時タリトモ事業ノ報告ヲ徵シ又ハ帳簿竝ニ諸般ノ文書ヲ檢
閱スルコトヲ得

三、第九條 乙ハ年度經過後二十日以内ニ事業ノ成績ヲ甲ニ報告スヘシ

四、第十條 乙カ第三者ト尿尿ノ取引ヲナス場合ハ其尿尿代ノ標準ハ大人ハ一ヶ年金五拾錢以下小人ハ
(十歳未満ハ) 其半額以下ニ下スコトヲ得ス

五、第十一條 乙ノ損益勘定ハ豫メ甲ノ承認ヲ受クルヲ要ス
特種ノ事情ニ依リ前項ノ標準ヲ變更スルノ必要アルトキハ甲ノ承認ヲ受クルヲ要ス

乙ノ配當金年百分ノ六ニ達セサルトキハ甲ハ本契約實行期間(初年度ハ)ニ限り之ニ達セシムヘキ金額ヲ
補給スヘシ

但シ補給額ハ如何ナル場合ト雖モ拂込資本金ノ百分ノ六ヲ超過スルコトヲ得ス
乙ノ配當金年百分ノ八以上ナルトキハ其超過シタル利益ノ半額ヲ甲ニ提供スヘシ

六、第十二條 乙カ天災地變、傳染病流行、尿尿自家用者ノ増加、汲取方法改良命令ノ實行其他正當ノ
理由ニ因リ一廉ニ對シ金貳百圓以上ノ損害ヲ受ケタルコトヲ甲ニ於テ承認シタルトキハ甲ハ該損害ニ
相當スル金額ヲ第三條ノ納付金ヨリ控除スヘシ前項ニ基ク尿尿代ノ計算ハ第十條ニ依ル尿若クハ尿ノ
一方ヲ使用シタルモノニ對スル計算ハ其一方ヲ五分トス

以上列舉シタル契約書中ノ各條ハ明カニ弊會社カ貴市ノ保護會社タルコトヲ證明スルモノト相信シ候猶本
會社ノ成立前後ノ事情ニ於テモコレヲ立證スルコトハ言ヲ須ヒサル次第ニ付此邊宜敷御酌量ノ上損害金御
控除ノ御詮議被成下度再應御願申上候也

大正十二年四月十日

興農株式會社々長

堀尾茂助

名古屋市長 川崎卓吉殿

第六十三 大正十二年四月十五日愛知肥料購買合資會社長ヨリ左ノ歎願書ヲ提出シ來レリ

歎願書

當會社ノ御市ニ納付スヘキ尿尿料金四萬七千七百壹圓拾錢ヲ免除セラルヘキ様再三歎願致候モ未タ御聽許
無之當會社ニ於テハ最早一日モ繼續スルコト不可能ノ状態トナリタルニ依リ此處ニ最後ノ歎願書ヲ提出仕
候條左記事情御憫察ノ上何卒前記未納付金御免除相成度此段奉懇願候

左記

當會社ハ大正二年名古屋市ノ尿尿問題紛糾ニ際シ石川久兵衛氏ハ之レカ救濟ヲ思ヒ起チ市民ト農民トノ融
和ヲ圖ル目的ヲ以テ名古屋市ニ申出テ候處當時ノ助役神谷卓男氏竝ニ衛生課長福士吾郎氏ハ非常ニ喜ハレ
兩氏ノ依頼ニ依リ吾會社ノ設立ヲ爲スニ當リ石川氏ハ購買組合ニ爲サントセシモ正則組合ハ金拾圓準則組
合ハ金五圓ノ出資金ヲ要スルカ爲メ尿尿ヲ汲取ルヘキ農民ノ堪ヘ得ヘキ處ニ非サルヲ以テ汲取人一人ニ付
金拾錢宛ノ保證金ヲ提出セシメシ處金六千七百六拾七圓ヲ得タルヲ以テ石川氏ハ養父石川長福ニ請ヒ此處
ニ金參千貳百參拾參圓ノ出資ヲ得金壹萬圓ノ資本金ヲ以テ當會社ヲ設立致シ總テ衛生課長福士吾郎氏ノ指
圖ニ從ヒ當會社發起人ナル別紙覺書署名ノ十七名ノ名義ヲ以テ名古屋市ト大正三年七月二十三日附契約ヲ
締結致候初年度ノ成績ハ實ニ意外ニテ市トノ契約ニ依ル十五歳以下ハ無料出稼人ハ半額等ヲ引去ル換算人
員ハ非常ノ少數トナリ料金徵收モ意ノ如クナラス不成績ニ有之時ノ助役神谷卓男氏ニ相談セシ處最初ノ不

成績ハ興農會社へ對シ名古屋市カ不利益ニ付如何ナル方法ヲ以テモ他日入り合セヲ爲ス故是非共自大正三年九月至大正四年六月十ヶ月間ノ料金貳萬貳千貳百貳拾貳圓貳拾貳錢ハ納付セラレ度シトノ事ニ依リ石川氏ノ私財金參千五百圓ヲ併セ辛フシテ納付致候大正三年七月二十三日附納付金標準ノ別紙覺書ハ興農會社ト均衡ヲ保タサル爲メ御市ノ爲メニ當會社ヨリ改定ヲ申入レ削除シタリシ處却ツテ反對派ノ市會議員ハ尿料金ノ値上ケヲ迫リ理事者モ已ムヲ得ス會社ヲ困難トナラシメ候モ石川氏ハ最初ヨリ興農會社ノ契約金拾貳萬圓ヲ納付致サセ度キ目的ナルヲ以テ百方農民ヲ遊說シ目的ヲ達シ候モ復々納付金ニ不足ヲ生シ神谷助役ノ懇請ニ依リ石川氏ノ私財ナル名古屋市南區熱田東町字森後名古屋市立第九高等小學校ノ敷地三百餘坪ヲ坪拾六圓ノ割合ヲ以テ金五千餘圓ヲ納付金ニ差加ヘ代償セラレ候然ルニ阪本市長神谷助役等市政ノ變遷ニ依リ辭職セラレ石川氏ハ實ニ迷惑セラレタルモ如何トモ致シ方無之引續キ當事業ノ爲メニ盡力セラレ候モ大正九年後半期ニ至リ歐洲戰亂ノ終局ト同時ニ勞働賃金ハ膨脹シ農民ハ工業勞働ニ轉業シ尿尿ノ汲取解約多大ナル爲メ高價ナル汲取人夫賃ヲ支拂ヒ金八千八百四拾六圓參拾貳錢五厘ノ缺損ヲ生シ資本金ノ九分通リヲ失ヒ到底事業繼續ノ見込ミ無之衛生課長金原氏ニ解約ノ懇願申出候處調査ノ結果同情セラレタルモ佐藤市長ノ辭職大喜多市長ノ就任市會議員ノ改選大喜多市長辭職助役山崎林太郎氏ノ辭職等次イテ起リ衛生課長モ如何トモ致シ難ク大正十一年三月末日ニ至リ漸ク解約ノ手續ヲ終了セシモ當會社ハ十年度ニ於テ金參萬九千四百四拾壹圓壹錢五厘ノ缺損ヲ生シ十一年度ニ於テモ金壹萬參百參拾參圓四拾貳錢ノ缺損ヲ生シ財產全部ヲ失ヒ現今ニ於テハ負債ノミ殘リ會社ハ名義ノミニ有之候本年三月ノ總會ニ於テ解散ノ決議ヲ致シ何時ニテモ解散致スヘク手續ニ有之候尤モ尿尿事業ノ御市直營ニ相成候以來尿尿貯溜場器具等會社ハ一ヶ月參百五拾圓宛ノ利子ヲ支拂ヒ御市ヘハ無料貸與シ貯溜場設備等壹萬圓以上ヲ費シ完備シタル尿尿溜一切ヲ御市ニ無料寄附致スヘク願書ヲ提出致シ候モ市會協賛ノ手續等面倒ヲ來シ形式上名古屋市ノ買上ケラレタル地所ニ付ケ廻シヲ爲シ御市ヘ寄附仕リ候等總テニ於テ獻身の當事業ニ盡力仕候條右事情御諒察

ノ上未納尿尿料金御免除相成度奉懇願候也
大正十二年四月十五日

名古屋市中區古澤町一丁目四番地

愛知肥料購買合資會社

社長 石川久一郎

名古屋市長 川崎卓吉殿

覺書

大正三年七月二十七日附名古屋市長阪本鈺之助ト鬼頭吉次郎外十六名ト締結シタル契約書第二條第二項ノ初年度ニ於ケル実績ハ其年度ニ於ケル愛知肥料購買合資會社ノ收入(即汲取區域内ノ尿尿代總額)及支出(即會社ノ事務費)調書ヲ乙ヨリ甲ニ提出シ甲ニ於テ相當ト認メタル收支計算(即前掲ノ收入ヨリ支出ヲ控除シタルモノ)ヲ以テ標準トス

大正三年八月六日

名古屋市長

愛知郡小碓村大字熱田新田西組千五十番地	阪本鈺之助
愛知郡御器所村大字御器所四百八番地	鬼頭吉次郎
愛知郡八幡村大字野立二十七番戶	横井兼次郎
愛知郡常盤村大字四女子八十六番戶	大矢浦次郎
愛知郡常盤村大字岩塚五十六番地	田島佐吉
愛知郡荒子村大字荒子二百五十八番戶	川口兼次郎
愛知郡猪高村大字猪子石百四十二番戶	奥村新治郎
愛知郡東山村大字鍋屋上野六十四番戶	横地菊次郎
愛知郡呼續町大字瑞穂二百八十一番戶	水野義明
	米倉國次郎

- 愛知郡八幡村大字野立二百七十一番戸 林 松 之 助
- 愛知郡御器所村大字廣路乙三十六番戸 成 田 友 次 郎
- 愛知郡呼続町大字彌富字東畑百番地 坂 野 丈 藏
- 愛知郡八幡村大字中野外新田十二番戸 佐 藤 要 左 衛 門
- 愛知郡御器所村大字廣路字石佛六十七番地 近 藤 彦 三 郎
- 愛知郡荒子村大字中郷二十五番戸 岡 村 佐 吉
- 愛知郡常盤村大字鳥森字内上七十六番地 中 川 彌 平 治
- 愛知郡小碓村字十六番割十三番地 久 田 辰 次 郎

第百六十四 大正十二年五月十一日名古屋市長ハ尿尿處分ニ關シ左ノ勸誘狀ヲ各町衛生組合長、町總代及特殊營業者等ニ發送セリ

拜啓益々御清穆奉賀候却說本市尿尿處分ノ狀況ニ付テハ大體御了承ノ事ト存候へ共今尙汲取ノ完璧ヲ期シ能ハサルハ眞ニ遺憾ニ不堪候其原因ハ種々有之候へ共就中市ノ發展ニ伴ヒ日ニ月ニ市内ノ尿尿量著シク増加スルニ反シ需要地タル附近ノ耕地ハ工場ト變シ或ハ住宅地ト化シ漸次減少シ加フルニ是等ノ方面ヨリ排泄セラル、尿尿ハ距離ノ關係上農家ノ供給ニ便ナル結果一層市内ノ尿尿汲取ニ惡影響ヲ及ホスノ已ムヲ得サル實況ニ有之候尙近年都市附近ニ於ケル農民ハ經濟上農閑期ニ於テハ努メテ市内ニ於ケル勞役ニ從事シ之ヨリ得タル勞銀ヲ割キテ尿尿ニ代フルニ人造肥料ヲ購入スルヲ有利ナリトシ且農村ニ於ケル青年ハ一般ニ農作ヲ嫌忌シ都市ニ於ケル勤勞生活ニ轉移セント欲スル思想上ノ變化モ加ハリ最近各地ニ於ケル地主對小作問題ノ頻發スル等ノ結果現在舊市内ニ於ケル尿尿量ハ一日約二千八百石ニ對シ農民團體ト無償汲取契約ヲナシ農家ニ於テ生肥トシテ利用スルモノハ約千七百石ニ過キス殘餘ノ千七百石ハ全ク一定ノ汲取人無之止ムナク此ノ過剩分ニ對シテハ本市ニ於テ多額ノ勞銀ヲ支拂ヒ人夫ヲ備用シ極力汲取ニ努ムト雖之ニ要

スル經費ハ尠カラサル金額ト相成然モ汲取タル尿尿ノ内尿ハ曩年本市カ尿尿市管ノ安全辯トシテ建設シタル鴨浦工場ニ於テ硫酸安母尼亞ノ製造ヲナシ以テ之カ調節ヲ計ルト雖モ收支計算上到底相償ハサルノミナラス尿尿量ノ増加ハ無限ナルニ反シ加工作業能力ノ有限ナルニ想到セハ本市尿尿處理調節機關トシテハ甚タ不徹底ノ憾ナキニアラス從テ之ヲ永久ニ繼續スル能ハサルハ明白ナル實狀ニ御座候サレハ都市ニ於ケル根本政策トシテハ之ヲ從來ノ如ク單ニ生肥トシテ農家ニ供給シ又ハ年々多額ノ經費ヲ要スル加工事業ノ如キハ可成之ヲ避ケ歐米都市ノ如ク特殊ノ沈澱瀘過池ヲ有スル完全ナル下水管ニ放流スルノ方法ニ據ラサルヘカラサルコト、愚考致居候現在本市ノ如キ何等スル裝置ナキ下水管ニ其儘尿尿ヲ放流スルカ如キハ衛生上甚タ寒心ニ不堪候本市下水道第二期擴張工事ノタメ本年度ヨリ之カ調査ニ着手致候從テ完了ノ上ナラテハ確定致シ難キモ東京市ノ事實ヨリ推定スルニ初度設備費約五百萬圓維持費約四拾萬圓ノ巨費ヲ投セサルヘカラス市財政ノ現狀ヨリ觀テ之カ實現ノ決シテ容易ニアラサルハ遺憾此事ニ御座候要スルニ本市ノ現狀ハ尿尿處分ニ要スル施設費ヲ寡少ナラシメ且可成其汲取運搬ニ要スル浪費ヲ節約シ得ル方法ニ據ラサルヘカラサルコト、信シ候然ラサレハ將來本市財政上ニ尠カラサル脅威ヲ受クルコト、相成候間便所ノ構造ニ就テハ特ニ左記各項ニ御留意被成下市費ノ輕減ト自家保健ノ爲メ篤ト御考慮ヲ煩サレ汲取費用ヲ省クト同時ニ衛生上安全ナル御施設相成候様致度本市ノ尿尿處分ノ現況御報旁々得貴意候敬白

便所ノ構造ニ就テ

- 一、雨水ノ浸入ヲ防クタメ便壺ノ上縁ヲ地表上ヨリ可成高クスルコト
- 二、屋外ノ便所ニハ必ラス屋根ヲ設クルコト
- 三、便壺ハ可成尿尿ヲ別トシ其ノ大サハ居住者ノ人員ニ應シ概ネ十日間汲取ヲ要セサル程度ニ改ムルコト
- 四、汲取口ハ出入ニ便利ナル箇所ニ設ケ可成土足ノ儘出入シ得ラルヘキコト

大正十二年五月 日 名古屋市長 川崎卓吉

五、便壺内へ職業上生スル汚物汚水等ヲ投入セサルコト
六、便所ノ改築新築等ノ際ニハ可成大正式、「サイエンス」式、自然淨化式（城口式、西原式、上林式、酒井式、須賀式等）電氣焼却、其他各種ノ衛生的改良装置ニ改ムルコト

第百六十五 大正十二年五月十二日名古屋市長ヨリ愛知縣知事へ水面無料占用ノ件ニ付左ノ通り申請セリ

水面無料占用ノ件申請

名古屋港内南區豊田町字明治新田地先神戸橋々詰ヨリ西方五間ヲ距ル地點ヨリ西へ十間ノ水面地帯

一、水面ノ面積 九十坪 長サ十間幅八間乃至十間

二、占用ノ目的 本市南區豊田町明治新田ヨリ鴨浦工場へ往復航行スヘキ屎尿曳船ノ繫留場ニ

使用シ度尙同區域ニハ標木ヲ建設シ置キ度

三、占用ノ期間 大正十二年六月ヨリ大正二十二年五月迄向フ十ヶ年間

四、占用ノ料 無料

右ハ今般當市屎尿船曳船用發動機船及汽船ノ繫留場ニ要シ度無料占用ノ儀御許可相成度別紙圖面ヲ添付シ此段及申請候也

大正十二年五月十二日

愛知縣知事 川口彦治殿

名古屋市長 川崎卓吉

第百六十六 水面無料占用ノ件愛知縣知事ヨリ左ノ通り許可セラル

指令士第二五六八號

名古屋市長

大正十二年五月十二日附申請名古屋市長南區豊田町字明治新田地先海面使用ノ件許可ス仍テ別紙命令書ノ條項ヲ遵守スヘシ

大正十二年六月二十二日

愛知縣知事 太田政弘

命令書

第一條 今般名古屋市長ニ對シ海面使用ヲ許可スル位置ハ愛知縣名古屋市長南區豊田町字明治新田地先海面九十坪申請書添付圖面ノ通り

第二條 使用ノ目的ハ汽船繫留場トス

第三條 使用期間ハ大正十二年六月ヨリ同二十三年五月迄トス

第四條 使用料金ハ無料トス

第五條 使用者ハ使用區域ニ浮標ヲ以テ表示シ他ニ何等施設スルコトヲ得ス

第六條 毎年六月二十一日熱田神宮大祭ニハ一時適宜ノ場所へ相當轉錨スヘシ

第七條 使用期間ノ終了若クハ使用者ニ於テ使用ヲ廢シタルトキ又ハ愛知縣知事ニ於テ使用ヲ取消シタルトキハ二十日以内ニ使用ニ供スル物件ヲ取拂ヒ原形ニ復シ其ノ旨直チニ届出ツヘシ

第八條 左ノ場合ニ於テ愛知縣知事ハ許可ヲ取り消シ又ハ其ノ效力ヲ停止シ若クハ此ノ命令書ノ條項ヲ變更シ又ハ既設工作物ヲ改築若クハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ使用ニ因リテ生スル危害ヲ豫

スル爲メニ必要ナル設備ヲ命スルコトアルヘシ

一、使用ノ爲メ他ニ障害ヲ及ホシ又ハ其ノ虞アリト認めタルトキ

二、許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三、此ノ命令書若クハ此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

四、公益ノ爲メ必要アルトキ

第九條 使用者ニ於テ此ノ命令書若クハ此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ因リ履行スヘキ義務ヲ履行セサルトキハ愛知縣知事ニ於テ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ代テ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第十條 此ノ命令書ニ從ヒ使用者ノ履行スヘキ義務ノ爲メニ要スル費用及第九條ノ費用ハ總テ使用者ノ負

擔トス

第十一條 此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ因リ使用者ニ於テ損害ヲ受クルコトアルモ之カ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十二條 許可ニ依リテ生スル權利義務ハ愛知縣知事ノ許可ヲ受クルニ非ラサレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

大正十二年六月二十二日

愛知縣知事 太田 政 弘

第六十七 大正十二年五月二十五日第一回市政懇談會開催ノ際出席者(衛生組合長及町總代)ニ左記尿尿處分ノ概要ヲ印刷ノ上配付セリ

現在ニ於ケル本市尿尿處分ノ概要

一、本市ノ處分權ニ屬スル尿尿一日排泄量約二千八百石

二、現在ノ處分方法

其ノ一 自家處分尿尿一日約六十石

自家耕地ノ肥料及淨化裝置ニ依リ處分スルモノ

其ノ二 農民汲取搬出尿尿一日約千百石

別記契約書ニ依リ無償ニテ農民ニ於テ汲取リ搬出セシム

其ノ三 前項農民ノ汲取搬出セサル所謂過剩尿尿ニ對シテハ市直營ヲ以テ之ヲ汲取リ搬出シ以下各項ノ處分ヲナス而シテ汲取運搬費トシテ一ヶ年約拾八萬五千圓ヲ要ス

(イ) 硫酸安母尼亞加工尿一日約七百石此製品約六百貫ニシテ一ヶ年ノ經費ハ(加工作業諸費)約拾四萬六千圓製品賣拂代約拾四萬九千圓ナリ

同工場ニ於テ硫酸安母尼亞加工尿一日約七百石此製品約六百貫ニシテ一ヶ年ノ經費ハ(加工作業諸費)約拾四萬六千圓製品賣拂代約拾四萬九千圓ナリ

(ロ) 沿海農民船積交付尿一日約三百石

兩堀川岸ニテ不定期來航船ニ無償ニテ交付ス

(ハ) 貯溜所搬入尿尿一日約二百石

貯溜所へ搬入シタルモノヲ需要期ニ於テ一石拾錢以上ニテ其ノ儘農民へ販賣シ又乾糞トシテ之ヲ販賣ス

(ニ) 堆肥原料尿一日約三十石

燒却場へ搬入シタルモノヲ塵芥灰ト配合堆積シ十貫拾錢以上ニテ販賣ス

(ホ) 淨化消毒下水管放流尿尿一日約百五十石

公設便所及燒却所内設置特殊裝置ニヨリ處分ス

(ヘ) 船積消毒海中投棄尿一日百六十石

前記各處分法ニ依ル外兩堀川岸ニテ特殊尿尿船へ積込ミ港外數湊ノ沖合ニ投棄ス

尿尿汲取搬出契約書抜萃

名古屋市長ヲ甲トシ某ヲ乙トシ名古屋市内ニ於ケル尿尿無償汲取搬出ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 乙ハ別表汲取區域内ノ尿尿ヲ汲取搬出スルモノトス

第四條 乙ハ契約締結後五日以内ニ汲取區域内各戸ノ尿尿汲取人配置表ヲ作製シ甲ニ提出スルト同時ニ其

ノ排泄量ニ應シ甲ヨリ指定セラレタル汲取日次ニ依リ常ニ停滯ナキ様完全ニ汲取掃除ヲ爲スモノトス

第五條 暴風雨等ニ因ル浸水便壺ノ掃除ハ甲ニ於テ適宜ノ處分ヲ爲スモノトス

第六條 乙カ滿半ヶ年間第四條ノ義務ヲ完全ニ履行シタル場合ハ甲ハ甲ノ定メタル規定ニ據リ乙ニ對シ相

當ノ獎勵金ヲ交付スルモノトス

第七條 乙カ尿尿ノ汲取掃除ヲ怠リタルトキハ甲ハ代執行ヲ爲シ其ノ尿尿ハ甲ニ於テ適宜處分ス

甲ニ於テ代執行ヲ爲シタルトキハ乙ハ汲取尿尿一石ニ付金五拾錢ノ割ヲ以テ甲ニ代行費ヲ納付スルモノトス

前項代行費ハ前月中ノ分ヲ翌月十五日迄ニ納付スルモノトス
第八條 甲ハ乙カ正當ノ理由ナク又ハ誠意ヲ以テ本契約ノ履行ヲ爲サ、ルモノト認メタルトキハ何時タリトモ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ハ乙ノ提供シタル保證金ハ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ所得ニ歸シ代行費ノ未納其ノ他損害アルトキハ乙ハ別ニ之ヲ賠償スルモノトス

三、尿尿直營区域内汲取運搬人夫其他

(イ) 陸上運搬人夫

1、現在一日使役人夫數ハ二百人ニシテ各事務所々屬別左ノ如シ

東區衛生事務所 二十三人 西區衛生事務所 四十九人

中區東部衛生事務所 七十七人 中區西部衛生事務所 三十六人

南區衛生事務所 十五人

2、日給一人平均 貳圓五拾錢

3、人夫一人一日ノ責任汲取石數六石九斗乃至八石五斗

4、同 作業力一回ニ一斗八升入桶十本乃至十二本ニシテ四車若クハ五車往復ス

(ロ) 水上輸送船夫

1、現在一日使役船夫及助手ハ二十二二人ニシテ其所屬別左ノ如シ

西區衛生事務所 六人 中區東部衛生事務所 六人

中區西部衛生事務所 三人 南區衛生事務所 五人

鴨 浦 工場 二人

2、日給一人平均 貳圓六拾錢

3、尿尿輸送船及放棄船數ハ三十九艘此石數五千六十石ニシテ左ノ通各事務所ニ配船ス

西區衛生事務所 輸送船九艘 此石數 千二百八十石

放棄船二艘 同 二百五十石

中區東部衛生事務所 輸送船十艘 同 千六百五十石

放棄船一艘 同 百五十石

中區西部衛生事務所 輸送船八艘 同 九百四十石

放棄船一艘 同 百五十石

南區衛生事務所 輸送船八艘 同 六百四十石

4、尿尿積込場ハ十二ヶ所ニシテ場所左ノ如シ

A 舊 堀 川 筋

西區衛生事務所區域 景雲橋、中橋、傳馬橋

中區西部衛生事務所區域 洲崎橋、日置橋上、下、山王橋、古渡橋

南區衛生事務所區域 西 町

B 新 堀 川 筋

中區東部衛生事務所區域 堀留、御器所貯溜場

5、尿尿船繫留場 南區豊田町地先水面

(ハ) 高級船員

1、現在船員ハ船長、機關長、火夫、油差ノ四名ニシテ南區衛生事務所ニ配屬ス

2、給料一人平均月額 八拾圓

3、曳船ハ現在二艘ニシテ種別左ノ如シ
 田子浦丸蒸氣機關付 噸數十噸
 鴨浦丸石油發動機々關付 噸數十噸

(二) 木 工

- 1、現在三名ヲ使役シ左記事務所ニ配屬ス
 東西兩區衛生事務所 一名
 中區東部衛生事務所 一名
 中區西部及南區衛生事務所 一名
 - 2、日給一人平均 貳圓八拾錢
- 四、明治四十五年屎尿市營實施以來ノ收支

種 別	收 入		支 出	
	收入金額	一ヶ年平均一戸當	支出金額	一ヶ年平均一戸當
大正二年度	一〇六、三五二、八六	一、一三三	一、二四〇	一、二四〇
大正三年度	四六、〇二七、七六	四、七四	一、〇三	一、〇三
大正四年度	九六、四三四、五五	九、五六	三〇五	三〇五
大正五年度	一〇一、五九、六二	一、一一一	三六一	三六一
大正六年度	一〇五、五七、六三	一、一三三	三六一	三六一

五、鴨浦工場ニ於ケル屎尿加工製産高

備考 自大正二年度 至大正十一年度 ハ決算額大正十二年度ハ豫算額ヲ掲ク

種 別	作 業 日 數	屎 尿 受 入 高		屎 尿 加 工 高		硫 安 製 産 高
		受入高	一ヶ年平均一戸當	加工高	一ヶ年平均一戸當	
大正七年度	一一五、八三〇、八五	一、二〇二	二、七六	—	—	—
大正八年度	一一〇、〇六六、三三	一、一三二	二、七七	—	—	—
大正九年度	九九、三七六、一九	一、〇九五	二、三〇	—	—	—
大正十年度	四二、三七二、二九	四、五〇	〇、九六	二、三四三	二、三四三	四、七七
大正十一年度	九二、八〇四、〇五	七、〇〇	一、四五	三、四八、九七〇、二六	二、六五一	五、五三
大正十二年度	一四四、六六五、〇〇	一、〇五八	二、一八	三、七六、二六、〇〇	二、七五三	五、六八
計	一、〇六八、九九九、一三	(平均) 九、五〇	(平均) 二、〇七	九、三三、六〇一、二二	(平均) 三、五八五	(平均) 五、三九

六、各區屎尿處分區域別戶數人口統計表

區別	直營汲取區域		農民汲取區域		自家處分		計
	戶數	換算人口	戶數	換算人口	戶數	換算人口	
東區	四、四七七	一五、九七〇	一四、四三五	四八、七九一	四三	二、四六四	一九、三三五
西區	二、九九五	四五、七四三	九、三二八	二八、一七三	六三四	一、九六八	二二、八四七
中區東部	一九、三〇八	六八、九五八	四、二二八	一三、八二七	一〇〇	一、二六〇	三三、五七六
中區西部	八、八六三	三六、三〇〇	五、五五九	二二、三六六	三五	一九〇	一四、四二七
南區	四、一七四	一九、六五二	八、五六九	二七、三九六	一七六	八〇二	一一、九三二
計	四〇、六八三	一八六、六三二	四一、八八九	一三九、五六二	一、三六〇	六、六〇三	九二、〇九六
							三三三、七九六

七、市營屎尿處分區域擴張

前各項ノ事項ハ大正十二年五月ニ於ケル現況ナルモ過般縣令第五十七號ヲ以テ市營屎尿處分區域ヲ改正シ大正十年八月市ニ編入シタル町村中左記町名ノ通り追加セラレ六月一日ヨリ實施スルコト、ナリタル結果戶數約二萬七千戶此換算人口約九萬二千人ニシテ屎尿一日ノ排泄量約七百八十六石此ノ處分方法ハ農民ト無償汲取契約ヲナスヘキモノ約四百石市直營ヲ以テ汲取リ處分ヲナスヘキモノ約三百八十六石ニ

○東區

北清水町 柳原町 杉村町ノ全部

千種町ノ内字池ノ内 池田、池下、一ノ神、今池新田、西塚、西裏、堀前、殿里公、豐前、大久手、棚田、高見、塚越、中道 馬走、内山、野代田、車田、弦月、吹上、五反田、出口、赤萩、北裏、北畑、南畑、松軒、元古井、茂左裏、茂左西、
田代町ノ内字月見坂、坂上
東大曾根町ノ内字永符、東沖、野中、東向、西向、長田、藥師裏、八神、姥ヶ後、柳ヶ坪、大坪、神戸元屋敷、西戸、西沖

○西區

東枇杷島町、北押切町ノ全部
榮生町ノ内字八反田、葭野、柳畑、松裏、流レ、道願、清七前、大道東、緣場、三本峠、米田、三反物長割、大黒割、上更屋敷、東緣場
則武町ノ内字中島、新堀、輪ノ内、向
日比津町ノ内字野合、道下

上名古屋町ノ内字梅林、紅葉ノ内北濱、内江、西池内江、東江向
兒玉町ノ内字出郷

○中區

牧野町、南平野町、西日置町ノ全部

御器所町ノ内字白金、向田、鳥喰、布池、大清水、菱池、古市場、吸場、島西浦、小針、西鶴舞、外田
上赤島、鎌田、下鳥田、上鳥田、江越
露橋町ノ内字三軒入筋、東出、北ノ脇
米野町ノ内字下平池裏、上平池裏

○南 區

大江町全部

千年町ノ内字裏畑、船方、二ノ割

熱田新田東組ノ内一番割

野立町ノ内字五反田、海道畔、明田

八熊町ノ内字長町、苗田、笠取、小屋畑、畑代、井桁畔、寺田、五舛田、中街道、島ノ山、村東、荒江
南荒江

瑞穂町ノ内字須田、雁道、部田、白田、太田、中坪、龜田、池下、東豆田、流レ、西豆田、北蛇塚、南

蛇塚、中野、薩摩、奥ノ坊、下ノ切、神ノ内、城ノ内、大辻、中ノ切、上ノ切、竹子、山ノ畑、西藤塚

馬場、洲雲、高田、北原、中ノ割、西ノ割、北前田、東前田、山田、田光、勅海、柚ノ木、荒田、市場

呼續町ノ内字花見、浦里、富士見、曲手、志水、紋所、深ノ内、淺間、呼續、濱海道、汐見、丹下殿町

鳥居前、熊野、羽城、背戸田、八幡下

豊田町ノ内字明治新田、圖書新田

但以上ノ區域内ト雖モ自家處分ヲナスモノハ除外セラル、義ニシテ列記セラレサル町及字ハ汲取除外

區域トナル

第百六十八 大正十二年五月二十五日尿尿處分ニ關スル明治四十五年二月縣令第二十二號ハ左ノ通り改正セ

ル

尿尿處分ニ關スル件左ノ通り定ム

大正十二年五月二十五日

縣令第五十七號

明治三十三年三月内務省令第五號汚物掃除法施行規則第二十二條ニ基キ名古屋市ニ限リ左ノ方法ニ依リ市

ヲシテ尿尿ヲ處分セシム

一、尿尿汲取區劃

七間町	富澤町	吳服町	針屋町	伊勢町	鶴重町	大津町	朝日町
關鍛冶町	小市場町	久屋町	武平町	蒲燒町	東本重町	東袋町	寶町
宮町	神樂町	駿河町	東門前町	櫻ノ町	東櫻町	研屋町	杉ノ町
梅ヶ枝町	西魚町	東魚町	京町	中市場町	南外自七丁目 堀町至三丁目	石町	鍋屋町
飯田町	東片端町	西新町二丁目	七曲自二丁目 至三丁目	東新町	上堅杉町	下堅杉町	富士塚町
高岳町	東新道町	松山町	七小町	小川町	舍人町	檀木町	主稅町
白壁町	東外堀町	西二葉町	清水町	長塚町	東二葉町	長久寺町	芳野町
東芳野町	相生町	東榿木町	東主稅町	百人町	黒門町	古出來町	前ノ町
東白壁町	新出來町	赤塚町	阪上町	大會根町	八軒家町	森下町	山口町
平田町	堅代官町	筒井町	裏筒井町	手代町	往還町	東矢場町	城番町
車道町	車道東町	石神堂町	安房町	添地町	水筒先町	布池町	板屋町
葵町	横代官町	萱屋町	北清水町	柳原町	杉村町		

千種町ノ内字 池ノ内、池田、池下、一ノ神、今池新田、西塚、西裏、堀ノ前、殿里公、豊前、大久手
棚田、高見、塚越、中道、馬走、内山、野代田、車田、弦月、吹上、五反田、出口、赤萩、北裏、北畑
南畑、松軒、元古井、茂左裏、茂左西
田代町ノ内字 月見坂、坂上
東大曾根町ノ内字 永符、東沖、野中、東向、長田、藥師裏、八神、姥ヶ後、柳ヶ坪、大坪、神戸、元
屋敷、西戸、西沖

其二 西區

菅原町	皆戸町	桶屋町	島崎町	志摩町	大船町	千歳町	枝郷町	六句町	白屏町	北野町	前ノ川町	深井町
西萬町	材木町	伏見町	本町	那古野町	船入町	上島町	外田町	小舟町	押切町	北鷹匠町	手木町	山神町
東萬町	木挽町	伊倉町	玉屋町	上笹島町	東柳町	明道町	江戸屋町	淺間町	八坂町	江川町	數寄屋町	庭町
車園町	園井町	上園町	上長者町	米屋町	花車町	井桁町	馬喰町	上淺間町	平野町	江川端町	樋ノ口町	五平藏町
小田原町	本重町	下園町	下長者町	西柳町	小鳥町	比米町	新道町	下淺間町	南押切町	江川横町	俵町	新屋敷町
和泉町	袋町	中ノ町一丁目	長島町	泥江町	替地町	裏鹽町	菊井町	北驛町	鹽町	柳町	長畝町	泥町
茶屋町	傳馬町	堅三藏町一丁目	島田町	堀内町	澤井町	五條町	藪下町	奉公人町	南鷹匠町	臺所町	江中町	上仲町
南外自一丁目	西菅原町	堀町至六丁目	桑名町	廣井町	橋詰町	隅田町	早苗町	南驛町	堀詰町	花ノ木町	紙漉町	吹出町

東枇杷島町 北押切町

榮生町ノ内字 八反田、葭野、柳畑、松裏、流ノ、道願、清七前、大道東、縁場、三本峠、米田、三反

物、長割、大黒割、上更屋敷、東縁場

則武町ノ内字 中島、新堀、輪ノ内、向

日比津町ノ内字 野合、道下
上名古屋町ノ内字 梅林、紅葉ノ内北濱、内江、西池内江、東江向、
兒玉町ノ内字 出郷

其三 中區

辰巳町	南武平町	新榮町	白山町	宮前町	東川端町	西松ヶ枝町	南桑名町	堅三自二丁目	藏町至三丁目	南長島町	音羽町	日ノ出町
榮町	月見町	宮出町	老松町	矢場町	松元町	板橋町	末廣町	天王崎町	西脇町	若松町	前塚町	前塚町
住吉町	七曲町三丁目	南小川町	奥田町	裏門前町	丸田町	大池町	南伏見町	新柳町	上日置町	常盤町	松重町	松重町
南吳服町	大坂町	西瓦町	下奥田町	春日町	西境町	元田町	門前町	上堀川町	西洲崎町	城代町	水主町	水主町
南伊勢町	西新町二丁目	南瓦町	南辰巳町	三輪町	三田町	三田町	南園町	横三藏町	岩井町	東角町	西角町	西角町
南大津町	池田町	東瓦町	東田町	東田町	小林町	千早町	藪田町	白川町	下堀川町	役割町	花園町	内屋敷町
南鍛冶屋町	松島町	流川町	塚越町	東陽町	鶴舞町	上前津町	中ノ町自二丁目	入江町	鶯谷町	吾妻町	根津町	根津町
南久屋町	南新町	西白山町	西塚町	西川端町	松ヶ枝町	鐵砲町	八百屋町	旅籠町	富岡町	金澤町	納屋町	納屋町

梅園町 笹島町 榎町 禰宜町 永樂町 北禰宜町 東洲崎町 南禰宜町
 蘇鐵町 下廣井町 下笹島町 橋町 下日置町 下茶屋町 東橋町 古渡町
 伊勢山町 正木町 東古渡町 下前津町 不二見町 古郷町 蛭子町 梅川町
 葛町 館屋町 長岡町 葉場町 大井町 流町 向田町 牧野町
 南平野町 西日置町
 御器所町ノ内字 白金、向田、鳥喰、布池、大清水、菱池、古市場、吸場、島西浦、小針、西鶴舞、外
 田、上赤島、鎌田、下鳥田、江越
 露橋町ノ内字 三軒入筋、東出、北ノ脇
 米野町ノ内字 下平池裏、上平池裏

其 四 南 區

熱田新尾頭町 熱田東町 熱田尾頭町 熱田旗屋町 熱田西町 熱田白鳥町 熱田傳馬町
 熱田新宮坂町 熱田市場町 熱田中瀬町 熱田須賀町 熱田羽城町 熱田富江町 熱田内田町
 熱田神戸町 熱田木ノ免町 熱田大瀬子町 熱田田中町 東築地町 西築地町 西古渡町
 大江町
 千年町ノ内字 裏畑、船方、二ノ割
 熱田新田東組ノ内字 一番割
 野立町ノ内字 五反田、海道畔、明田
 八熊町ノ内字 長町、苗田、笠取、小屋畑、畑代、井桁畔、寺田、五升田、中街道、島ノ山、村東、荒
 江、南荒江
 瑞穂町ノ内字 須田、雁道、部田、白田、太田、中坪、龜田、池下、東豆田、流ノ、西豆田、北蛇塚、

南蛇塚、中野、薩摩、奥ノ坊、下ノ切、神ノ内、城ノ内、大辻、中ノ切、上ノ切、竹子、山ノ畑、西藤
 塚、馬場、洲雲、高田、北原、中ノ割、西ノ割、北前田、東前田、山田、田光、勅海、柚ノ木、荒田、
 市場

呼續町ノ内字 花見、浦里、富士見、曲手、志水、紋所、深ノ内、淺間、呼續、濱海道、汐見、丹下、
 殿町、鳥居前、熊野、羽城、背戸田、八幡下
 豐田町ノ内字 明治新田、圖書新田

二、尿尿汲取除外區域

其 一 陸軍省所管ノ官衙、學校及部隊

其 二

イ、東區ノ内北千種町、鍋屋上野町、下飯田町、上飯田町、矢田町、山田町、大幸町及千種町、田代町、
 東大曾根町ニシテ汲取區劃内ニアラサル各字
 ロ、西區ノ内田幡町、志賀町、西志賀町、枇杷島町、中村町、下中村町、稻葉地町及榮生町、則武町、日
 比津町、上名古屋町、兒玉町ニシテ汲取區劃内ニアラサル各字
 ハ、中區ノ内北一色町、岩塚町、八田町、小本町、篠原町、鳥森町、長良町、萬町、高須賀町、四女子町
 廣路町及御器所町、露橋町、米野町、ニシテ汲取區劃内ニアラサル各字
 ニ、南區ノ内稻永新田、熱田前新田、中野新町、大蟻螂町、笠寺町、横井町、小碓町、野田町、土古町、
 高畑町、當知町、荒子町、寛政町、中須町、寶神町、打出町、惟信町、中郷町、彌富町、中島新町、鳴
 尾町、法華町、星崎町、東起町、本星崎町及千年町、熱田新田、野立町、八熊町、瑞穂町、呼續町、豐
 田町ニシテ汲取區劃内ニアラサル各字

從來ノ慣行ニ依リ自家用耕作物ノ肥料ニ供スル部分ノ尿尿

三、尿尿ヲ汲取運搬スル時間ハ正午十二時迄トス

但シ止ムヲ得サル事由アルトキハ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

尿尿汲取ハ學校、病院、工場、會社、公設便所其ノ他多量ニ排泄スル場所ニ對シテハ毎日又ハ隔日若ク

ハ臨時其ノ他ハ少クトモ二週間一回以上汲取ラシムルコト

公設便所ニハ汲取ノ際防臭劑ヲ撒布シ清潔保持ニ力メシムルコト汲取ノ際ハ圍圍及其ノ周圍ヲ不潔ニシ

又ハ汲取口ヲ開放シ置クカ如キ所爲ナカラシムルコト

四、尿尿容器ハ金屬製「タンク」及木製桶トシ尿尿ノ漏泄臭氣ノ發散ヲ防止スル構造トシ不體裁ナカラシ

ムルコト

五、運搬車ハ馬車及手車トシ尿尿容器ニ適當セル構造トナスコト

六、汲取リタル尿尿ハ貯溜場内ノ尿尿溜ニ蒐集セシムルコト

七、尿尿貯溜場ハ市街地以外ニシテ人家ヲ距ルコト九十間以上タルヘキコト

貯溜場ノ數ハ四箇所以上トシ各所ニ尿尿溜、事務室、使丁室、人夫詰所、馬車置場、物置、便所、厩舎

及尿尿洗落水溜榭等ヲ設置スルコト

尿尿溜ハ「コンクリート」、石材煉瓦石、漆喰敲、「セメントモルタル」又ハ鐵材ノ類ヲ以テ之ヲ作り

適當ノ屋根ヲ設ケ臭氣ノ發散ヲ防止スル嚴重ナル裝置ヲ爲スコト

貯溜場ノ外圍ハ高サ九尺以上ノ墻塀ヲ設クルコト

八、蒐集シタル尿尿ハ五日以上放置シ又ハ化學的方法ニ依リ固形肥料ニ製出シ之ヲ處置スルコト

前項ノ尿尿ハ一定ノ價格ヲ以テ平等ニ農民ニ分配スルコト

九、病毒潛伏ノ虞アル尿尿ニハ消毒方法ヲ施行スルコト

病毒潛伏ノ虞アル尿尿ハ普通尿尿ト區別シ其ノ汲取容器、運搬車、貯溜池等ヲ混同セサルコト

一〇、事務所ハ市内適當ノ場所ニ中央本部ヲ設ケ各區ニ支部ヲ置キ本支部共ニ通信機關ヲ設備シ市民ノ便利

ト事務ノ敏捷ヲ圖ルコト

事務所ニ掃除監視吏員及常設人夫ヲ常置シ汲取及運搬ニ須要ナル器具、車輛等ヲ設備シ定時汲取以外ニ

於テ尿尿停滯ノ場合ニハ速ニ處置セシムルコト

二、相當員數ノ監視吏員ヲ專任シ監督ノ嚴正周到ヲ期スルコト

附 則

本令ハ大正十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年二月縣令第二十二號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第六十九 大正十二年五月三十一日名古屋市長ハ日比野安全肥料株式會社代表者ト鴨浦工場ニ於ケル硫安

製造ニ關スル供給請負及硫安拂下契約更正ノ件左記ノ通り締結セリ

契 約 書

市立鴨浦工場ニ於ケル硫安製造ニ關スル供給請負

右硫安製造ニ要スルモノ供給ニ付名古屋市長ヲ甲トシ請負人鈴木正峻ヲ乙トシ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 乙ハ工場ニ於テ甲ノ指揮命令ニ從ヒ尿尿ヲ以テ硫安製造ニ必要ナル火夫職工石炭硫酸消石灰機械

油防臭劑其ノ他ヲ提供スルモノトス

第二條 甲ハ前條提供ノ代償トシテ硫安製品拾貫毎ニ左ノ標準ニ依リ乙ニ其代金ヲ支拂フモノトス

(一) 一ヶ月製品總量一日平均二百貫未滿ノ場合ハ金八圓

(二) 一ヶ月製品總量一日平均二百貫以上五百貫未滿ノ場合ハ金六圓五十錢

(二) 一ヶ月製品總量一日平均五百貫以上ノ場合ハ金五圓五十錢

第三條 前條ノ支拂金ハ甲ニ於テ其ノ翌月算定シ之ヲ乙ニ支拂フモノトス

第四條 乙ハ工場内ニ於ケル原料ヨリ生スル殘渣及作業ニ依リ生スル廢液ヲ衛生上無害ノ方法ニ依リ處理スルモノトス

第五條 乙ハ工場内ニ硫安製造作業ニ要スル石炭硫酸消石灰等ヲ少クモ十日間以上ノ所要量ヲ貯藏スルモノトス

第六條 乙ハ當該吏員ノ指揮ニ從ヒ工場内外ノ掃除及硫安製造作業ニ要スル器具機械ノ手入レヲナスモノトス

第七條 乙ハ契約履行ノ保證金トシテ金五百圓ヲ本契約締結ト同時ニ甲ニ納付スルモノトス

但シ國債證券ヲ以テ代納スル場合ハ五分利附ノモノニ對シテハ額面壹百圓ヲ八十五圓ニ四分利附ノモノ

ニ對シテハ額面壹百圓ヲ七十五圓ニ換算ス

第八條 乙ニ於テ本契約條項中不履行ノ場合ハ違約金トシテ前條保證金ヲ甲ノ所得トス此ノ場合ハ甲ヨリ

乙ニ對シ保證金沒收ノ通知ヲナスノミヲ以テ足ル

尙本契約條項中不履行ニ依テ生シタル甲ノ損害ハ乙賠償ノ責ニ任スルモノトス

第九條 本契約期間ハ大正十二年六月一日ヨリ大正十二年十一月三十日迄トス

第十條 乙ニ於テ本契約不履行ノ場合ハ甲ハ何時ニテモ解約スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ乙ニ損害アルモ甲ニ對シ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第十一條 本契約中疑義ヲ生シタルトキハ甲ノ意見ニ從フモノトス

本契約ヲ證スル爲メ契約書二通ヲ作り各一通ヲ所持スルモノトス

大正十二年五月三十一日

名古屋市長 川崎卓吉

愛知縣海部郡佐屋村大字柿木千百二十二番地

日比野安全肥料株式會社

代表取締役 鈴木正峻

契約書

名古屋市長ヲ甲トシ鈴木正峻ヲ乙トシ市立鴨浦工場ニ於テ製産スル硫安ヲ拂下クル爲メ契約スルコト左ノ如シ

第一條 甲ハ工場ニ於テ製産スル硫安全部ヲ同場内製品置場ニ於テ無包裝ニテ乙ニ引渡スモノトス

第二條 前條ノ製品價格ハ實業報知日報肥料專門通信最近相場ニ準據シ毎月一日及十五日之ヲ協定スルモノトス

但協定不調ノ場合ハ甲ニ於テ適宜之ヲ處分スルモノトス

第三條 乙ハ前條協定價格ニヨリ其ノ月ノ硫安製品高ニ應スル代金ヲ翌月五日迄ニ甲ニ納付スルモノトス

若シ納付ヲ怠リタルトキハ甲ハ乙ニ支拂フヘキ提供代償費ヲ以テ之ニ充テ尙不足アルトキハ之ヲ追徴スルモノトス

第四條 本契約期間ハ大正十二年六月一日ヨリ大正十二年十一月三十日迄トス

第五條 乙ハ契約履行ノ保證金トシテ金一千圓ヲ本契約締結ト同時ニ甲ニ納付スルモノトス

但國債證券ヲ以テ代納スル場合ハ五分利附ノモノニ對シテハ額面壹百圓ヲ八十五圓ニ四分利附ノモノニ對シテハ額面壹百圓ヲ七十五圓ニ換算ス

第六條 乙ニ於テ本契約條項中不履行ノ場合ハ違約金トシテ前條保證金ヲ甲ノ所得トス此ノ場合ハ甲ヨリ

乙ニ對シ保證金沒收ノ通知ヲ爲スノミヲ以テ足ル尙本契約條項中不履行ニ依テ生シタル甲ノ損害ハ乙其ノ責ニ任スルモノトス

乙ニ對シ保證金沒收ノ通知ヲ爲スノミヲ以テ足ル尙本契約條項中不履行ニ依テ生シタル甲ノ損害ハ乙其ノ責ニ任スルモノトス

第七條 乙ニ於テ本契約不履行ノ場合ハ甲ハ何時ニテモ解約スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ乙ニ損害アルモ甲ニ對シ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス
 第八條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ名古屋市長ノ意見ニ從フモノトス
 本契約ヲ證スル爲メ契約書二通ヲ作り各一通ヲ所持スルモノトス
 大正十二年五月三十一日

名古屋市長 川崎卓吉
 愛知縣海部郡佐屋村大字柚木千百二十二番地
 日比野安全肥料株式會社
 代表取締役 鈴木正峻

第七十 大正十二年五月三十一日名古屋市長八日比野安全肥料株式會社代表者ト疏安拂下價格ニ付左記ノ
 通り協定セリ

協定書

一 鴨浦工場ニ於テ大正十二年六月一日ヨリ全月十五日迄製産スル硫安拂下價格拾貫ニ付金八圓拾貳錢
 右ノ通り協定候也

大正十二年六月一日
 名古屋市長 川崎卓吉
 愛知縣海部郡佐屋村大字柚木千百二十二番地
 日比野安全肥料株式會社
 代表取締役 鈴木正峻

以下協定書文省略

自大正十二年六月十六日 三十日 拾貫ニ付 金七圓七十八錢

自〃〃	七月一日	〃	金六圓四十錢
至〃〃	七月十五日	〃	
自〃〃	七月十六日	〃	金五圓八十錢
至〃〃	七月三十一日	〃	
自〃〃	八月一日	〃	金五圓七十五錢
至〃〃	八月十五日	〃	
自〃〃	八月十六日	〃	金五圓三十錢
至〃〃	八月三十一日	〃	
自〃〃	九月一日	〃	金五圓三十七錢
至〃〃	九月十五日	〃	

第七十一 大正十二年六月二十二日市内ノ劇場、寄席、工場及旅人宿等ノ厠園改良ニ關シ縣警察部長ヘ左
 ノ通依頼セリ

大正十三年六月二十二日 名古屋市長 川崎卓吉
 岡愛知縣警察部長殿

市内劇場寄席工場及旅人宿等ノ厠園改良ニ關スル件
 尿尿處分法ニ就テハ各都市ヲ通シテ緊急問題トシテ研究中ニ屬スルモノ、如クニシテ本市又根本政策畫策
 中ニ有之候ヘ共現下ニ於ケル状態ハ本市ノ處分權ニ屬スル尿尿一日排泄量二千八百餘石ヲ算シ其ノ處分法
 ハ自家處分及農民ヲシテ或ル契約ノ許ニ無償交付汲取ヲナサシムルモノ約一千六百六十石殘餘一千六百四十
 餘石ハ本市ノ直營トシ之レニ要スル汲取運搬費ノミニテ一年約十八萬五千餘圓ノ多額ヲ要シ尙去月二十
 五日尿尿處分ニ關スル縣令御改正ノ結果本月一日ヨリ合併町村ニシテ本市ノ處分權ニ屬スル尿尿ノ排泄量
 約一千石増加シ之レニ伴フ汲取運搬費亦拾數萬圓ノ増額ヲ要ス然ルニ都市附近ニ於ケル農民ハ經濟上農閑
 期ニ於テハ努メテ市内ノ勞役ニ從事シ之レヨリ得タル勞銀ヲ割キテ尿尿ニ代フルニ人造肥料ヲ購入スルヲ

有利ナリトシ且農村ニ於ケル青年ハ一般ニ農作ヲ嫌忌シ都市ニ於ケル勤勞生活ニ轉移セントスル思想上ノ變化モ加ハリ又最近各地ニ於ケル地主對小作問題頻發スル等ノ結果年々農民無償交付ノ數量著シク減少スル余波ハ延ヒテ本市財政上ニ鈔カラサル脅威ヲ受クルノ窮狀ナルヲ以テ一般市民ニ對シ厠圍ノ改良ヲ促シ搬出尿尿量ノ減少ヲ圖リツ、アルモ晝夜多數人ヲ收容スル市内劇場、寄席、工場及旅人宿ノ厠圍ヲ自然淨化裝置ニ改良セシムルニ於テハ鈔カラサル搬出量ヲ減少シ得ラル、コト、相信シ候ニ付先般來機會アル毎ニ關係者へ推獎致居候へ共此際特ニ關係者ニ對シ可成之レカ改良方御説示相成候様御配意相煩シ度此段及御依頼候也

第七十二 大正十二年七月五日便所改良ニ付テ各町衛生組合長へ左記ノ通り依頼セリ

拜啓益々御清康奉賀候却説本市衛生事務ニ就テハ銳意御努力被下愈々改善向上シツ、アルハ本市ノ爲メ御同慶ノ至リニ存候唯遺憾ナルハ尿尿處分ニ付本年五月御會同ノ際現況竝ニ希望ヲ縷述候通り當時舊市内ニ於ケル尿尿量一日約二千八百石ノ處今般尿尿汲取區域ニ關スル縣令改正ノ結果尿尿量一日約一千石増加シ之レカ搬出ニ要スル經費ハ益々膨大ヲ來タシ轉々寒心ニ堪ヘサルヲ以テ種々畫策中ニ有之候へ共由來使用者ノ人員ニ對シ便壺ノ數不足スルモノ又ハ過小ナルモノ等ノ爲メ三日目或ハ五日目ニ汲取ヲ要スル家比較的多キハ誠ニ遺憾ノ事ニ候就テハ曩ニ御依頼致置候通り便壺ノ儀ハ使用者ノ人員ニ應シ概ネ十日間汲取リヲ要セサル程度ノモノニ改造セシムルカ又ハ可成經費ノ許ス範圍ニ於テ水洗式自然淨化裝置ニ改良セシメ度希望ニ付是等ノ向ヘ對シテハ本日特ニ便所改良ニ關スル注意書別紙ノ通り配付致候ニ付可然御指導ノ上市費ノ輕減ト汲取リノ圓滿ヲ期スル様御配意相煩度此段得貴意候

大正十二年七月五日

衛生組合長

便所改良ニ就テ

殿

名古屋市長

川

崎

卓

吉

敬具

近年各都市共尿尿處分ニ就キ銳意其對策ヲ研究中ニ候へ共未タ理想的處分方法實現セラレス遺憾此事ニ候本市又他市ニ率先シテ之レカ調査ニ從事シ曩ニ調査委員會ヲ設ケ之カ徹底的處分法ヲ講究中ニ候へ共何分ニモ至難ナル事業ニテ一朝ニシテ完成シ得ヘキモノニ無之目下之カ應急策ニ付苦慮中ニ候本市ノ處分權ニ屬スル尿尿量ハ一日約二千八百石一ケ年約一萬石ニシテ農家ノ需要アル一日約一千石ヲ除クノ外ハ市ニ於テ多數人夫ヲ常備シ汲取運搬セシメ居リ之ニ要スル費用ノミニテ一ケ年約十八萬餘圓ノ多額ニ上リ尙今般縣令改正ノ結果區域更ニ擴張セラレ尿尿量一日約一千石ヲ増加シ之ニ伴フ汲取運搬費亦十萬餘圓ヲ要スル見込ニテ市財政上ニ鈔カラサル脅威ヲ受クル事ト相成寔ニ寒心ニ堪ヘス候
右ニ付種々考慮致居候へ共就中使用者ノ人員ニ對シ便壺ノ數不足スルモノ又ハ過小ナル等ノ爲メ三日目乃至五日目等短日内ニ汲取リヲ要スル家比較的多キハ遺憾ノ事ニ候就テハ曩ニ衛生組合長ヲ通シテ御相談致置候便壺ノ儀ハ使用者ノ人員ニ應シ十日間以上汲取リヲ要セサル程ノモノニ改造セラル、カ又ハ可成汲取リヲ要セサル水洗式ノ自然淨化裝置ニ改良セラレ度之レカ改良法實行ノ曉ハ尿尿汲取搬出ニ要スル勞費ヲ節約シ市費ヲ輕減スルト同時ニ汲取ノ圓滑ヲ期スルコトヲ得本市尿尿處分上極メテ好都合ト存候間事情御諒察ノ上相當御配意相煩度此段得貴意候也

大正十二年七月五日

名古屋市長 役所

第七十三 大正十二年七月三十一日尿尿海中放流ニ關シ名古屋水上警察署長ヨリ左ノ通り照會アリタリ

收第三八七一號

大正十二年七月三十一日

名古屋水上警察署長

名古屋市長 殿

尿尿放流ニ關スル件

貴所ニ於テ海中ニ放棄スル市内過剩尿尿ハ近來知多郡橫須賀町及八幡町沖合一圓ニ放流スルノ結果該附近

ニ出漁シ打瀬網及釣漁業ニヨリ捕獲セル魚類ノ價格低廉トナリ爲メニ此等漁民ノ迷惑尠カラストシ爾今放流ノ際ハ當初知多郡水産組合長トノ協定ノ地點ニ於テ放流相成度旨八幡町漁業組合理事ヨリ申出ノ次第モ有之候條嚴重御部下へ御通告相成様致度此段及照會候也

第四百七十四 大正十二年九月十五日午後十一時鴨浦工場ヨリ失火工場建物及原料受槽室及汲取器室(建坪百四十五坪)燒失セル結果加工作業ヲ中止セリ

第四百七十五 大正十二年十月二十三日中區池田町七十番地加藤杉太郎ヨリ乾糞肥料製造ノ爲メ尿ノ無償下附並御器所汚物處理所内尿尿溜一個借用方ニ付下記ノ通り願出タルニ依リ之ヲ許可シ製造セシメタリ

乾糞加工作業ニ付尿無償下附竝タンク借入ノ義ニ付御願

私儀尿ヲ加工シテ乾糞トシ肥料ヲ得ヘキ方法ニ付實驗講究ヲ遂ケ分析ノ結果肥料トシテ效果アルヲ認メラレ候ニ付之カ製造販賣方ヲ本縣廳へ許可申請中ニ有之候就テハ該肥料製造原料タル尿一日約五十石ヲ御器所町汚物處理所内ニ於テ無償御下附相成候上同所尿尿「タンク」一ヶ所ヲ向フ一ヶ年間無償拜借ノ義御許可相成度此段御願申上候也

追而本「タンク」ハ御市ニ於テ必要相生シ候節ハ何時ニテモ御取消相成候共不苦候條申添候也

名古屋市中區池田町七十番地

加藤 杉 太郎

名古屋市長 川崎 卓吉殿

第四百七十六 大正十二年十一月一日尿尿汲取ニ付テ全市各戸へ左記ノ通印刷物ヲ配付セリ

尿尿ノ汲取ニ就テ

一、汲取區域

市役所テ尿尿ノ處分ヲスル區域ハ市内ノ全體テハアリマセン縣令テ定メラレテ居ル舊市内ト之レニ接續

シテ町ニナツテ居ル新市内ノ一部テアリマス詳シイコトハ最寄ノ衛生事務所カ市役所ノ衛生課テ御尋ネ下サイ

二、排泄量

現在市役所テ處分スルコト、ナツテ居ル分量ハ次ノ通り毎日平均三千八百餘石テ一年ニ百三十八萬七千石ノ多量トナリマス尙毎年一日分百五十石宛一ヶ年五萬四千七百五十石増シテ行キマス

イ、自家ノ分ヲ自ラ始末サレ居ルモノ

二六四石

ロ、淨化装置ニ依リ處理サレ居ルモノ

七八石

ハ、市役所ト農家トノ契約ニ依リ汲取ラレルモノ

一、五五三石

ニ、市役所カラ人夫ヲ出シテ汲取ラセルモノ

一、九六七石

合 計

三、八六二石

三、汲取人

現在テハ市役所ノ人夫テ汲マセル町ト農家ノ汲ム町トカ混サツテ居リマスカ追々ニ舊市内ノ大部分ハ市役所ノ傭人夫テ汲マセ新市内ノ大部分ハ農家ニ汲マセル豫定テアリマス

四、人夫ノ汲取制裁

イ、汲取量ニ市役所ノ汲取人夫ハ距離ノ遠近ニヨツテ多少違フモ先ツ一人カ一日ニ六石以上九石迄ノ分量ヲ汲取運搬スルコトニシテアリマス

ロ、人夫ノ給金及賞罰ニ人夫ノ給金ハ一日金二圓五十錢テ尙特ニ能ク働イタ者ニハ増金ヲ與ヘ反對ニ受持ノトコロカラ停滯申込カアツタ場合ハ申込一件ニ付十錢宛罰金ヲ取り給金ノ中カラ引去ルコトニ定メテアリマス

ハ、汲取回数ニ市役所カラ差向ケル人夫ハ各受持カ定メテアツテ十日目位ニ一回伺フコトニ命シテアリ

ニ、便壺ノ人数ノ割合ニ壺カ小サカツタリ數カ少ナカツタリシテ十日間モタナイ様ナ宅テハ可成十日間ハタヘラレルヨウニ至急設備ヲ願ヒマス

五、農家ノ汲取制裁
農家ノ汲取日ハ定メテハアリマセンカ滞ラナイ様ニ屢々伺フ事ニ約束シテアリマス若シ汲取リヲ怠リマシタ時ハ衛生事務所へ御申込下サイ事務所カラ翌日迄ニハ人夫ヲ差向ケテ汲マセマスソシテ汲取量一石ニ付金五十錢ノ割合テ農家カラ罰金ヲ取ルコトニ定メテアリマス

六、停滯申込
若シ人夫ヤ農家カナマケテ伺ヒマセン節ハ遠慮ナク最寄ノ衛生事務所へ申込ミ下サルカ又ハ附近ノ不淨物申込箱へ御投書ヲ願ヒマス

七、汲取人へ心付ノ弊害

汲取人ニハ決シテ金品等ヲ貰ツテハナラヌト嚴達シテアリマス後日物ヲ貰ツタ事カ知レタ場合ニハ其人夫ヲ解僱スルコトニナツテ居リマスカラ折角ノ厚意カ仇ニナツテモツマリマセンカラ金品等ノ心付ハ絶對ニサレヌ様ニ願ヒマス

若シ人夫カ自ラ心付ヲ要求スル様ナ言動カアリマシタラ直ニ其ノ事實ヲ最寄ノ衛生事務所へ御知ラセテ願ヒマス

八、汲取監視吏員

全市ノ町々ニハ受持ノ巡視カ定メテアリ又各區役所ニハ一名宛ノ監督カ詰メテ居リ其ノ上ニ尙一名ノ監督長カアリマシテ全般ノ監督ヲシテ居リマス

第百七十七 大正十二年十一月十七日尿尿處分ニ關シ愛知縣警察部長ヨリ左ノ通り通牒アリタリ

衛收第九一六三號

大正十二年十一月十七日

岡愛知縣警察部長

川崎名古屋市長殿

尿尿處分ニ關スル件

尿尿處分ニ關シテハ法律省令並縣令等ニ依リ其處置方法等規定セラレ居リ從來之等規定ニ基キ夫々措置セラレ居候事ト信スルモ聞ク處ニ依レハ客月九、十ノ兩日及本月三日何レモ午後十二時ヨリ翌朝三時頃迄ノ間ニ於テ縣下知多郡古見岡田地先ヲ去ル約二里ノ沖合ニ於テ尿尿ヲ海中へ投棄セラレタル由果シテ事實トセハ法規ニ違反スルハ勿論衛生上ニ及ホス影響定ニ寒心ニ堪ヘス且該附近一帶ノ漁業者ニ迷惑ヲ及ホスコト亦甚大ニシテ延ヒテハ自治體ノ體面ニモ關スル事ト被存候ニ就テハ此際特ニ部下ヲ嚴重監督シテ苟モ如上ノ事實ハ勿論如斯風評ノ生セシメサランコトニ御留意相成度依命及通牒候也

第百七十八 大正十二年十一月十九日鴨浦工場作業中止ノ件ニ付愛知縣知事へ左ノ届書ヲ提出セリ

市設鴨浦工場建物ノ一部曩日焼失ニ付當分作業休止致候條此段及御届候也

大正十二年十一月十九日

名古屋市長 川崎 卓吉

愛知縣知事 太田 政弘殿

第百七十九 大正十二年十二月二十二日名古屋市總聯合衛生會副會長ヨリ尿尿處分ニ關シ左ノ建議書ノ提出アリタリ

建議書

本市尿尿處分ニ關シ曩ニ具體的意見開陳致置候處尙之レカ處分方ニ就テハ現況ヲ沿ク市民全般ニ普及徹底セシムルト同時ニ市費輕減策トシテ市民自ラ進ンテ相當施設ヲ加ヘシムル必要ヲ感シ候例セハ住家ニ於ケル便所ノ新築、改築若クハ修繕等ノ場合ハ其尿尿壺ハ可成淨化裝置ニ改メ或ハ各町衛生組合ヲシテ其ノ區

域内ノ屎尿ヲ處分セシムルカ如キ以テ汲取費ノ幾分ヲ輕減シ得ル事ト存候尤モ之レカ工事費及處分費ニ對シテハ市ヨリ相當ノ補助金ヲ交付スル等適當ナル獎勵方法ヲ講セラル、様御配意相煩度此段重ネテ及建議候也

大正十二年十二月二十二日

名古屋市總聯合衛生會

副會長

坂

正

夫

名古屋市長

川崎卓吉殿

第一百八十 大正十二年十二月二十二日中區御器所町砂田町總代ヨリ屎尿汲取ニ關シ左ノ請願書ノ提出アリタリ

屎尿汲取請願陳述書

方今當町ヲ視ルニ居住者日々充溢ヲ示シ現在戸數百六十戸ニ及ヒ人口ハ九百六十人ヲ下ラサル状態ニ於テ尙空家屋百有餘戸アルノ趨勢ニ至リ新築改築盛ニ稟集ナシツ、有ル現在ニテ此充滿シアルニ於テヲヤ、其多數ノ屎尿汲取處置ニ對シ再度市衛生課ニ其請願ヲ促セト何等ノ處置ニ接セス町民タルヤ屎尿ノ處分ニ苦ミ、屎尿ハ自然散亂ナスノ其ノ不衛生ヤ甚シク今時トナリテハ實ニ町責任上町民ニ對シ何等ノ解答スヘキ辭ナク日々其處分ニ困憊ナシツ、アル所以ハ獨リ市衛生課將タ又當町衛生係リノ無責任ヲ絶叫セラレツ在ルノ現在、市當局者タルノ責任ヲ幾何カ、屎尿汲取處分一臂ノ助力ト共ニ徹底的ニ御實行ヲ茲ニ陳述トモニ屎尿汲取處分請願致候也

大正十二年十二月二十二日

名古屋市中區御器所町砂田

(御器所町衛生組合第二十區)

町總代

今泉七五郎

衛生組合長

野村直三郎

名古屋市長

川崎卓吉殿

第一百八十一 大正十二年十二月二十六日屎尿處分ニ關スル縣令改正ニ關シ名古屋市長ヨリ愛知縣知事ヘ左ノ

通り申請書ヲ提出セリ

發衛第三六二號

大正十二年十二月二十六日

名古屋市長

川

崎

卓

吉

愛知縣知事 太田政弘殿

屎尿處分ニ關スル縣令改正ノ義ニ付申請

大正十二年五月縣令第五十七號名古屋市長ヨリ發布當時ノ制定ニ準據セルモノニシテ現今ノ如キ屎尿扱ヒタル時代(明治四十五年二月縣令第二十二號發布當時)ノ制定ニ準據セルモノニシテ現今ノ如キ屎尿處分ノ爲メ巨額ノ市費ヲ支出セサルヘカラサル實情ニ適合セサルノミナラス其ノ設備ニ關シテモ現下ノ時勢ニ適應セサルモノ有之候様被存候條概要別記ノ通り改正相成候様致度此段申請候也

追テ本市屎尿處分ノ現況別紙御參考迄ニ添付致候

別記

三、屎尿汲取運搬時間ノ制限ヲ廢止セラレ度(明治四十五年二月縣令第二十一號ニモ關聯ス)五、六、七、八、一〇ヲ現今ノ實狀ニ適合スル如クシ且ツ衛生上ノ危害ナキニ於テハ之レカ施設ヲ省略シ得ル如ク改メラレ度

大正十一年度以降屎尿處分豫定計畫調(平均一日ノ石數)(大正十二年十一月調査)

年 度	別	自家處分	農民汲取	直營處分	計
大正十一年度		四四石	一、四五七石	一、二〇九石	二、七一九石

大正十二年	三三六	一、五四三	一、九八三	三、八六二
大正十三年	三四七	七〇〇	二、九五三	四、〇〇〇
大正十四年	三五八	六〇〇	三、一九二	四、一五〇
大正十五年	三六九	五〇〇	三、四三一	四、三〇〇
大正十六年	三八〇	四〇〇	三、六七〇	四、四五〇
大正十七年	三九一	三〇〇	三、九〇九	四、六〇〇

大正十三年度以降直營屎尿處分能力調 (平均一日ノ石數)

區分	大正十三年度以降直營屎尿處分能力調 (平均一日ノ石數)						
	三	四	五	六	七	八	九
淨化放流	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇
貯溜場	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇
農船積込	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇	四一〇
船輸送	二、〇〇〇	二、二五〇	二、五〇〇	二、七五〇	三、〇〇〇	三、二五〇	三、五〇〇
合計	二、九五〇	三、二〇〇	三、四五〇	三、七〇〇	三、九五〇	四、二〇〇	四、四五〇

大正十三年度ニ於ケル各處分法ハ左記ノ缺點アルヲ覺悟セサルヘカラス
 (1) 淨化放流ハ新設裝置竣工迄ハ完全ニ淨化セスシテ下水ヘ排出ス
 (2) 貯溜場新築完成迄ハ附近ヘ流出スル虞アリ
 (3) 農船積込及船輸送ハ各積込場ノ工事竣工迄ノ期間ニ於テ天候ノ關係上輸送不能ナル場合ハ止ムヲ得ス
 (4) 河港内ヘ放流スルノ外ナシ
 船輸送ハ「ランチ」建造迄ノ期間目的地ヘ輸送シ能ハサル場合アリ

舊市内屎尿處分別表

(其ノ一) 直營汲取

區別	縣令改正前				縣令改正後				増	減
	戶數	人口	屎尿量	石	戶數	人口	屎尿量	石		
東區	四、四七七	一五、九七〇	一三七	七、五五六	二五、四三二	二八	三、〇七九	九、四六一	八一	
西區	一一、九九五	四五、七三二	三九三	一一、三三五	四六、六〇七	四〇〇	三四〇	八六五	七	
中區東部	一九、三三八	六八、九五八	五九三	一九、三四八	六八、九五八	五九三	〇	〇	〇	
中區西部	八、八六三	三六、三〇〇	三二二	八、八六三	三六、三〇〇	三二二	〇	〇	〇	
南區	四、一七四	一九、六五一	一六九	四、二五〇	一九、八五一	一七一	七	二〇〇	二	
計	四八、八五七	一八六、六三二	一、六〇四	五三、三三三	一九七、一四七	一、六九四	三、四九五	一〇、五三六	九〇	

(其ノ二) 農民汲取

區別	縣令改正前		縣令改正後		增	減
	戶數	人口	戶數	人口		
東區	一四、四三〇	四八、七六六	一一、二七四	三五、八三八	三〇二	△三、一五六
西區	九、三三八	二八、一七三	九、一〇八	二七、四六五	三六	△一、三〇〇
中區東部	四、三三八	一三、八三七	四、一三八	一三、八二七	〇	〇
中區西部	五、五九九	二三、三六六	五、五二六	二二、三三五	〇	△三
南區	八、五六九	二七、三六九	八、四九〇	二七、一九二	七九	△一七六
計	四一、八七四	一三九、五二〇	三八、五六六	一二九、六四六	三、三五八	△九、八七四

(其ノ三) 自家用處分

區別	縣令改正前		縣令改正後		增	減
	戶數	人口	戶數	人口		
東區	四三三	二、四八四	四三三	二、四八四	〇	〇
西區	六四	一、九六八	四〇四	一、八一〇	一六	△二二〇
中區東部	一〇〇	一、一六〇	一〇〇	一、一六〇	〇	〇
中區西部	三五	一、九〇	三八	一、一六一	三	△六二
計	一、三六九	六、六〇三	一、一五五	六、五一一	二一四	△九三

併合町村尿尿處分別表

區別	戶數	人口	尿尿量
南區	一七六	八〇一	七
計	一、三六九	六、六〇三	五七

市營區域內戶數、人口、尿尿量一覽表

區別	直營		自家用		農民		計
	戶數	人口	戶數	人口	戶數	人口	
東區	一、三三七	四、六三六	四〇	一、五八〇	一四八	八、三三〇	二、四二〇
西區	三九〇	一、七七四	一五	四四	一三	〇八六一	二、六二二
中區東部	四、三二〇	八、二四	九三	五三	〇	〇	四、一七四
中區西部	二、四四〇	七、五七〇	六五	一〇七	三三	七、五二〇	三、三一
南區	五二六	二、四四三	二一	三、四七七	八五	八、三七四	二、〇〇〇
計	八、八二四	二七、三三八	二三四	四、一六四	一〇七	二五、九五九	九、三三四

西區	中區東部	中區西部	南區	計
二、八四七 _戸	二、五七六	一、四、四二七	一、三、九三二	九三、一〇一
七、八八三	八、三、四九五	五、八七六	四、七、八三二	三三三、七四四
六五三 _石	七二三	五〇六	四二二	二、八六〇
二五、三、三七 _戸	二七、七五〇	三〇、六七九	一七、七三二	一三〇、九六一
九三、〇六七 _人	九四、一九四	七七、一八一	六四、三五七	四三三、九二二
七九九 _石	八一〇	六六三	五五三	三、七一九

自大正十一年五月至大正十二年五月 尿尿停滯申込月別表

月	別	農民區域	加工區域	計
十一年五月		一、五一五 _件	一、二六二 _件	二、七七七 _件
〃		一、七四八	一、〇四四	二、七九二
〃		二、三二一	一、〇〇四	三、三二六
〃		二、一二一	五九九	二、七二〇
〃		二、一四一	七〇七	二、八四八
〃		二、五九五	八九四	三、四八九

十日間維持シ得サル尿尿便壺表

計	〃	〃	〃	〃	十二年一月	〃	〃
三〇、九二六	二、五八六	一、五二二	二、一六五	二、二〇三	三、〇八〇	三、二八九	三、六四〇
一八、六〇七	二、七八八	二、八八六	九四一	一、一一五	二、一六一	二、一八二	一、〇二三
四九、五三三	五、三七四	四、四〇八	三、一〇六	三、三一八	五、二四一	五、四七一	四、六六三

東區	西區	中區東部	計
便壺過小ナルモノ 一九九 _戸	便壺不足ナルモノ 四三二 _戸	便壺過小ナルモノ 一、二七七	便壺不足ナルモノ 八九四
六三一 _戸	六三一 _戸	一、八二六	二、五四〇

中	區	西	部	三六九	二五四	六二三
南	區			五一三	三四	五四七
計				四、〇〇四	二、一六三	六、一六七

以上ノ外尿尿處分ノ概要及便所改造ニ關スル印刷物並ニ特種營業者廁園改良ニ關スル依頼書寫ヲ添付セリ
 第八十二 大正十二年西區則武町市設塵芥燒却所構内へ容積壹千石ノ尿尿溜壹個ヲ築造セリ
 第八十三 大正十三年一月十八日尿尿放棄ニ關シ名古屋水上警察署長ヨリ左ノ照會アリタルヲ以テ次ノ通
 リ回答セリ

發第一三號

大正十三年一月十八日

名古屋市長殿

尿尿放棄ニ關スル件照會

名古屋水上警察署長

市内過剩尿尿ノ海中放棄ニ關シテハ夫々所定位置ニ放棄方御監督ノ義ト被存候モ近來知多郡大野町沖合約一里以内ノ東部ニテ放棄スルヤノ聞アリ爲メニ昨今ノ如キ西風吹キ頻ル今日大野堤防捨石ノ隨所ニ糞塊夥シク附着シ而已ナラス放棄ノ個所ハ知多郡旭村ヨリ鬼崎村ニ通スル沿岸釣漁業者ノ漁場並餌曳場ト爲シ居レル關係上操業上ノ支障尠カラス延テハ生活上ノ脅威ノ季來タルハ勿論ナリトシ大野町漁業組合理事ヨリ申出ノ次第モ有之候條爾今所定位置ニ於テ放棄スヘキ様御部下ニ對シ嚴重ナル御訓戒爲被下爲様致度此段及御照會候也
 追テ何分ノ御回答相煩シ度申添候

收衛第三〇號ノ一

大正十三年一月二十二日

水上警察署長殿

名古屋市長

川

崎

卓

吉

本月十八日附發第一三號ヲ以テ御照會ニ係ル尿尿海中放流ノ件調査候處最近ニ於テハ客年十二月二十八日北西ノ風強ク浪高キ爲メ鴨浦ヲ距ル約七哩ノ地點ニ於テ發動機ニ故障ヲ生シ不得止該所ニ放流シタルモ本年ニ至リ所定地點以外ニ於テ放流シタルコト無之候條右御承相成度此段及回答候也
 第八十四 大正十三年一月二十一日東區黒門町總代森米吉外四十七名ヨリ千種尿尿淨化裝置移轉ニ關シ左ノ陳情書提出アリタリ

千種町汚物燒却場
 全尿尿淨化裝置 移轉ノ儀ニ付陳情

輓近都市ノ膨脹ト附近農村ノ荒廢ハ大都市ニ於ケル汚物ノ處分ニ大ナル障碍ヲ及ホシ我カ名古屋市ニ於テモ既ニ三ヶ餘年前千種町字豊前ニ汚物燒却所ヲ設置シ市内ノ汚物ヲ燒却セラレ居ルモ其ノ能力ハ到底集積スル汚物ノ十分ノ一ヲモ燒却スル能ハス爲メ燒却場内ニ堆積シテ徒ラニ蠅ノ養成所タルノ觀アリテ附近ノ困難一方ナラザルニ市ハ更ニ尿尿ノ停滯ニ苦ミタル結果場内ニ尿尿淨化裝置ヲ附設セラレタリ而シテ其ノ裝置及取扱方法頗ル不完全ニシテ管ニ名目ノミニ止リ殆ント尿尿ヲ其ノ儘下水管内ニ放置セラレ、處置ノ亂暴ナル實ニ言語ニ絶スルヲ以テ附近住民ハ衛生上ノ見地ヨリ衛生組合長ヲ以テ汚物燒却所ノ移轉ヲ再三再四請願セシニ市ニ於テハ來年度豫算ニ汚物燒却所ヲ移轉シ其ノ跡地ニ淨化裝置ノ一大擴張ヲナサムトスルノ議アリト聞ク現在ニ於テスラ衛生上ノ被害堪ヘカラス且ツ東部ノ發展ヲ阻止セラレ、コト甚シキニ更ニ倍增スル施設ヲセラレン事附近居住者ノ斷シテ忍フ所ニアラス況ヤ市ノ計畫ト稱スル西裏大曾根連絡道路ニシテ開鑿セラレンカ此ノ裝置内ヲ貫通スルニ於テオヤ、賢明ナル閣下願クハ一度現場ヲ視察セラレ沿道ニ在ル我等住民ノ苦痛ヲ察シ増設ヲ中止スルハ勿論既設ノ全部ヲ速ニ撤去シ我等住民ニ永ク居住ノ安

全ト生命ノ安全トヲ與ヘラレン事ヲ町民ヲ代表シ連署ヲ以テ陳情ス
追テ現在ノ狀況及被害ノ模様ハ別紙ニ詳記致候ニ付御熟覽ヲ希フ
大正十三年一月二十一日

黑門町衛生組合長兼總代

森

米 吉

外 四十七名

名古屋市長 川 崎 卓 吉殿

狀 況 書

一、千種町字豊前汚物焼却場ハ來年度移轉ニ付略ス
二、淨化装置ノ過去ト現在

淨化装置ハ初メ附近農民カ屎尿ヲ汲取ラサルニ至リテ大ナル停滯ヲ來シ市ニ於テハ不得止汚物焼却場内
汚水ノ排泄溝ナル小ナル下水管ヨリ直接放流シタルニ始マリ其ノ後現在ノ淨化装置ヲ施サルルニ至レリ
過去ニ於ケル直接放流ノ亂暴ハ言フ俟タサレトモ現在ノ装置モ能力ニ十倍以上ノ屎尿ヲ處分シ之レニ注
入スル上水ハ管ニ名ノミニシテ僅ニ一時ノ小管ニヨルノミ而シテ落口ニ於ケル汚物處置ハ之ヲ引揚ケテ
乾燥ス爲ニ市長就任當時力ヲ極メテ宣傳セラレタル蠅ノ養成所タルノ觀アリテ市長ノ意志ト反對ノ結果
ヲ來シツ、アリ而シテ流下スル屎尿ハ殆ント何等ノ加工セラル、ナク藥品ノ注入モ亦形式ノミヲ以テ現
物其ノ儘下水管ニ流シ込ミツ、アル狀況ナリ

三、沿道ニ於ケル被害

屎尿車ノ往復ニ於ケル臭氣ノ放散ト亂暴ナル取扱ニヨル屎尿ノ漏洩及交通ノ障害ニヨル被害ハ勿論ナル
モ下水管ヨリ漏ル、臭氣ノ被害ハ實ニ甚シキモノアリ、湯屋、飲食店、理髮店ノ如キハ其ノ被害ノ顯著
ナルモノニシテ來客ニ不快ノ感ヲ與ヘ客足ヲ遠カラシメ商品ニ損害ヲ及ホシ營業上ニ支障ヲ被ラシムル
コト幾許ナルヲ知ラス一般住宅ニ於ケル被害ハ個人トシテ其ノ聲ヲ大ニセサルモ濕氣ヲ帶ヘル手拭ノ一
夜ノ内ニ變色シ眞鍮又ハ銅製ノ洗面器カ黒色化シ更ニ悲慘ナルハ前夜美々シク粉黛ヲナシタル妙齡ノ婦
人カ黒ク墨ヲ塗リタル如クナレルカ如キ又夏時ニ於テ深夜臭氣ノ爲メニ安眠ヲ妨ケラレテ小兒ノ突然蹶
起スル等ハ常ニ聞ク處ニシテ是等被害ハ尙忍フヘシトスルモ下水管ノ裝置ハ決シテ絶對的完全ヲ保シ難
ク外部ヘノ浸透ナキヲ保セス近年此ノ沿道ニ於ケル傳染病患者ノ頻發モ亦此レニ基クト云フモ敢テ誣言
ニアラサルヘシ況ヤ是等患者ノ住居ハ總テ下水管ニ接スルニ於テオヤ、之レヲシモ忍フヘキカ更ニ甚シ
キ被害ハ此ノ淨化装置ニ立働ク人夫ニシテ數日連續勞動ニ從事センカ下痢ヲ發シ一週間乃至十日ノ後ニ
ハ必ス兩三日ノ休養ヲ爲サ、ルモノ無キニ至ルト附近ノ噂ニヨレハ舊冬中は等人夫數名現場ニ於テ卒倒
不歸ノ客トナリタルモノアルモ當局ハ之レヲ極秘ニナシツ、アリトカカル風聞ノ起レルモ故ナキニ非ラ
サルナリ

四、過去ニ於ケル市トノ交渉經過

過去ニ於ケル市トノ交渉ハ實ニ其ノ度數ヲ計カル能ハス更ニ亦個人トシテノ交渉ハ一ヶ月二、三回ヲ降
ルコトナカルヘキモ大略ノ經過ヲ敍スレハ淨化裝置設置前渡邊東區長親シク現狀ヲ視察シテ市ヘ改善ノ
方法ニツキ進言セラレ淨化裝置後臭氣ニ堪ヘサルヲ以テ放流時期ヲ夜十二時後ニ制限シ又放流後ハ直ニ
上水ヲ以テ洗滌スルコトニ交渉纏マリ實行セラレシモ放流量ノ増加ハ時間制限ヲ破リテ絶間ナク洗滌ハ
上水量等ノ不足ニ藉口シテ實行セラレス更ニ數回、交渉ニヨリテ僅カニ沿道小下水樹ニ不完全ナカラモ
防臭設備ヲ施サレツ、アリ爲ニ下水管ハ昨年四月以來一回モ洗滌セラレタルコトナク小下水樹ハ防臭設
備ノ爲メニ掃除セサルヲ以テ塵芥汚物停滯シ少量ノ降雨モ道路ヲ浸シ一朝大雨ニ會センカ沿道ノ民家ハ
殆ント浸水セサルナシト云フモ過言ニアラサルナリ此ノ如キ狀態ナルヲ以テ或ハ市長ニ或ハ衛生課長ニ
其ノ改善ヲ迫ルモ常ニ言ヲ左右ニ托シテ一時逃レヲナシ課長ノ如キ是等ノ小事我等ノ知ル所ニ非ラスト
サヘ放言シタルコトサヘアリ又掃除監督者ノ如キハ常ニ其ノ不徹底ヲ認メツ、アルモ上司ノ命トシテ如

何トモスル能ハサルヲ明言シツ、アリ
 上述ノ如キ現状ニアリテ市ニ交渉改善ヲ迫リシコト幾回ナルヲ知ラサルモ隱忍僅ニ今日ニ至リシモ更ニ
 來年度擴張ノ議アルヲ聞クニ至リテハ最早到底默視スル能ハサルヲ以テ此ノ陳情ヲナスニ至リシ所以ナ
 リ

第百八十五 大正十三年一月二十三日興農株式會社愛知肥料購買合資會社及名古屋肥料合名會社ニ對スル尿
 肥料金ニ關シ左記標準ニ基キ名古屋市長ト關係會社ト左記ノ通り覺書ヲ交換セリ

一、大正九年度滯納額ハ減額セス
 理由 大正九年度ハ各會社共順調ニ農民ト契約シ且ツ料金等モ徴收セルヲ以テ減額スルノ理由ナキモノ
 ト認め候

二、大正十年度上半期分ハ半額ヲ減ス
 理由 大正十年五月二十六日日本市ヨリ知多郡始メ六郡農會ヘ一定ノ條件ヲ附シ尿尿無償讓渡ニ付要否照
 會セルニ希望者ナカリシモ之レ市カ從來有價物トシテ處分セル尿尿ヲ無價物トシテ處置スヘク外部ニ
 發表セリ而シテ興農愛知肥料兩會社ヲシテ五月一日ヨリ過剩尿尿ニ對スル加工處分ヲナサシメ需給ノ
 調節ヲ計リタルモ尙ホ且ツ供給超過ノタメニ契約農民中汲取契約ヲ解除スルモノ續出シ會社トシテ經
 營至難ニ陥リタルヲ以テ大正十年七月六日附歎願書ヲ提出セル次第ニ付本期分ハ半減トスルヲ適當ト
 認め候

三、大正十年度下半期分ハ全額免除

理由 大正十年十月以降ハ會社ヲシテ上半期ノ如ク處置セシムルコト絶對不可能ナルヲ認め一部直營汲
 取ヲ開始セサルヘカラサル状態ナリシヲ以テ本期分ハ全額免除スヘキモノト認め候

四、曩ニ沒收セル保證金ハ納付金額中ヨリ控除ス

理由 大正十一年三月六日會社カ契約履行セサリシニ依リ解除ノ上保證金ヲ沒收セルモ事情前陳ノ次第
 ナルヲ以テ特ニ沒收金ヲ見返リ納付金額中ヨリ控除スルヲ至當ト認め候
 以上ノ理由ニ基キ算出セル各會社ノ納付金額ハ別表ノ通りニ有之候

尿肥料徴收金額調

種別	大正十年度		納付金額	控除額	差引金額	未納額	合計	保證金 控除額	差引徵 收金額
	上半期	下半期							
興農會社	八〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	六六,四四五	一三,五五四	一六,〇〇〇	二九,五五四	一一,〇〇〇	一七,五五四
愛知肥料會社	四〇,〇〇〇	一〇,一〇〇	五〇,一〇〇	四三,〇〇〇	五七〇	八,三二五	一六,一三〇	六,〇〇〇	一〇,一三〇
名古屋肥料會社	一,九七五	四九三	二,四六八	一,四八一	四九三	一,〇〇〇	一,三〇〇	三〇〇	一,〇〇〇
計	一二三,三七五	三〇,五九三	一五三,九六八	一一一,〇〇〇	二二,〇三三	二四,三二五	四六,三二八	一八,三〇〇	二八,〇二八

尿肥料契約各會社年度別納付金額減額調

會社別	年次	契約金額	契約上當然 減額金額	特別 減額金額	納付金額	減額 合計	備考
興	大正元年度 (半ヶ年分)	六〇,〇〇〇	三三,三八〇	—	五,六六二	—	—

六、本覺書ハ市會ノ協賛ヲ經ルニアラサレハ效力ヲ生セサルモノトス
右各項ヲ證スル爲メ本書ニ通ヲ作り各其一通ヲ所持スルモノトス
大正十三年一月二十八日

名古屋市長 川崎卓吉
愛知肥料購買合資會社
社長 石川久一郎

覺書

名古屋市ヨリ名古屋肥料合名會社カ請負ヒタル尿尿汲取運搬契約ニ依ル尿尿料未納金納付方ニ付名古屋肥料合名會社ハ左記各項ヲ實行スルモノトス

左記

- 一、大正十年度上半期分ハ市ニ於テ半額ヲ控除シ名古屋肥料合名會社ハ殘餘ノ半額ヲ納付スルモノトス
 - 二、大正十年度下半期分ハ市ニ於テ之ヲ免除スルモノトス
 - 三、市ハ名古屋肥料合名會社ヨリ納付ノ保證金ヲ見返リ納付金中ニ算入スルモノトス
 - 四、本覺書ハ市會ノ協賛ヲ經ルニアラサレハ效力ヲ生セサルモノトス
- 右各項ヲ證スル爲メ本書ニ通ヲ作り各一通ヲ所持スルモノトス
大正十三年一月二十五日

名古屋市長 川崎卓吉

名古屋肥料合名會社

代表者 平野竹四郎

第八十六 大正十三年二月八日尿尿處分ニ關スル件中愛知縣令ヲ以テ左ノ通り改正セラル

縣令第十五號

大正十二年五月縣令第五十七號尿尿處分ニ關スル件左ノ通り改正ス

大正十三年二月八日

愛知縣知事 太田政弘

三、第二項中「多量ニ排泄スル場所ニ對シ」以下ヲ「テハ其ノ狀況ニ依リ一日乃至一週間一回以上其ノ他

ハ少クトモ二週間一回以上汲取ラシムルコト

但シ尿尿停滯ノ申告アリタルトキハ即時ニ之ヲ取扱ラシムルコト

四、尿尿ノ汲取運搬處置竝處分ニ關スル方法及設備ハ豫メ當廳ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

四、以下削除

附則

五、本令ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十七 大正十三年二月十二日尿尿處分實施狀況等ニ關シ愛知縣警察部長ヨリ左ノ照會アリタルヲ以テ

次ノ通り回答セリ

衛收第八七六號ノ内

大正十三年二月十二日

愛知縣警察部長

名古屋市長 川崎卓吉殿

尿尿處分ニ關スル件照會

貴市ニ於ケル尿尿處分實施ノ狀況竝將來ノ計畫ニ關シ內務省衛生局長ヨリ照會有之候條至急御調査ノ上御回答煩シ度此段及照會候也

衛收第七三號ノ一

大正十三年二月十九日

名古屋市長 川崎卓吉

本月十二日附衛收第八八七六號ヲ以テ御照會ニ係ル尿尿處分ニ關スル件左記ノ通りニ有之候條此段及回答候也

一、本市ノ處分權ニ屬スル尿尿汲取區域戸數十二萬一千九百二十五戸ニシテ平均一日ノ尿尿排泄量三千八百六十二石ナリ而シテ其内自家處分ニ委スルモノ三百四十二石農民汲取搬出千五百四十三石殘餘ノ千九百八十三石ハ市直營トシテ人夫二百七十三名ヲ使役シテ汲取リ搬出シタル尿尿ハ市郊外ニ築造シタル尿尿貯溜場へ平均一日百六十石本縣知多郡及岐阜、三重兩縣沿海農村へ無償船積交付四百四十石殘餘ノ千三百八十三石ハ本市築港外ニ在ル硫酸工場過般燒失ノ爲メ嚴重消毒ノ上縣下大野町ト三重縣四日市市絡線ノ中央熱田ヲ距ル十六哩ノ地點海中ニ放流スルノ已ムヲ得サル現況ニ有之猶將來ニ於ケル計畫連ニ就テハ永遠ノ策トシテハ大下水道ノ完成ヲ期シ一般汚水ト共ニ淨化ノ上河海ニ放流スル計畫ニシテ既ニ其ノ調査設計モ終了セントシタルヲ以テ近キ將來起債ノ上工事ニ着手セントスルモ其ノ間ニ於テハ前記方法ヲ完全ニ實行スル爲メ十三年度ニアリテハ百五十石積尿尿船三十艘ト三十五噸積曳船汽船二艘ヲ（現在十噸積曳船二艘尿尿船三十九艘ヲ使用ス）新造シ現在地點ヨリ更ニ三哩沖ニ投棄スルコトニ改メ尙風波ノ爲メ航海不能ノ場合ヲ顧慮シ約十日間尿尿ヲ貯溜シ得ル「タンク」數ヶ所ヲ河岸船積場ニ築造シ非常時ニ備ヘントスル外船積不便ノ地區數ヶ所ニ尿尿貯溜場及淨化裝置ヲ併置スルト同時ニ公設便所ヲ淨化裝置ニ改良スルト一般市民ニ淨化裝置ヲ勸誘シ（既設淨化裝置公設便所二十六ヶ所市民淨化裝置七十八ヶ所アリ）猶農民汲取獎勵ノ爲メ獎勵金ヲ増額シ一面沿海農村船積交付ヲ督勵シ以テ尿尿處分ノ圓滿ヲ期シ度計畫ニ有之候

第百八十八 大正十三年二月二十六日尿尿料金減額ノ件ニ付左ノ通り市會ニ提出セリ

大正十三年第五十四號議案

尿尿料金減額ノ件

本市ト興農株式會社愛知肥料購買合資會社及名古屋肥料合資會社ト契約ニ係ル尿尿料金滯納金ハ別紙覺書ノ通り大正九年度下半年分ハ之ヲ完納セシメ大正十年ハ其上半年分ヲ半減シ同下半年分ヲ全免セントス

大正十三年二月二十六日提出 名古屋市長 川崎 卓吉

理由

本案ヲ提出シタルハ本市尿尿需要ノ狀況ト請負會社ノ資産狀態ヲ斟酌シ其代金ノ一部減免スルノ止ムナキニ由ル

覺書

名古屋市ヨリ興農株式會社カ請負ヒタル尿尿汲取運搬契約ニ依ル尿尿料金未納金納付方ニ付興農株式會社ハ左記各項ヲ實行スルモノトス

左記

- 一、興農株式會社ハ大正九年度未納金一萬六千圓ハ全部完納スルモノトス
- 二、大正十年度上半年分ハ市ニ於テ半額ヲ控除シ興農株式會社ハ殘餘ノ半額ヲ納付スルモノトス
- 三、大正十年度下半年分ハ市ニ於テ之ヲ免除スルモノトス
- 四、興農株式會社ハ納付金一部ノ代償トシテ左記土地建物ヲ市ノ算定シタル時價ニ依リ提供シ不足額ハ現金ヲ以テ納付スルモノトス

1、土	地	田	畑
東區下飯田町字東原千二百四十一番地	田	十一歩	
同	田	五畝二十七歩	畦畔十四歩
同	田	千二百六十一番番	
同	畑	千二百六十二番地	十四歩

同	千二百六十三番地	田	六步
同	千二百六十八番地	田	五畝十二步 畦畔十七步
同	千二百六十九番地	畑	一畝九步 畦畔八步
同	千二百七十番地	田	十六步
計			
南區瑞穂町字五反田四十三番地		田	一反五畝十六步
同		畑	八畝步 畦畔十六步
同		畑	三畝二十五步 畦畔十二步
計			
合計			一反二畝二十三步
2、建物			二反八畝九步

東區下飯田町字東原地内事務所瓦葺平家 一棟
 同 屎溜覆鐵板葺 一棟
 同 屎溜 十四ヶ所
 中區東川端町堀留屎積込タンク 一ヶ所
 同 瓦葺平家(タンク上家) 一棟
 五、市ハ興農株式會社ヨリ納付ノ保證金ヲ見返リ納付金中ニ算入スルモノトス
 六、本覺書ハ市會ノ協賛ヲ經ルニアラサレハ效力ヲ生セサルモノトス
 右各項ヲ證スル爲メ本書貳通ヲ作り各壹通ヲ所持スルモノトス
 大正十三年二月九日
 名古屋市長 川崎卓吉
 興農株式會社

取締役社長 堀尾茂助

名古屋市ヨリ愛知肥料購買合資會社カ請負ヒタル屎尿汲取運搬契約ニ依ル屎尿料未納金納付方ニ付愛知肥料購買合資會社ハ左記各項ヲ實行スルモノトス

左記

- 一、愛知肥料購買合資會社ハ大正九年度未納金八千三百十五圓十六錢ハ全部完納スルモノトス
- 二、大正十年度上半期分ハ市ニ於テ半額ヲ控除シ愛知肥料購買合資會社ハ殘餘ノ半額ヲ納付スルモノトス
- 三、大正十年下半年期以降ノ分ハ市ニ於テ之ヲ免除スルモノトス
- 四、愛知肥料購買合資會社ハ納付金額ニ相當スル屎尿汲取運搬人夫ヲ市ノ要求ニ應シ隨時大正十三年十月迄ニ提供スルモノトス
- 但シ人夫賃金ノ算出ハ市ノ指定ニ據ルモノトス
- 五、市ハ愛知肥料購買合資會社ヨリ納付ノ保證金ヲ見返リ納付金中ニ算入スルモノトス
- 六、本覺書ハ市會ノ協賛ヲ經ルニアラサレハ效力ヲ生セサルモノトス
- 右各項ヲ證スル爲メ本書貳通ヲ作り各其壹通ヲ所持スルモノトス

名古屋市長 川崎卓吉
 愛知肥料購買合資會社 社長 石川久一郎

名古屋市ヨリ名古屋肥料合名會社カ請負ヒタル屎尿汲取運搬契約ニ依ル屎尿料未納金納付方ニ付名古屋肥料合名會社ハ左記各項ヲ實行スルモノトス

左記

- 一、大正十年度上半期分ハ市ニ於テ半額ヲ控除シ名古屋肥料合資會社ハ殘餘ノ半額ヲ納付スルモノトス
 - 二、大正十年度下半期分ハ市ニ於テ之ヲ免除スルモノトス
 - 三、市ハ名古屋肥料合名會社ヨリ納付ノ保證金ヲ見返リ納付金中ニ算入スルモノトス
 - 四、本覺書ハ市會ノ協賛ヲ經ルニアラサレハ效力ヲ生セサルモノトス
- 右各項ヲ證スル爲メ本書貳通ヲ作り各壹通ヲ所持スルモノトス
- 大正十三年一月二十五日
- 名古屋市長 川崎卓吉
- 名古屋肥料合名會社
代表者 平野竹四郎

第百八十九 大正十三年三月一日大正十三年第五十四號議案尿肥料減額ノ件ハ市會ニ於テ委員附託トナリ
左記七氏委員ニ指名セラレタリ

- 委員 伊藤勘兵衛 土井宗三郎 田中喜助 浦部章三 福澤稔 佐治榮太郎
- 廣瀬惣兵衛

委員會ハ三月三日、同十二日、同十三日ノ三回開催覺書中左記ケ所ヲ修正可決セリ

興農株式會社分

一項二項ニ「大正十三年四月末日迄ニ」ヲ加フ

愛知肥料購買合資會社分

一項二項ニ「大正十三年四月末日迄ニ」ヲ加フ

四項ヲ「市ハ右納付金ノ一部ニ對シ其ノ所要ニ應シ愛知肥料購買合資會社ヲシテ人夫ヲ提供セシメ其ノ辨濟ニ充當セシムルコトヲ得

但シ其ノ期間ハ大正十三年十月末日迄トシ人夫賃金ノ算出ハ市ノ指定ニ據ルモノトスレト改正ス

名古屋肥料合資會社分

一項中ニ「大正十三年四月末日迄ニ」ヲ加フ

本議案ハ大正十三年三月十七日市會ニ於テ委員會修正ノ通り可決セリ

第百九十 大正十三年三月十二日鴨浦工場機關定期検査延期方左記ノ通り愛知縣知事へ申請セリ

本市鴨浦工場機關ノ定期検査ヲ本月十七日施工可相成旨豫告有之候處工場ハ客年九月燒失後作業休止中ニシテ今後作業開始ノ期日モ未定ニ付當分ノ内右検査ノ儀延期相成候様致度此段申請候也

大正十三年三月十二日

名古屋市長 川崎卓吉

愛知縣知事 太田政弘殿

第百九十一 大正十三年三月二十日興農株式會社愛知肥料購買合資會社及名古屋肥料合名會社ニ對スル尿肥料減額ノ件市會ニ於テ委員會修正ノ通り可決ニ付三月二十日左ノ通り覺書ノ交換ヲ了セリ

名古屋市ヨリ興農株式會社カ請負ヒタル尿尿汲取運搬契約ニ依ル尿尿料未納金納付方ニ付興農株式會社ハ左記各項ヲ實行スルモノトス

左記

- 一、興農株式會社ハ大正九年度未納金一萬六千圓ハ大正十三年四月末日迄ニ全部完納スルモノトス
- 二、大正十年度上半期分ハ市ニ於テ半額ヲ控除シ興農株式會社ハ殘餘ノ半額ヲ大正十三年四月末日迄ニ納付スルモノトス
- 三、大正十年度下半期分ハ市ニ於テ之ヲ免除スルモノトス
- 四、興農株式會社ハ納付金一部ノ代償トシテ左記土地建物ヲ市ノ算定シタル時價ニ依リ提供シ不足額ハ現

愛知肥料購買合資會社

社長 石川久一郎

名古屋市ヨリ名古屋肥料合名會社カ請負ヒタル屎尿汲取運搬契約ニ依ル屎尿料未納金納付方ニ付名古屋肥料合名會社ハ左記各項ヲ實行スルモノトス

左記

- 一、大正十年度上半期分ハ市ニ於テ半額ヲ控除シ名古屋肥料合名會社ハ殘餘ノ半額ヲ大正十三年四月末日迄ニ納付スルモノトス
 - 二、大正十年度下半期分ハ市ニ於テ之ヲ免除スルモノトス
 - 三、市ハ名古屋肥料合名會社ヨリ納付ノ保證金ヲ見返リ納付金中ニ算入スルモノトス
- 右各項ヲ證スル爲メ本書貳通ヲ作り各壹通ヲ所持スルモノトス
- 大正十三年三月二十日
- 名古屋市長 川崎卓吉
- 名古屋肥料合名會社

第九十二 大正十三年三月二十日屎尿處分ニ關スル方法設備ニ付愛知縣知事へ左ノ屆書ヲ提出セリ
發衛第九三號

屎尿處分屆

本年二月本縣令第十五號ヲ以テ本市屎尿處分ニ關スル縣令改正相成候ニ付同則第四項ニヨリ屎尿ノ汲取運搬處置並處分ニ關スル方法設備左記ノ通り實行致度候條御認可相成度此段及御屆候也

大正十三年三月二十日

名古屋市長 川崎卓吉

愛知縣知事 太田弘殿

一、汲取運搬方法

- (イ) 本市屎尿汲取區域ヨリ排泄スル一日ノ屎尿量約四千石ニシテ其ノ汲取ヲ内譯スレハ
- (イ) 自家耕作物ノ肥料ニ供スルモノ約三百十二石
- (ロ) 本市ト市郡農民ノ間ニ契約セル無償汲取約千六十石
- (ハ) 市直營汲取約二千六百石
- (ニ) 淨化裝置ニ依リ下水道ニ放流スルモノ二十八石

二、直營汲取運搬方法

- (イ) 屎尿汲取人夫一日三百五十名ヲ市内五ヶ所ニ設置セル衛生事務所ニ配置シ數人ヲ以テ班ヲ編成シ數町ヲ分擔セシム人夫賃ハ一日金二圓五十錢ト定メ一人ノ汲取責任量ヲ平均七石四斗餘トシ汲取量ノ多寡ニ依リ歩引又ハ歩増金ヲ支給ス
 - (ロ) 汲取容器ハ二斗一升入桶ナルモノ一斗八升ヲ限度トシテ汲取ラシメ且ツ臭氣ノ發散セサル完全ナル蓋ヲ付シ一車ニ八本乃至十二本ヲ積載運搬セシム
 - (ハ) 屎尿ノ多量ニ排泄スル場所ニ對シテハ毎日又ハ一週一回其ノ他ハ十日目毎ニ汲取リ且ツ停滯申込ニ對シテハ即時人夫ヲ派遣シ汲取ラシム
 - (ニ) 第一項 (ロ)ニ記載セル農民汲取ハ年々減少スルノミナラス農繁期及降雨其他ノ場合ニ汲取ヲ怠ルモノ減少セサルヲ以テ前年ヨリ契約戶數一戸十五錢ノ割合ヲ以テ獎勵金ヲ交付督勵スルモ尙停滯セシメ市民ヨリ汲取申込アリタル時ハ即時直營人夫ヲ派遣シ汲取ラシム此場合屎尿一石ニ付金五十錢ノ割合ニテ代執行費ヲ農民ヨリ徵收ス
- 一、同上處分ニ關スル方法及設備

一、汲取リタル尿尿ノ處分ハ貯溜場搬入、農船無償交付及海中放流トス
 (イ) 河川ヲ利用スル分ハ舊堀川ハ景雲橋、中橋、傳馬橋、洲崎橋、日置橋、上下山王橋、古渡橋、瓶屋橋、新堀川ハ堀留、御器所、羽城橋ノ各積込場ニ於テ船積ノ上南區明治新田ニ下船シ夫レヨリ「ラシチ」二隻ヲ以テ尿尿船數隻宛ヲ曳航同所ヨリ約十九哩先ナル知多郡大野町ト三重縣四日市市トノ中間沖合ニ放流ス其ノ量一日約二千石

(ロ) 海中放流尿尿ニ對シテハ尿尿船ニ濾過器ヲ附設シ積込ノ際ニ於テ紙及布片ヲ完全ニ除去シ漁業上支障ナカラシムルコトニ努メ一面五千倍乃至一萬倍ノ割合ニ「クロールカルキ」ヲ投入消毒ス
 (ハ) 農船交付ハ縣下知多郡海部郡及岐阜三重兩縣ノ海川沿岸農村ヨリ運行シ來ル農船ニ無償交付ス其ノ量一日平均約四百四十石ノ豫定ナリ

(ニ) 既設尿尿貯溜場ハ中區御器所町字白金二千五百石入三個同町字向田地内汚物處理所内二千五百石入一個八百石入一個百石入五個南區八熊町一千石入一個百三十石入三個十四石入十四個西區則武町燒却場内二千石入一個東區下飯田町地内二十四石入十四個アリ以上各貯溜場へ搬入スル尿尿ハ一日平均約百六十石ニシテ此尿尿ハ市郡農民希望者ニ交付シ汲出サシム
 二、以上處分ニ要スル器具船員船夫左ノ如シ

(イ) 尿尿運搬車豫備共三百八十五輛、尿尿桶豫備共三千八百五十本、現在使用尿尿船三十九隻ニシテ新造二十七隻ノ豫定ナリ「ランチ」ハ現在約十噸ノモノ二隻ヲ有スルモ十三年度ニ於テハ普通風波ニ堪ユル三十噸級「ランチ」二隻ヲ新造ノ計畫ニ有之從ツテ現在船員四名ヲ八名ニ船夫十五名ヲ二十八名ニ増員ノ計畫ニ有之候

以上

第百九十三 大正十二年度中ニ於ケル尿尿汲取其他ニ關シ契約セル者並ニ其契約條項左ノ如シ

記

- 一、尿尿汲取搬出契約者上田幾右衛門外四百四十六名
- 二、尿尿船積無償交付契約者内川幸一外二十八名
- 三、尿尿船貸與並尿尿無償交付契約者古川貞之助外二名
- 四、尿無償交付並尿尿溜無償貸借契約者加藤杉太郎

以上契約書寫左記ノ通り

一、尿尿汲取搬出契約書

名古屋市長ヲ甲トシ

ヲ乙トシ名古屋市内ニ於ケル尿尿無償汲取搬出ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 乙ハ別表汲取區域内ノ尿尿ヲ汲取搬出スルモノトス

第二條 本契約期間ハ大正 年 月 日ヨリ大正 年 月 日迄トス

第三條 乙ハ甲ニ對シ汲取契約保證金トシテ金 圓ヲ提供スルモノトス

第四條 乙ハ契約締結後五日以内ニ汲取區域内各戸ノ尿尿汲取人配置表ヲ作製シ甲ニ提出スルト同時ニ其

ノ排泄量ニ應シ甲ヨリ指定セラレタル汲取日次ニ依リ常ニ停滯ナキ様完全ニ汲取掃除ヲ爲スモノトス

第五條 暴風雨等ニ因ル浸水便壺ノ掃除ハ甲ニ於テ適宜ノ處分ヲ爲スモノトス

第六條 乙カ滿半ケ年間第四條ノ義務ヲ完全ニ履行シタル場合ハ甲ハ甲ノ定メタル規定ニ據リ乙ニ對シ相

當ノ獎勵金ヲ交付スルモノトス

第七條 乙カ尿尿ノ汲取掃除ヲ怠リタルトキハ甲ハ代執行ヲ爲シ其ノ尿尿ハ甲ニ於テ適宜處分ス

甲ニ於テ代執行ヲ爲シタルトキハ乙ハ汲取尿尿壹石ニ付金五十錢ノ割ヲ以テ甲ニ代行費ヲ納付スルモノトス

前項代行業ハ前月中ノ分ヲ翌月拾五日迄ニ納付スルモノトス

第八條 甲ハ乙カ正當ノ理由ナク又ハ誠意ヲ以テ本契約ノ履行ヲ爲ササルモノト認メタルトキハ何時タリトモ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ハ第三條ニヨリ乙ノ提供シタル保證金ハ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ所得ニ歸シ代行業ノ未納其ノ他損害アルトキハ乙ハ別ニ之ヲ賠償スルモノトス

第九條 乙ハ屎尿汲取區域ノ増減汲取處分方法ノ改良及其ノ他ニ關シ甲ノ指示ニ從フモノトス

第十條 本契約條項ニ疑義ノ生シタル場合ハ市長ノ意見ニ從フモノトス

本契約ヲ證スル爲メ本證貳通ヲ作り各壹通ヲ所持スルモノトス
大正十二年三月 日 名古屋市長 川崎 卓吉

二、屎船積無償交付契約書

名古屋市長ヲ甲トシ某ヲ乙トシテ屎船積無償交付ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 乙ハ名古屋市 屎船積込場ヨリ自己ノ所有スル船舶ヲ航海シ屎ノ輸送ヲ爲スモノトス

第二條 乙ハ前條輸送ノ爲メ左記船舶ヲ使用シ毎月

一、船舶

石積

艘

石以上ヲ輸送スルモノトス

但シ暴風雨其他變災ノ爲メ甲ニ於テ航海不可能ナリト認メタル場合ハ此限リニアラス

第三條 乙ハ本契約保證金トシテ金

圓ヲ甲ニ提供シ置クモノトス

第四條 乙カ契約石數ノ輸送ヲ怠リタルトキハ輸送不足石數壹石ニ付金拾錢ノ割ヲ以テ過怠金ヲ徵收スルモノトス過怠金ハ甲ノ通知ニ依リ前月中ノ分ヲ翌月拾五日迄ニ乙ハ甲ニ納付スルモノトス

第五條 本契約期間ハ大正 年 月 日ヨリ大正 年 月 日迄トス

第六條 乙ハ有料タルト無償タルトヲ問ハス本契約ニ依リ交付ヲ受ケタル屎ヲ契約團體員以外ノ者ニ交付スルコトヲ得サルモノトス

但シ名古屋市長ヲ距ル數里以外ニ輸送スルモノハ此限リニアラス

第七條 甲ハ乙カ正當ノ理由ナクシテ本契約ヲ履行セスト認メタルトキハ之ヲ催告シ尙之ニ應セサルトキハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ハ第三條ノ保證金ハ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ所得ニ歸シ過怠金未納其他損害アルトキハ乙ハ別ニ之ヲ賠償スルモノトス

第八條 甲ハ屎尿處分方法ノ變更其他本契約ヲ履行シ得サル事情ノ生シタル場合ハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得ルモノトス

但シ此ノ場合乙ニ損害アルモ甲ハ賠償ノ責ニ任セス

第九條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ甲ノ意見ニ從フモノトス

本契約ヲ證スル爲メ本證貳通ヲ作り各壹通ヲ所持スルモノトス

大正 年 月 日 名古屋市長 川崎 卓吉

三、屎船積無償交付契約書

名古屋市長ヲ甲トシ何縣何郡何町(村)農會長ヲ乙トシ屎船積無償交付ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 甲ハ乙ニ對シ屎尿輸送ノ用ニ供スル屎尿船ヲ無償ニテ何石積何隻ヲ貸與スルモノトス

第二條 乙ハ甲ノ貸與シタル屎尿船ヲ概ネ十日以内ニ壹隻宛甲ノ指定セル積込場ニ廻航シ屎尿ノ無償輸送ヲ爲スモノトス

但天災地變ニテ甲ニ於テ航行不可能ト認メタルトキハ來航セサルモ妨ケナシ

第三條 乙カ第一條ノ屎尿船ヲ破損シタルトキハ甲ハ之カ修理ヲナシ其費用ハ乙ヨリ徴收ス尙亡シタルトキハ乙ハ損害賠償ノ責ニ任スルモノトス

但輕微ナル修理ハ甲ノ承認ヲ得テ乙ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第四條 本契約期間ハ大正 年 月 日ヨリ大正 年 月 日マテトス

第五條 乙ハ本契約保證金トシテ契約ト同時ニ金何圓ヲ甲ニ提供スルモノトス

第六條 甲ハ乙カ正當ノ理由ナク又ハ誠意ヲ以テ本契約ヲ履行セサルモノト認メタルトキハ催告シ尙之ニ應セサルトキハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ハ第五條ニ依リ乙ノ提供シタル保證金ハ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ所得ニ歸シ尙其他ノ損害アルトキハ乙ハ別ニ之ヲ賠償スルモノトス

第七條 屎尿處分方法ノ變改其他ノ事由ニ依リ甲ニ於テ本契約ヲ解除スルコトヲ得此場合ハ第五條ニ依リ

乙ノ提供シタル保證金ヲ還付スルノ外乙ニ損害アルモ甲ハ賠償ノ責ニ任セサルモノトス

第八條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ名古屋市長ノ意見ニ依リ本契約ヲ證スル爲メ本證貳通ヲ作り各壹通ヲ所持スルモノトス

大正 年 月 日 名古屋市長 川 崎 卓 吉

四、屎無償交付並屎尿溜貸借契約書

名古屋市長ヲ甲トシ名古屋市中區池田町七十番地加藤杉太郎ヲ乙トシ屎ノ無償交付並ニ屎尿溜無償貸借ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 甲ハ乙ニ對シ中區御器所町汚物處理所内ニ設備シタル屎尿溜一個ヲ無償貸與シ且ツ同所ニ於テ毎日屎約五十石宛ヲ無償交付ス

第二條 乙ハ甲ノ交付シタル屎ヲ以テ乾糞肥料ノ製造ヲナスモノトス

第三條 乙ハ本契約保證金トシテ契約ト同時ニ金百圓ヲ甲ニ提供スルモノトス

第四條 乙ハ屎尿溜ニ工作物ヲ附設セントスルトキハ甲ノ承認ヲ受クルヲ要ス

前項工作物ハ契約解除ノ際之ヲ取毀テ原形ニ復スヘシ

第五條 屎尿溜ノ修理ハ乙ニ於テ之ヲ行フヘシ

但シ施工ノ際ハ甲ノ指揮ヲ受クルヲ要ス

第六條 乙ハ加工シタル製品ヲ即日場外ニ搬出スヘシ

第七條 乙カ前各條ノ義務ヲ怠リタル場合ハ甲ニ於テ代執行ヲナシ其ノ費用ヲ乙ヨリ徴收スルモノトス

第八條 甲ハ乙カ本契約ヲ履行スルコト能ハスト認メタルトキハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ理由カ乙ノ契約不履行ニ基ク場合ハ第三條ニヨリ乙ノ提供シタル保證金ハ違約金トシテ甲ノ所得ニ歸ス

第九條 本契約期間ハ大正十二年十二月二十八日ヨリ大正十三年三月三十一日迄トス

第十條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ甲ノ意見ニ從フモノトス

名古屋市長 川 崎 卓 吉
名古屋市中區池田町七十番地 加 藤 杉 太 郎

備考 大正十三年四月一日ヨリ大正十四年三月卅一日迄引續キ契約ヲ締結セリ

第九十四 大正十三年五月二日屎尿處分ニ關スル方法及設備ノ件左ノ通り認可セラレタリ
指令衛第二〇二八號 名古屋市長 川 崎 卓 吉

大正十三年三月十九日附届屎尿處分ニ關スル方法及設備ノ件認可ス
 大正十三年五月二日 愛知縣知事 太田政弘
 第百九十五 大正十三年五月十五日中區御器所町本多常次郎外四名ヨリ屎尿汲取ニ關シ左ノ請願書ノ提出アリタリ

請願書

當御器所町東郊電車線以東ハ最近著シキ發展ヲナシ人家日ニ増シ稠密トナリ屎尿處分ニ就テハ非常ナル困難ノモトニ附近ノ農家ニ依頼シ一回金二十錢乃至三十錢ヲ提供シテ辛フシテ一時ヲ凌キ來タリシモ近來農家ハ屎尿ノ必要ナキヲ以テ更ニ依頼ニ應セス止ムヲ得ス衛生上ノ危險ヲ顧慮スルノ暇ナク附近ノ小川、空地或ハ道傍ノ溝渠等ニ放棄スルモノ頗ル多ク衛生上默視スル能ハス茲ニ別紙千貳百餘戸ノ住民連署ヲ以テ請願仕候間至急可然御處置相願度此段及申請候也

大正十三年五月十五日

代表者 本多常次郎

外四名

名古屋市長 川崎卓吉殿

第百九十六 大正十三年六月十日興農株式會社ヨリ土地建物提供證書提出ニ付登記其ノ他ノ手續了セリ

土地提供證書

名古屋市東區下飯田町字東原千二百四十一番	田	十一步	外十四步畦畔
同 所	田	五畝二十七步	外十四步畦畔
同 所	畑	十四步	外二步畦畔
同 所	田	六步	
同 所	田	五畝十二步	外十七步畦畔

同 所

千二百六十九番

畑 一畝九步

外八步畦畔

同 所

千二百七十番

田 十六步

此見積價格金九千七百八十六圓也

右本社所有地汚物處理用地トシテ御市へ納入スヘキ屎尿代金壹萬七千五百五十四圓五十七錢支拂未濟ノ代償トシテ名古屋市ニ提供致シ異議ナキコトヲ證スルタメ本書差入候也

大正十三年六月十日

名古屋市東區小市場町四丁目二十九番地

興農株式會社

右代表者 堀尾茂助

名古屋市長 川崎卓吉殿

(大正十三年六月十日登記濟)

土地提供證書

名古屋市南區瑞穂町字五反田四十三番	田	八畝步	外十六步畦畔
同 所	畑	三畝二十五步	外十二步畦畔

此見積價格金五千五百五十三圓五十錢

以下前文同様省略

代償物件提供證書

名古屋市東區下飯田町字東原
 一二六一、一二四一、一二六九、一二七〇 番
 一二六二、一二六三、一二六八

一、平家建事務所（六坪八合瓦葺）壹棟 此見積價格 金二百十圓

同 所 同 番 拾四個 此見積價格 金百六十八圓

同 所 同 番 一、屎尿溜覆鐵板葺（四十二坪四合）一棟 此見積價格 金二百八十四圓

見積價格 合計 金六百六十二圓
右未登記物件御市へ納入スヘキ屎尿代金壹萬七千五百五十四圓五十七錢支拂未濟ノ代價トシテ名古屋市ニ
提供致シ異議ナキコトヲ證スル爲本書差入候也

大正十三年六月十日

名古屋市中區東區小市場町四丁目二十九番地

興農株式會社

右代表者

堀尾茂助

名古屋市長 川崎卓吉殿

（大正十三年六月三十日登記濟）
代價物件提供證書

名古屋市中區東川端町一丁目第一號ノ内ノ一

一、屎尿積込タンク 一ヶ所 此見積價格 金二百二十九圓八十錢

同 所

一、瓦葺臭氣抜付平家建 一棟 此見積價格 ナシ

以下前文同様省略

（右建築物ハ大正十年九月暴風ノタメ倒壊セルヲ市費改築セルヲ以テ買收金額ヲ計上セス）

（大正十三年六月 日登記濟）

第九十七 大正十三年六月十二日屎尿處分ニ關シ愛知縣警察部長ヨリ左ノ通り通牒アリタリ

衛發第六七號

大正十三年六月十二日

愛知縣警察部長

名古屋市長殿

屎尿處分ニ關スル件

縣令屎尿處分ニ關スル件中汲取區域ヲ擴張シ中區御器所町ノ全部ヲ編入シ本年八月一日ヨリ實施スヘク不日縣令改正公布相成ヘク候ニ付豫メ相當準備ヲ遂ケ之レカ實施上遺憾ナカラシメラレ度尙同町電車東郊線以東ノ方面ハ目下屎尿處分上差措キ難キ狀況ニ有之候ニ付テハ改正縣令實施前ニ於テモ差當リ支障無之様御取計相成度此段及通牒候也

第九十八 大正十三年六月二十日屎尿處分ニ關スル件中愛知縣令ヲ以テ左ノ通り改正セラレタリ

縣令第八十號

屎尿處分ニ關スル件中左ノ通改正シ大正十三年八月一日ヨリ施行ス

大正十三年六月二十日 愛知縣知事 山脇春樹

第一項其三中「御器所町ノ内字白金、向田、鳥喰、布池、大清水、菱池、古市場、吸場、島西浦、小針、西鶴舞、外田、上赤島、鎌田、下鳥田、上鳥田、江越」ヲ「御器所町」ニ改ム

第九十九 大正十三年十月七日東區千種町總代箕浦保高外八名ヨリ屎尿淨化裝置撤廢ニ關シ左ノ請願書

ノ提出アリタリ

在千種町字豊前屎尿淨化裝置撤廢ニ關スル件請願
從來舊市ノ東端ニ位置シアリタル千種町字豊前汚物燒却場竝ニ屎尿放流場ハ近來市ノ發展ト共ニ附近住民

ニ對シ非常ナル非衛生的ナル場所トナリシ爲メ之ニ近接スル住民ヨリ屢々移轉撤廢ヲ請願シタル結果市當局ノ檢分トナリ相互間幾分ノ諒解ヲ得テ本年始メテ僅カニ汚物焼却ノミハ一時之ヲ禁止セラレタル爲メ附近住民ハ幾分蠅ノ襲來少キヲ得タルハ勿論汚物ノ堆積ニヨル酸酵ヨリ生スル惡臭ト之カ燃燒ヨリ生スル臭煙ノ爲メニ蒙ル日常衣食住ニ對スル有形無形ノ不快不潔ヲ幾分減スルコトヲ得ルニ至リタルモ猶ヨリ以上ノ非衛生的ナル尿尿放流ヨリ生スル惡臭ハ一日トシテ之カ襲來ヲ免ル、能ハサルノミナラス之ニ近接スル住民中ニハ他ニ比シテ多數ノ傳染病患者ヲ出シタル有様ニテ千種町字豊前及東矢場町黒門町ノ三ヶ町ニテ本年内ニ腸窒扶斯ニ罹リタルモノ已ニ十數名ヲ算シ現ニ城東病院ニアルモノ數名而シテ之レカ爲メ死亡シタルモノ亦數名ニ達シ年々頻々トシテ續發シ然カモ年々倍加スルノ傾向アリ然シテ是等罹病者ノ大多數ハ淨化裝置ヨリ一丁以内ニアルモノニシテ傳染ノ徑路ハ一ニ淨化裝置ト之カ流路タル下水管ヨル來ルモノトシテ附近住民ハ一日トシテ安キ日ナク洵ニ寒心ニ堪エサル次第ニ付此際斷然尿尿放流ヲ禁止セラレ度仄聞スル所ニヨレハ尿尿放流ノ爲ニ其附近ニ傳染病毒ノ傳播スルモノニ非ラスト説明セラレタル市衛生課員アリトノ事ナルカ間接傳染ノ機會ヲ多カラシムルコトハ識者ノ説明ヲ待タストモ首肯セサルヲ得サル次第ニ付何卒附近住民ノ苦衷ヲ憫察セラレ一面ニハ市ノ體面上及衛生上ヨリ斷然尿尿放流淨化裝置ヲ撤廢セラレ度シ況ンヤ該淨化裝置ニヨリ處分セラルル尿尿ノ量ハ一日僅ニ二十八石ノ少量ニ過キスシテ之レカ被害ハ前述ノ如ク實ニ甚タシキモノアルニ於テオヤ二十八石ノ少量之ヲ他ト同一方法ニテ處分シ得ラレサルニ非ラサルヘク又附近農民ニ汲取ラシムルモ敢テ難事ニモ非ラサルヘシ吾等一同ノ此ノ請願ヲナス敢テ賢明ナル市當局ノ苦心ヲ省察セサルニアラス又敢テ望蜀的自我觀念ニ基因スルモノニ非ス要ハ戰慄スヘキ事實ノ發生ハ一日モ之ヲ默過スヘカラサルニヨル希クハ賢明ナル市長閣下深甚ノ考慮ヲ拂ハレ吾等住民ノ苦惱ヲ察シ直ニ尿尿淨化裝置撤廢ノ御處置ヲ仰キ度茲ニ附近町民一般ヲ代表シ及請願候也

追伸 本請願ニ對シ何分ノ指示ヲ得度懇願候也

名古屋市東區千種町字豊前

町 惣代 箕 浦 保 高

外 八 名

大正十三年十月七日

名古屋市長 田 阪 千 助殿

第二百 大正十三年十月八日午後一時ヨリ市參事會室ニ於テ尿尿處分ニ關スル協議會ヲ開催ス市理事者ノ外出席者左ノ如シ

尿尿處分ニ關スル協議會出席者人名

- | | | | |
|---------|-----------|---------|-----------|
| 縣衛生課長 | 山 方 喜 太 郎 | 縣農務課長 | 代理 鈴木縣屬 |
| 縣水產課長 | 杉 浦 保 吉 | 水上署長 | 北 村 隆 一 |
| 知多郡水產會長 | 川 口 兵 三 | 熱田漁業組合長 | 今 堀 安 太 郎 |
| 上野村村長 | 神 野 半 三 郎 | 橫須賀町町長 | 橋 本 鏗 太 郎 |
| 八幡町町長 | 代理 蟹江助役 | 八幡町農會長 | 土 井 久 太 郎 |
| 旭 村 村 長 | 小 嶋 甚 之 助 | 旭村農會長 | 青 木 善 |
| 大野町町長 | 萩 原 憲 三 | 鬼崎村村長 | 代理 伊藤助役 |
| 常滑町町長 | 榊 原 助 太 郎 | | |

第二百一 大正十三年十月第二回市政懇談會開催ノ際出席者(衛生組合長及町總代)ニ左記印刷物ヲ配付セリ

名古屋市汚物處分ノ概要 (大正十三年五月印刷)

其一 尿 尿

現在本市ノ處分權ニ屬スル尿尿市營區域内ノ戸數十二萬一千九百二十五戸、人口五十五萬七千七百四十

五人ニシテ尿尿一日ノ排泄量約四千石トス
第一處分ノ方法

- 一、自家處分尿尿 一日約三百四十石 自家耕地ノ肥料及淨化装置ニ依リ處分スルモノ
 - 二、農民汲取搬出尿尿 一日約千六十石 農民ト契約シ汲取搬出スルモノ
 - 三、市直營人夫汲取搬出尿尿 一日約二千六百石
- 右ハ農民ノ汲取搬出セサル所謂過剩尿尿ニシテ其ノ處分別左ノ如シ
- イ、沿海農村ヨリ廻航シタル尿尿船へ無償又ハ有料交付スルモノ 一日約四百三十石
 - 兩堀川河岸及附近貯溜場ニ於テ定期若クハ不定期ニ無償又ハ有料交付ス
 - ロ、貯溜場へ搬入シ有料又ハ無償ニテ農民へ交付スルモノ 一日約百六十石
 - ハ、淨化消毒ノ上下水管へ放流スルモノ 一日約二十五石
 - 千種焼却所内ニ設置ノ特種装置ニ依リ處分ス
 - ニ、市有船ニ積込ミ海中へ投棄スルモノ 一日約千九百八十五石
- 兩堀川河岸ニ於テ特殊尿尿船へ積込ミ消毒ノ上港外約十九海里ノ沖合へ投棄ス
- 第二雇傭船員人夫

所屬區別	曳船々長以下	水上輸送船夫	同上雜役人夫	陸上運搬人夫
東區衛生事務所	1人	1人	1人	89人
西區衛生事務所	1人	7人	2人	80人
中區東部衛生事務所	1人	7人	3人	99人

第三 使用運搬器具

所屬區別	備考	一人一日平均支給額	計	中區西部衛生事務所	南區衛生事務所
東區衛生事務所	一日一回若クハ二回往復ス	2,500 ^円	8	4	55
西區衛生事務所	一日一回若クハ二回往復ス	2,600 ^円	8	25	36
中區東部衛生事務所	一日一回若クハ二回往復ス	2,600 ^円	7	11	359
中區西部衛生事務所	尿尿積込場ニ於テ殘渣整理等ニ従事ス	2,000 ^円	1	1	2,500 ^円
南區衛生事務所	一人一日汲取責任石數五石二斗乃至八石八斗	2,500 ^円	1	1	2,500 ^円

所屬區別	曳船	船	尿尿船	車	桶
東區衛生事務所	1隻	1隻	1隻	110 ^臺	920 ^箇
西區衛生事務所	1隻	1隻	17隻	90	880
中區東部衛生事務所	1隻	1隻	22隻	120	1,100
中區西部衛生事務所	1隻	1隻	10隻	60	680
南區衛生事務所	2隻	2隻	10隻	45	440
計	2隻	2隻	59隻	425	4,020

備	考	一筒一斗八升入
	一隻十噸、一隻十三噸 外ニ三十五噸級ノモノ 二隻目下建造中	
	一隻百石乃至二百五十 石ニシテ總石數八千六 百三十石	
	一車桶八箇積ナルモノ 夫ノ強弱ニヨリ十二箇 マデ積載ス一日三回乃 至六回往復ス	

其二 塵 芥

現在本市ニ於ケル常時塵芥掃除蒐集區域内ノ戸數十三萬五百四十五戸、人口六十四萬二千二百八十一人ニシテ塵芥一日ノ產出量九十八立坪餘重量約七萬八千五百五十貫トス

第一 處分ノ方法

- 一、則武燒却所 一日約十五立坪 此重量一萬二千貫 送風式燒却爐ニシテ火爐六個、七馬力半ノ電動力ヲ以テ送風シ燃燒ヲ容易ナラシム
- 二、假燒却所 一日約八十三立坪 此重量六萬六千五百五十貫 市ノ郊外ニ八ヶ所ヲ選定シ亞鉛板扉ヲ圍繞シ常置人夫ヲ配置シ一部ヲ燒却シ一部ハ埋立ニ利用ス 尙防蠅ノ爲メ毎日石油乳劑ヲ撒布ス

第二 蒐集ノ方法

市内ヲ十一區(東區二區域、西區二區域、中區東部三區域、中區西部二區域、南區二區域)ニ分チ各別ノ請負人ヲシテ毎日平均馬車六十二輛、手車二十六輛ヲ以テ區域内ノ塵芥ヲ所定ノ期日ニ蒐集運搬ス 其三 汚物處分ニ要スル經費

大正十三年度ニ於ケル汚物處分ニ要スル經常費總額ハ金七拾五萬參千參百貳拾六圓ニシテ戸數一戸當リ金五圓參拾參錢人口一人當壹圓八錢ニ相當ス

第二百二 大正十三年十二月十五日知多郡常滑町役場ヨリ屎尿放棄場所ニ關シ左ノ通り照會アリタリ 發第四九七〇號

大正十三年十二月十五日

名古屋市役所御中

知多郡常滑町役場

屎尿放棄場所ニ關スル件

別紙ノ通り本町漁業組合長ヨリ届出有之候ニ就テハ篤ト取調ヘ候處事實相違無之漁業者ハ殆ント閉口致居候次第ニ有之候條何卒漁業者ノ迷惑トナラサル個所ヘ放棄スヘキ様御下命相成度此段及照會候也 (別紙)

大正十三年十二月十一日

常滑町漁業組合理事 水野 信次郎

常滑町長 柳原 助太郎殿

屎尿放棄場所ニ關スル件

右者大正十三年十二月八、九日兩日本町漁業組合員儀午後六時頃ヨリ本郡日永岬西方約二海里沖合ヨリ打瀬漁業ヲナシ午前一時頃鬼崎村字浦池西方約二海里沖合ニテ漁網引上ケタルニ屎尿充滿シテ手ノ付ケ様ナク大イニ困却セリ之レ則チ名古屋市ノ屎尿運送船カ投棄シタルニ相違ナク此後ニ至リ右様ナル事アラハ伊勢内海ノ水産業者ハ非常ニ迷惑スルモノナルカ故ニ何卒適當ナル御處置ニ預リ度此旨該市役所ヘ御交渉有之度此段及報告候也

第二百三 大正十三年十二月二十五日屎尿放棄ニ關シ常滑町役場ヘ左ノ通り回答セリ

衛收第四八一號ノ一

大正十三年十二月二十五日

名古屋市役所

常滑町役場御中

本月十五日發第四九七〇號御照會ニ係ル屎尿放棄場所ニ付テハ規定ノ地點ニ於テ放流スル様船舶係ニ對シ

嚴重注意致置候條御承知有之度候也

第二百四 大正十三年十二月二十六日縣有借地用途變更ニ付愛知縣知事へ左ノ通り申請セリ
發衛第二七一號

縣有借地用途變更ノ儀ニ付申請

名古屋市南區東築地五九新開地四町七反七畝二十歩ノ内五畝歩

期間 自大正十七年十一月 至大正十七年十月 十ヶ年使用料年額金十八圓

右本市電氣局變電所敷地トシテ借用致居候處今回變電所廢止致候ニ付テハ市有汽船用石炭置場竝倉庫建築用地トシテ用途變更致度候間御承認相成候様致度此段申請候也

大正十三年十二月二十六日

名古屋市長 田 阪 千 助

愛知縣知事 山 脇 春 樹 殿

第二百五 大正十四年一月十九日中區東川端町北部青年會長外四十五名ヨリ堀留尿尿積込場撤廢ニ關シ左ノ請願書ノ提出アリタリ

請願書

名古屋市中區東川端町一丁目堀留ニ設置セラレアル當市衛生課ニ屬スル尿尿溜ノ爲メ永年一般市民ハ勿論特ニ附近住民ハ營業上及衛生上ニ多大ノ損害且ツ被害ヲ蒙リ居リ故ニ之レカ撤廢方ヲ再三請願致シ來リ候處未タ何等ノ御處置無之淚ヲ吞テ完全ニ御措置ヲ期待シツ、アリシモ依然トシテ何等得ル處ナク延ヒテ各自ノ生活上及衛生上ニ忍ヒサル不結果ヲ生シ止ムナク再ヒ之レカ撤廢ヲ請願スル次第ナリ希クハ請願者而己ノ少數ナル利害ヲ問ハス廣大ナル本市將來ノ上ヨリ觀察セラレ特ニ御詮議ノ上撤廢方御聽許被成下度左ニ之レカ願旨ヲ列記シ謹而請願仕候也
衛生上ヨリ觀タル點

- 一、保菌消毒不完全
- 二、臭氣放散

營業上ヨリ觀タル點

- 一、新堀川中物資運搬ハ堀留地ヲ以テ最高地トス
- 二、同所ニテ陸上シタル物品ハ當市最高美觀地タル廣小路ヲ始メ遠ク千種大曾根方面一帶ニ運搬ヲナス交通上ヨリ觀タル點
- 一、八事線モ最近連續スレハ公衆ノ通行モ甚大ナリ
- 風 致 ノ 點
- 一、軌道附近ニ尿尿溜アルハ甚タ風致ニ害アリ

大正十四年一月十九日

名古屋市中區西川端北部青年會

會長 大 館 錠 治 郎

外四十五名

名古屋市長 田 阪 千 助 殿

第二百六 大正十四年一月二十九日申請ノ縣有地用途變更ノ件ニ付愛知縣知事ヨリ左ノ通り承認セラレタリ
會第一三號

大正十四年一月二十九日

愛知縣知事 山 脇 春 樹

名古屋市長 殿

貸付縣有地用途變更ノ件

大正十三年十二月二十六日附發衛第二七一號申請貸付縣有地ノ用途ヲ市有汽船用石炭置場並倉庫建築用地トナスノ件承認候也

第二百七 大正十四年二月六日中區西川端町森川利兵衛外百九名ヨリ堀留尿積込場設備撤回ニ付左ノ陳情書ノ提出アリタリ

新堀川尿尿取扱所新設ニ付陳情書

名古屋市ノ二大運河ノ一ナル水陸便ノ輻輳地タルヘキ新堀川ノ終點ニ尿尿取扱所ノ存置ハ多年所在附近住民怨嗟ノ中心ニシテ當時ニ於テ設置案ノ具體化スルヤ吾人ハ當局ニ屢々陳情ヲ重ネ其設置ノ無カラントニ努メタルモ遂ニ今日ニ至レリ

最近仄聞スル處ニ依レハ市ハ現在ノ新堀川尿尿取扱所ヲ廢シ更ニ現在ノ場所ヨリ以南約三十間ノ位置ニ大規模ノ計畫ノ下ニ尿尿取扱所ヲ新設サルヘク既ニ諮問機關タル市衛生調査會ニ附議サレ今ヤ着々進捗シツ、アリト、果シテ吾人ノ推測ノ如ク該地點ニ新設ノ實現ノ悲シキ運命ニ逢着センカ附近住民ハ以前ニ倍加シテ層一層不安ト危險ノ恐レヲ抱クモノニシテ吾人ハ陳情ノ骨子ヲ左ニ舉ケ陳情致シ候ニ付充分御調査ノ上特別ノ御詮議ヲ以テ新設案ヲ撤回シテ附近住民ノ不安ヲ除カレ度茲ニ以連署陳情候也

一、陳情事項

一、衛生 二、交通 三、住民地域ニ隣接

一、由々シキ問題トシテ保健衛生上一日モ忽ニスヘカラサルハ臭氣發散問題殊ニ夏季ニ於ケル臭氣ハ川底浚渫不充分ノ爲メ下水泥土並ニ塵埃汚物ノ腐敗ト共ニ臭氣甚タシク其慘ナルコトハ附近住民ニアラスシテハ到底味フヘカラサル事ニシテ能ク筆舌ノ盡スヘキニアラス實ニ附近住民ノ一大悲哀ナリ

二、新設企圖ノ地點ハ荷車、馬車、貨物自動車等殆ト車ノ集散地ノ觀アル通路ニテ平素スラ交通ノ圓滑ヲ缺ク(通路ノ狹小ノ爲)然ルニ此地點ニ尿尿取扱所ヲ新設センカ終日出入スル尿尿車二百餘車輛ノ爲

メニ交通ノ輻輳スル事ハ言フ迄モナク一層混雜ノ程度ヲ増シ一般交通ニ支障ヲ多カラシムル虞アリ尙水運ニ於テモ尿尿運搬船並ニ沿岸筏船ノ繫留等ノ爲メ荷役船ノ上下ヲ妨ケ從來ニ比シ一層ノ停船ヲ見滯貨ハ續出シテ一般ノ迷惑ナルハ明白ナリ

三、尿尿取扱所ノ存廢ヲ論議スルハ今更迂遠ナルモ試ニ設置スルノ要アリトスレハ先ツ考慮ヲ要スヘキハ住民地域ノ問題ナリ然レハ現在ノ場所ト新設ノ場所兩者ヲ比較スルトキハ松元小學校及ヒ一般居住民ノ隣接ニハ距離ニ於テ其ノ中心ヲ距ル事ニ於テ差ヲ有スルモノナリ

以上

大正十四年二月六日

市內中區西川端町一丁目一番地

森川利兵衛

外百九名

第二百八 大正十四年二月十四日尿尿放流ニ關シ三重縣三重郡長ヨリ左ノ照會アリタリ

水第二六號

大正十四年二月十四日

三重縣 三重郡 長

名古屋 市長殿

大正十四年二月十四日尿尿放流ニ關スル件

昨年來伊勢灣內就中當郡沖合ニ名古屋港ヨリ尿尿ノ船舶(五十石積位)ニテ搬出(小型汽船ニテ曳航ス)シ海中ニ放棄スルモノアリテ出漁者ノ漁網及漁獲物ヲ汚漬致候爲メ苦情續出昨今殆ント其ノ高調ニ達シ何時現場ニ於テ如何ナル珍事ヲ惹起スルヤモ難計形勢ニ有之付テハ取締上左記事項承知致度候條急々御回報相煩度此段及照會候也

- 一、名古屋市民ノ尿尿處分方法
 - 二、右處分ニ對スル貴市ノ取締方法
 - 三、右尿尿ノ搬出責任者
- 第二百九 大正十四年二月十九日鴨浦工場ニ於ケル肥料製造營業休止届左ノ通り愛知縣知事へ届出タリ
發衛第四五號

肥料製造營業休止届
市設鴨浦工場ニ於テ硫酸安母尼亞製造ノ儀都合ニ依リ當分ノ内休止致候條此段及御届候也
大正十四年二月十九日

製造營業免許第七二〇號

愛知縣知事

山 脇 春 樹 殿

名古屋市長

田 阪 千 助

第二百十 大正十四年二月二十日尿尿放流ニ關シ三重縣三重郡長へ左ノ通り回答セリ
收衛第七六號ノ一

三重 郡 長 殿

名古屋市長

田 阪 千 助

尿尿放流ニ關スル件回答
本月十四日附水第二六號御照會相成候標記ノ件左記ノ通り御了承有之度候
追テ冬季ニ於テハ稀ニ航行中急ニ風波起リ避難ノ爲メ航路ヲ貴郡沖合ニ轉シ歸港スルコトアルモ途中尿
尿ヲ投棄スルカ如キコトハ絶エテ無之候條申添候

- 一、名古屋市民ノ尿尿處分方法
 - イ、本市ト特ニ契約シタル農民團體ニ汲取ラシメ生肥トシテ處分ス
 - ロ、本市ノ設備シタル貯溜池ニ搬入シ附近農民ニ有料交付ス
 - ハ、市有船及農村ヨリ廻航シ來ル船ニ積込ミ伊勢灣沿岸及岐阜縣海津郡方面ノ農村へ交付ス
 - ニ、便所ヲ洋式ニ改メ之ニ淨化装置ヲ附設シ淨化ノ上下水道ニ放流處分ス
 - ホ、以上ノ方法ニヨリ處分シタル殘餘ハ嚴重消毒ノ上市有船ニ積込ミ名古屋港ヲ距ル約二十五哩ノ沖合ニ輸送處分ス
 - 二、海中輸送ニ對スル取締方法
 - イ、各船ニ吏員一名ヲ毎時乗船セシメ規定ノ位置ニテ處分スヘク指揮監督セシム
 - ロ、風波激シキ場合ハ出航ヲ中止ス
 - ハ、出發後風波起リ規定ノ場所ニ到着シ得スト思料シタルトキハ途中ヨリ歸港スルモノトシ規定外ノ所ニテハ絶對處分セサルモノトス
 - 三、尿尿搬出責任者
海上輸送ニ付テハ其ノ都度乗船シタル市吏員トス
- 第二百十一 大正十四年二月二十四日尿尿放棄ニ關シ三重縣内務部長ヨリ左ノ照會アリタリ
農第一四五三號
大正十四年二月二十四日
名古屋市長殿

屎尿投棄海面ノ件ニ付照會

貴市屎尿處分ニ就テハ相當御考慮中ノ事トハ存候ヘ共目下之ヲ伊勢灣ニ放棄セラル、爲メ出漁者ノ漁網漁具ヲ汚瀆シ殊ニ漁網ノ如キハ紙類ノ纖維ニ網目ヲ閉鎖セラレ使用ニ堪エサル状態トナルコトアリ若シ此ノ問題カ一般ニ周知セラレ、トキハ伊勢灣漁獲物ハ社會ヨリ嫌忌セラレ漁價頓ニ下落シ漁業者ノ生活ヲ脅ス結果トナリ又伊勢灣沿岸多數ノ海水浴場ニ集マル避暑客モ如斯状態ヲ知ルトキハ遂ニ其ノ影ヲ没シ地方ノ繁榮ヲ阻害スルコト尠カラス又若シ惡疫流行等ノ場合ヲ想像セハ實ニ憂慮ニ堪エサルモノ有之候本件ニ付テハ既ニ關係當業者屢々貴市ニ出張陳情セシ趣ニ有之又貴市ニ於テモ其ノ投棄場所ヲ漸次南方ニ移サレツ、アルモ潮流ノ關係上本縣三重河藝郡沿岸ヲ侵スコト甚シク爲メニ漁民不穩ノ状態ニ有之候間貴市ニ於テモ完全ナル處分方法ヲ講セラル、迄其ノ投棄場所ヲ左記ノ通り御實行相成其結果ヲ徵スル様致度此段及照會候也

追テ何分ノ儀御回報相成度候也

記

渥美半島大山ヨリ本縣志摩郡安乘燈臺見通線ヨリ東南

但荒天等ニテ右場所マテ運航シ難キ場合ハ野間崎ヨリ伊勢國朝熊山頂見通線ヨリ東本縣沿岸ヨリ六湮以上ヲ距ル所

第二百十二 大正十四年二月二十五日中區東川端町一丁目總代水谷文一外四名ヨリ堀留屎尿積込場ノ設備ニ付左ノ陳情書提出アリタリ

新堀川屎尿取扱所新設ニ付陳情書

近代大都市ニ於テ諸種ノ施設ニ於テ文化的ニ大ニ見ルヘキモノアリト雖モ獨リ都市ノ膨脹ニ伴ヒ尤モ爲政者ノ苦慮困憊スルハ屎尿ノ處置ニアリト思料セラレ候果セル哉吾名古屋市ニ於テモ往年屎尿ノ排棄地タリ

シモノカ却テ人家ノ密集セシ爲メ其ノ處置益々困難ヲ極メ故ニ中央ニアル住民ハ常ニ屎尿ノ横溢ニ苦ミ爲政者又大ナル犠牲ト人力ノアラン限リ努力ヲ爲シツ、アリト雖モ尙及ハサル憾アルハ誠ニ遺憾ニ堪エサル次第ニ有之候然ル處今回新堀川堀留ニアリタル屎尿取扱所ヲ適當ナル施設ヲナシ能率ノ増進ニ努メ以テ前述ノ難關ヲ緩和シ同時ニ多年吾人ノ主張スル美觀ヲ重シ且ツ衛生的設備ヲ加ヘル爲メ近ク市ノ機關ニ對シ其ノ施設ニ着手セラル、由誠ニ吾人永年ノ希望ヲ實現シ得ルト思考シ轉々欣快ニ堪エサル次第ニ有之候然ルニ仄聞スル所ニ依レハ現在ノ取扱所ヨリ南方三十間ノ位置ニ取扱所ノ變更新設セラル、ヤニ有之候果シテ然ラハ道路ノ幅員關係ニ於テ狹隘ヲ感シ其ノ爲メ人馬ノ往來ニ多大ノ支障ヲ來シ延テハ吾人住民ノ商業上將又交通上甚大ナル損害ヲ來ス儀ニ有之候然ルニ現在取扱所ノ位置ハ幅員廣キ道路ニ接シ居リ交通上ノ支障ヲ來スカ如キ候ナキモノト思考セラレ候ニ付希ハ現在ノ屎尿取扱所ノ位置ニ於テ適當ナル施設アラシム事ヲ切望仕リ候ニ付附近住民ノ意ノ有ル處ヲ酌量シ可然御採納相成度以上ノ主旨貫徹ノ目的ヲ以テ一同連書ヲ以テ陳情候也

大正十四年二月二十五日

市内東川端町一丁目

惣 代 水 谷 文 一
外 四 名

名古屋市長 田 阪 千 助 殿

第二百十三 大正十四年二月二十五日淺海利用研究會長ヨリ下水ノ排出屎尿放棄ニ關シ左ノ通り希望申出アリタリ

淺研會發第十七號

大正十四年二月二十五日

愛知縣愛知郡下ノ一色町
淺海利用研究會長 村上隆吉

名古屋市長 田阪千助殿

拜啓春寒料峭ノ候愈々御清穆之段慶賀至極ニ奉存候陳者客年三月二十八、二十九日ノ兩日間愛知縣愛知郡下ノ一色町淺海利用研究所ニ於テ本會第一回大會ヲ開催シ東京、京都、石川、鳥取、富山、徳島、千葉、神奈川、長崎、熊本、山口、福井、愛媛、高知、青森、佐賀、三重、静岡、兵庫、大分、福岡、滋賀、香川、岐阜、岡山、廣島、愛知、茨城、鹿兒島、北海道、朝鮮等ヨリ關係者二百六十二名相集マリ研究討議ノ結果左記事項ハ斯業上最モ緊急施設ヲ要スヘキ事項ナリト認メ滿場一致決議致候ニ付テハ事情御賢察ノ上至急御施設相成候様特ニ御配意相煩度一道二府二十七縣及朝鮮關係者一同ヲ代表シ此段得貴意度候也

記

一、都市ノ下水排出尿尿放棄ニ關スル件

理由

大都市ニ近キ淺海ニ於テハ下水ノ排出尿尿ノ放棄ニ依リ水族ノ蕃殖ヲ害セラル、事甚シク漁業及養殖業ノ實施ニ痛切ナル損害ヲ被ルノミナラス其ノ漁獲物ハ生鮮ノ儘食膳ニ上ス場合多キヲ以テ食品衛生及惡疫豫防上亦一日モ忽諸ニ附スル能ハサルナリ近來都市計畫ノ實施ニ依リ夫々適當ナル方法ノ必スヤ講セラルヘキヲ思ヒ衷心之ヲ喜フト雖モ海中産業ノコト往々一般人士ノ思ヒ及ハサル事項多キヲ常トス依ツテ貴市ニ於テ從來現ニ下水ノ排出尿尿ノ放棄ニ關シ何等思慮ノ及ハサル事項ニ對シテハ速ニ適當ナル措置ヲ講セラレ度同時ニ幸ニシテ今後都市計畫ヲ實施セラル、場合ニハ此際計畫ノ遺漏ナキヲ期スルタメ都市計畫地方委員中ニ貴管内水産關係者ヲ加ヘラル、ハ勿論苟モ沿海漁業場又ハ養殖場ノ水質ヲ汚瀆スルカ如キ事項ニ關シテハ必ス關係水産會若クハ當淺海利用研究會ノ意見ヲ徵セラル、様切望スルモノナリ

第二百十四 大正十四年二月二十六日尿尿放流者取締方ニ關シ三重縣三重郡長ヨリ左ノ照會アリタリ

水第三二號

大正十四年二月二十六日

三重縣 三重郡長

名古屋市長殿

尿尿放流者取締方ノ件

本月二十一日附收衛第七六號ノ一ヲ以テ貴市住民ノ尿尿放流ニ關シ御回答ノ趣了承然ル處事實ハ當郡乃至四日市沖合ニ時々放棄スル旨沿海漁民ヨリ申出有之自然此儘放置スル時ハ何時違法ノ行爲ニ出ルヤモ難計思料セラレ候條從業者ニ對シ篤ト御注意相成候様致度此段重ネテ及御照會候也

第二百十五 大正十四年三月九日名古屋市會ニ於テ左記意見書可決ノ上内務大臣へ提出セリ

意見書

學校、劇場、活動寫真館、寄席、工場、會社、料亭、旅館ノ如キ衆人ノ居住シ又ハ集合スル場所ニ於テハ衛生上特別ノ注意ヲ要スルニ拘ラス尿尿ノ取扱亂雜ニシテ時ニ其ノ臭氣不潔堪エ難キモノアリ更ニ近時本市ノ膨大ナル發展ト共ニ市内排泄ノ尿尿夥シク増加シタルニ拘ラス其ノ利用方法之ニ伴ハス却テ其ノ適當ナル處分ニ付大困難ヲ感スル状態ニ在リ此ノ際法令ヲ以テ右ノ如キ場所ニ限り必ス淨化裝置ノ施設ヲ命スルハ蓋シ衛生上社會上必須ノ方策タルト共ニ本市現下ノ窮狀ヲ緩和スルニ至大ノ便益アリト信ス閣下幸ニ本市ノ實狀ヲ明察シ速ニ適當ナル法令ヲ設定セラレムコトヲ望ム

大正十四年三月 日

名古屋市會議長 大岩勇一夫

内務大臣 若槻禮次郎殿

提出者 水野利三郎

三四
外 五 名
内 兼 吉
外 二十三名

第二百十六 大正十四年三月十三日中區東陽町一丁目總代成瀨初太郎外十八名ヨリ堀留尿積込場移轉ニ關シ左ノ陳情アリタリ

陳 情 書

名古屋市ハ今ヤ中部日本ニ於ケル文化ノ中心地トシテ軌近ノ進歩發展著シク序ヲ追フテ施設セラル、都市計畫ノ實施ト相俟ツテ水路網道路網ハ將ニ成ラントシテ大名古屋市ヲ出現セントシツ、アルノテアルカ此ノ大都市ノ中央樞要地ニ於テ一大不祥事ノ行ハレツ、アルヲ一市民トシテ遺憾トナシ茲ニ大正十四年度本市豫算市會ノ開會ヲ期トシ其ノ改善方ヲ陳情セントス
即チ市内千早線沿道堀留ニ設置シアル尿積込場ノ移轉ヲ懇請スルモノニシテ既ニ同問題ハ再三輿論ニ上リタルモ今尙依然トシテ移轉サレズ日々積込ヲ實施サレツ、アルハ大名古屋市ノ一大醜事トシテ言語ニ宿セス市街ノ交通ト美觀ノ點ヨリ先ツ見シカ早線ハ市内五大幹線ノ一ツトシテヤカテ大津町ヲ西部ニ貫通サレ江川ニ達セントス是カ完成ノ曉ハ必スヤ中央街路トシテ現廣小路線、岩井町線以上ノ繁華ト交通ノ繁雜ヲ來スニ至ルハ明カナリ此個所ニ於テ惡臭鼻ヲ劈ク無數ノ汚物運搬車ハ集合堵列シ而モ不完全ナル裝置ニ依ル汚物汲出シノ醜狀ハ交通上一大障害ヲ來ス而已ナラス一日何人ト雖モ嘔吐ヲ催スノ感ヲ起サ、ルナシ金ノ鯨ヲ以テ誇ル名古屋市ノ中心ニ斯カル忌ハシキ醜狀ノ持續サル、ニ至ラハ金鯨ノ聲名ヲ化シテ惡臭氣口鼻撮スルヲ得サル所謂黃金ノ町ト汚名ヲ蒙ルニ至リ他都市ヨリ嘲笑ノ的トナランモ計リ難シ又其ノ附近ニ於ケル商業盛衰ノ點ヨリ見ルモ都市計畫ニ伴ヒ折角水陸ノ便ヲ有シツ、斯ル不祥事ノ爲メニ先ツ水利ノ便ヲ阻害シ加フルニ顧客ヲ遠カラシムルハ當然ニシテ延テハ其附近一帶營業ノ衰退ノ釀ス憂充分ナ

リ尙衛生方面ヨリ見ルモ近來衛生思想ノ發達ハ盛ニ喧傳サレ當局ニ於テモ家屋内外ノ清潔法或ハ傳染病ノ取締其ノ他ノ衛生施設ヲ嚴重ニ實行セシメラレツ、アル今日斯ノ如キ大都市ノ中央地帯ニ於テ前記ノ如キ汚物ノ蒐集點ト定メラル、ハ矛盾モ甚タシキモノト言フヘク如何ニ同所ノ設備完備スルト雖モ日々汚物ノ蒐集地トシテ如何ナル傳染病菌ノ撒布サル、ヤモ計リ難ク危險極マリナシ斯ノ如キ大名古屋市ノ交通ニ美觀ニ商工業ニ大影響ヲ及ボス樞要地ノ發展ヲ阻害シ而モ衛生上一大脅威ヲ與ヘ尙名古屋市ノ面目ニ傷ケントスル一大不祥事ノ改善ヲ懇請シ賢明ナル市當局ノ一考ヲ煩ハシ速ニ積込場ヲ移轉セラレ以テ中心地ノ發展ニ支障ナク汚物ノ處分法ヲ講セラレン事ヲ右及陳情候也
大正十四年三月十三日

市中區東陽町一丁目

惣 代 成 瀨 初 太 郎
外 十八名

名古屋市衛生課長 金 原 庄 治 郎 殿

第二百十七 大正十四年三月三十日尿尿海中投棄ニ關シ三重縣内務部長ヨリノ照會ニ對シ左ノ通り回答並ニ依頼セリ

衛收第八二號ノ一

大正十四年三月三十日

三重縣内務部長 殿

名古屋市長 田 阪 千 助

客月二十四日附農第一四五三號ヲ以テ尿尿海中投棄ノ件ニ付御照會ノ趣了承本市尿尿處分ニ付テハ淨化ノ上下水管ニ放流スルモノ本市附近農村へ搬出利用スルモノ及本縣岐阜三重縣下沿岸農村へ舟送交付ヲナス等ノ處分ヲ行ヒ尙剩餘分アル場合ニ限り熱田港ヲ距ル約三十哩陸岸ヲ距ル數哩ノ地點ニ於テ干潮ニ際シ投

棄スルコト、シ灣内ニ汚物ノ殘存セサル様留意致シ且ツ汚物ハ船積ノ際完全ナル消毒法ヲ施行シ衛生上全ク危害ナキヲ期シ居候間御諒知相成度尙漁網ニ附着スル虞アル纖維ノ除去ニ付テハ銳意研究中ニ付是又近ク完成ノ筈ニ候間併セテ御了承相成度此段及回答候也
衛收第八二號ノ二

大正十四年三月三十日

三重縣内務部長殿

名古屋市長 田 阪 千 助

本市屎尿處分ニ付テハ農村ニ利用セシムヘク極力手段方法ヲ講シ勸誘致居候へ共市附近ニ於テハ最早ヤ需
要ノ餘地無之候ニ付貴管下桑名郡ノ一部ノ者ニハ既ニ無償交付ノ契約致居候へ共尙同郡内及三重河藝郡ノ
沿岸町村農民ニ於テ利用希望者可有之カト存候ニ付希望者有之候へハ一定ノ條件ヲ附シ舟送ノ上無償交付
可致候條郡町村農會若クハ團體希望者勸誘方特ニ御配意相煩度此段及御依頼候也

第二百十八 大正十三年度中ニ於ケル屎尿汲取其他ニ關シ契約セル者並ニ其ノ契約條項左ノ如シ

記

- 一、屎尿汲取搬出契約者 加藤文太郎外二百九十六名
 - 二、屎尿船積無償交付契約者 富田喜右衛門外四十二名
 - 三、屎尿無償交付契約者 近藤作次外一名
 - 四、屎尿船貸與及屎尿無償交付契約者 山田紀一外五名
- 以上契約書寫左記ノ通り

一、屎尿汲取搬出契約書

名古屋市長ヲ甲トシ ヲ乙トシ名古屋市内ニ於ケル屎尿無償汲取搬出ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス
第一條 乙ハ別表汲取區域内ノ屎尿ヲ汲取搬出スルモノトス

第二條 本契約期間ハ大正 年 月 日ヨリ大正 年 月 日迄トス

第三條 乙ハ甲ニ對シ汲取契約保證金トシテ金 圓ヲ提供スルモノトス

第四條 乙ハ契約締結後五日以内ニ汲取區域内各戸ノ屎尿汲取人配置表ヲ作製シ甲ニ提出スルト同時ニ其
ノ排泄量ニ應シ甲ヨリ指定セラレタル汲取日次ニ依リ常ニ停滯ナキ様完全ニ汲取掃除ヲ爲スモノトス

第五條 暴風雨等ニ因ル浸水便壺ノ掃除ハ甲ニ於テ適宜ノ處分ヲナスモノトス

第六條 乙カ滿半ケ年間第四條ノ義務ヲ完全ニ履行シタル場合ハ甲ハ甲ノ定メタル規定ニ據リ乙ニ對シ相
當ノ獎勵金ヲ交付スルモノトス

第七條 乙カ屎尿ノ汲取掃除ヲ怠リタルトキハ甲ハ代執行ヲ爲シ其ノ屎尿ハ甲ニ於テ適宜處分ス
甲ニ於テ代執行ヲ爲シタルトキハ乙ハ汲取屎尿壺石ニ付金五十錢ノ割ヲ以テ甲ニ代執行費ヲ納付スルモノ
トス

前項代執行費ハ前月中ノ分ヲ翌月拾五日迄ニ納付スルモノトス

第八條 甲ハ乙カ正當ノ理由ナク又ハ誠意ヲ以テ本契約ノ履行ヲ爲サ、ルモノト認メタルトキハ何時タリ
トモ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ハ第三條ニヨリ乙ノ提供シタル保證金ハ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ所得ニ
歸シ代執行費ノ未納其ノ他損害アルトキハ乙ハ別ニ之ヲ賠償スルモノトス

第九條 乙ハ屎尿汲取區域ノ増減、汲取處分方法ノ改良及其ノ他ニ關シ甲ノ指示ニ從フモノトス

第十條 本契約條項ニ疑義ヲ生シタル場合ハ市長ノ意見ニ從フモノトス

本契約ヲ證スル爲メ本證貳通ヲ作り各壹通ヲ所持スルモノトス
大正 年 月 日 名古屋市長 川 崎 卓 吉

二、屎尿船積無償交付契約書

名古屋市長ヲ甲トシ

ヲ乙トシ屎船積無償交付ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 乙ハ名古屋市

屎積込場ヨリ自己ノ所有スル船舶ヲ航海シ屎ノ輸送ヲ爲スモノトス

第二條 乙ハ前條輸送ノ爲メ左記船舶ヲ使用シ毎月

石以上ヲ輸送スルモノトス

一、船舶

石積

艘

但シ暴風雨其ノ他變災ノ爲メ甲ニ於テ航海不可能ナリト認メタル場合ハ此限リニアラス

第三條 乙ハ本契約保證金トシテ金

圓ヲ甲ニ提供シ置クモノトス

第四條 乙カ契約石數ノ輸送ヲ怠リタルトキハ輸送不足石數壹石ニ付金拾錢ノ割ヲ以テ過怠金ヲ徵收スル

モノトス過怠金ハ甲ノ通知ニ依リ前月中ノ分ヲ翌月拾五日迄ニ乙ハ甲ニ納付スルモノトス

第五條 本契約期間ハ大正

年

月

日ヨリ大正

年

月

日迄トス

第六條 乙ハ有料タルト無償タルトヲ問ハス本契約ニ依リ交付ヲ受ケタル屎ヲ契約團體員以外ノ者ニ交付

スルコトヲ得サルモノトス

但シ名古屋市長ヲ距ル數里以外ニ輸送スルモノハ此限リニアラス

第七條 甲ハ乙カ正當ノ理由ナクシテ本契約ヲ履行セスト認メタルトキハ之ヲ催告シ尙之ニ應セサルトキ

ハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ハ第三條ノ保證金ハ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ所得ニ歸シ過怠金ノ未納其

他損害アルトキハ乙ハ別ニ之ヲ賠償スルモノトス

第八條 甲ハ屎尿處分方法ノ變更其他本契約ヲ履行シ得サル事情ノ生シタル場合ハ何時タリトモ本契約ヲ

解除スルコトヲ得ルモノトス

但シ此ノ場合乙ニ損害アルモ甲ハ賠償ノ責ニ任セス

第九條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ甲ノ意見ニ從フモノトス

本契約ヲ證スル爲メ本證貳通ヲ作り各壹通ヲ所持スルモノトス

大正

年

月

日

名古屋市長

川

崎

卓

吉

三、屎尿無償交付契約書

名古屋市長ヲ甲トシ名古屋市西區日比津町農事改良實行組合長近藤作治ヲ乙トシ西區則武貯溜場ニ貯溜シ

アル屎尿ノ無償交付ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 乙ハ甲ヨリ毎日前記屎尿貯溜場ヨリ屎尿一車以上五車以内ノ無償交付ヲ受ケ之ヲ無償搬出スルモ

ノトス

但シ暴風雨雪等ノ爲メ甲ニ於テ搬出不能ト認メタルトキハ此ノ限リニ非ス

第二條 本契約期間ハ大正十三年四月一日ヨリ大正十四年三月三十一日迄トス

第三條 乙ハ甲ニ對シ本契約保證金トシテ金五拾圓ヲ契約ト同時ニ提供スルモノトス

第四條 甲ハ乙ノ搬出カ第一條ノ契約車數ニ充タサルトキハ違約金トシテ一日一車ニ付金五拾錢ヲ徵收

ス

前項違約金ハ翌月五日迄ニ甲ニ納付スルモノトス

第五條 甲ハ乙カ正當ノ理由ナク又ハ誠意ヲ以テ本契約ヲ履行セサルモノト認メタルトキハ何時タリトモ

契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ニ於テハ第三條ニヨリ乙ノ提供シタル保證金ヲ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ

所得ニ歸スルモノトス

第六條 本市屎尿處分方法ノ改變其他ノ事由ニ依リ交付不能ノ場合ハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコト

ヲ得

第七條 本契約條項中疑義ヲ生シタル場合ハ名古屋市長ノ意見ニ從フモノトス

本契約ヲ證スル爲メ本書貳通ヲ作り各壹通ヲ所持スルモノトス
大正十三年三月二十七日

名古屋市長 川崎卓吉
名古屋西區日比津町農事改良實行組合
組 合 長 近藤作治

四、屎尿船貸與並屎尿無償交付契約書

名古屋市長ヲ甲トシ何縣何郡何町(村)農會長ヲ乙トシ屎尿船貸與並屎尿無償交付ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 甲ハ乙ニ對シ屎尿輸送ノ用ニ供スル屎尿船ヲ無償ニテ何石積何艘ヲ貸與スルモノトス
第二條 乙ハ甲ノ貸與シタル屎尿船ヲ概ネ十日以内ニ壹艘宛甲ノ指定セル積込場ニ廻航シ屎尿ノ無償輸送ヲ爲スモノトス

但天災地變ニテ甲ニ於テ航行不可能ト認メタルトキハ來航セサルモ妨ケナシ
第三條 乙カ第一條ノ屎尿船ヲ破損シタルトキハ甲ハ之カ修理ヲナシ其ノ費用ハ乙ヨリ徵收ス尙亡失シタルトキハ乙ハ損害賠償ノ責ニ任スルモノトス

但輕微ナル修理ハ甲ノ承認ヲ得テ乙ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得
第四條 本契約期間ハ大正 年 月 日ヨリ大正 年 月 日マテトス

第五條 乙ハ本契約保證金トシテ契約ト同時ニ金何圓ヲ甲ニ提供スルモノトス
第六條 甲ハ乙カ正當ノ理由ナク又ハ誠意ヲ以テ本契約ヲ履行セサルモノト認メタルトキハ催告シ尙之ニ應セサルトキハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ハ第五條ニ依リ乙ノ提供シタル保證金ハ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ所得ニ歸シ尙其他ノ損害アルトキハ乙ハ別ニ之ヲ賠償スルモノトス

第七條 屎尿處分方法ノ變改其他ノ事由ニ依リ甲ニ於テ本契約ヲ解除スルコトヲ得此場合ハ第五條ニ依リ乙ノ提供シタル保證金ヲ還付スルノ外乙ニ損害アルモ甲ハ賠償ノ責ニ任セサルモノトス

第八條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ名古屋市長ノ意見ニ依リ本契約ヲ證スル爲メ本證貳通ヲ作り各壹通ヲ所持スルモノトス

大正 年 月 日 名古屋市長 川崎卓吉
大正十四年四月十日 三重縣內務部長ヨリ左ノ照會アリタリ
農第一四五三號

大正十四年四月十日 三重縣內務部長
名古屋市長殿

屎尿投棄海面ノ件照會

三月三十日附收衛第八二號ノ一ヲ以テ屎尿海中投棄ノ件ニ付御回答相成候處右ニ依レハ投棄ニ就テハ細心ノ注意ヲ拂ハレ其場所ハ熱田港ヲ距ル約三十哩ノ地點ニ運搬セラルル趣ナルモ現ニ本縣三重郡沖合ヲ侵シ出漁者ノ漁具漁網ヲ汚瀆セル事實ヨリ察スルニ其ノ曳船ハ御回答ノ地點迄運搬セスシテ投棄スルニ非サルヤトノ疑念モ抱カレ又若シ三十哩ノ地點ニ投棄セラル、トモ潮流ノ關係上河藝郡以南ノ沿岸ヲ汚瀆スルコト、相成漁業者ノ迷惑一方ナラサルモノ有之候又衛生上危害ナシトシテモ曩ニ照會致候通り世人ノ感情ヲ害シ魚介藻類等ノ販路ヲ妨ケ海水浴客ノ影ヲ絶チ地方ノ繁榮ヲ阻止スルコト、モナラハ甚タ憂慮ニ堪エサル次第ニ付曩ニ照會致候通り外海迄運搬投棄シ其ノ結果ヲ徵スル様至急御實行相成度此段重ネテ及照會候也

第二百二十 大正十四年四月十八日三重縣富田漁業組合ヨリ本市屎尿海中放棄ニ關シ愛知縣知事宛左記ノ陳情書提出ノ趣ヲ以テ屎尿放棄現況報告方ニ付口頭照會ニ基キ左ノ通り提出セリ

衛發第一一七號

大正十四年四月十八日

愛知縣知事

山 脇

春

樹殿

名古屋市長

田

阪

千

助

三二二

尿尿處分現況報告書

本市處分權ニ屬スル尿尿一日ノ排泄量ハ約四千石ニシテ之レカ處置ハ農民汲取及自家處分ヲ除キタル剩餘則チ二千七百石ハ市ノ直營汲取ニシテ該尿尿ノ内凡ソ七百石ハ從來陸上交付及本縣知多郡、海部郡及岐阜縣城山村等ノ農村ヘ船積交付シ殘餘約二千石ヲ知多郡野間村ト三重縣津市見透線中間ニ海中放流ノ已ムナキ處分致居候ヘ共兩縣沿岸漁業組合等ヨリ放棄地點延長ノ申出アリタルニ付本年三月一日ヨリ特ニ野間村ト三重縣朝熊山見透線中間タル熱田明治新田ヲ距ル約三十二哩ノ地點ニ變更セシモ尙將來苦情絶エサル傾向アルヲ以テ三月上旬ヨリ更ニ船積交付地ノ擴張ヲ計畫シ本市農會及本縣海部郡飛鳥、鍋田、十四山、中島郡平和、三重縣桑名郡伊曾島、木曾岬、城南、三重郡川越村ノ諸村ト交渉ノ結果希望者續出シタルニ付去月十八日ヨリ毎日試驗的ニ市有尿尿船ヲ右沿岸農村ヘ全部廻航交付シツ、アリテ前途有望ナルヲ以テ爾後海中放棄ヲ行ヒタル事實更ニ無之候然レトモ田植及收納時期約五六十日間ハ幾分需要減少ノ傾向ナルヲ以テ剩餘分ハ放棄處分ヲナスノ已ムナキニ至ルヘク此ノ場合努メテ遠距離ノ地點ニ放棄可致考ニ有之候右現況及報告候也

愛知縣名古屋市尿尿處分方法ノ儀ニ付陳情

國家社會ノ進歩發達ノ上ニ現ル、幾多ノ諸問題中最モ人類存續ノ根本的要素タル食料問題ハ緊要缺クヘカラサルモノ、一ナリ吾等同業微力ナリト雖モ漁業ニ從ヒ食料供給事業ノ一員トシテ人類共存ノ責務ヲ擔ヒ日夜孜々トシテ斯業ノ發達改良ニ意ヲ注キツ、アルモノ獨リ私利私營ヲ貪ラントスルニアラスシテ俱ニ人類ノ生存繁榮ト社會ノ保健福祉トヲ圖リテ以テ聊カタリトモ國家ノ爲メ奉公ノ誠ヲ致サントスル微衷ニ外

ナラサルナリ然ルニ食料問題中彼ノ米麥蔬菜鳥獸肉ノ如キハ近時ノ進歩セル科學ノ力ヲ以テ人類ノ及フ限リノ手段ヲ盡シ繁殖改良等幾多ノ方法ヲ盡ス上ニ於テ易々タルモノ尠カラサレトモ我カ水産魚族ニ至リテハ之等ノ手段ハ極メテ或ル局限セラレタル範圍ニ止マリ其ノ他ハ殆ント自然ノ力ニ依リテ左右セラル、何等策ノ施スヘキモアルヲ知ラサルナリ而モ質其ノモノ、繁殖改良既ニ自然ノ力ニ俟ツノミナラス之レカ保護ノ方法ノ如キモ亦陸地產物ノ如ク徹底ヲ期シ難キハ勿論却ツテ人類カ自然ヲ征服シ自然ヲ冒瀆スルノ結果トシテ水産魚族動物ノ生棲ヲ脅威シ繁殖ヲ阻止スルコトノ多キハ世上餘リニ多クノ事例ヲ有ス然レトモ外洋ニ至リテハ尙自然力ノ偉大ニ依リテ其ノ弊害ノ及フ處ヲ察知シ難キモ彼ノ内灣ニ於テハ其ノ弊害ノ及フ處實ニ著明ニシテ將來憂慮ニ堪エサルモノ多シ茲ニ吾等一同書ヲ致シテ賢明ナル閣下ノ清鑑ヲ仰カントスルノ一事ハ愛知縣名古屋市ノ實施シツ、アル全市ノ尿尿處分問題ナリトス全市カ市民ノ尿尿ヲ處分スルニ肥料トシテ之ヲ農家ニ與フルノ方法ハ既ニ需要農家少キト運搬經費ノ關係上其ノ策ヲ失ヒ遂ニ昨年ヨリ市民ノ尿尿ヲ船舶ニ據リ伊勢灣上ニ搬出シ愛知縣下野間沖ヨリ三重縣津市見通シ三十哩ノ沖合ニ放流スルコト、ナリ其ノ筋ノ許可ヲ得テ實行シ居レカ元來伊勢内灣ハ潮流ノ關係ト春季ヨリ秋季ニ至ル東南風竝東北風時期ニ至リテハ右放流サレタル尿尿ノ全部ハ四散スルコトナクシテ海中ニ浮流シ漸次沿岸ニ押シ流サレ之レカ爲メ沖合漁業タル打瀬網、巾着網等ノ漁業中浮流セル尿尿カ網中ニ充滿シ全ク從業ヲ妨ケ或ハ魚類ト混入シテ漁獲物ヲシテ市場ニ上スコトヲ得サラシムル等ノ事例ニ遭遇スル事往々ニシテ漁業家ノ蒙ル損害ハ蓋シ僅少ニ非サルナリ更ニ糞ヲ稽フルニ之レ等放流サレタル尿尿中ヲ遊泳生棲スル魚類カ市場ニ販賣セラレ一般需要ヲ充シ居ルモノトセハ衛生保健上由々敷問題タルヲ失ハス特ニ名古屋市ニ於テ傳染病ノ流行ヲ見ンカ其ノ來ル處ノ影響ハ吾等漁業家ノ生業ヲ奪フノミナラス一般社會ヲ毒スルコト蓋シ思ヒ半ニ過クルモノアルヘシ否斯カル特別ニ見ル迄モナク當時傳染病保菌者ノ糞便カ齋ラス處ノ結果ニ想到セハ實ニ疎然肌ニ粟ヲ生セスンハアラス尙實情ニ就テ見ルニ名古屋市カ正規ノ方法ニ依リ處分スルモ如上

三二三

ノ影響ハ明ナルニ不拘何等心ナキ運搬船夫等カ天候ノ關係ヲ初メ周圍ニ目睹者尠キ場合等ニ於テ前記正規ノ場所以外遙カニ近距離ノ海上ニ放流シ去ルコト往々ニシテ先般東風強烈ノ際三重縣下多氣郡、河藝郡、三重郡沿岸ニ右屎尿ノ打上ケラレタルコトスラアリテ之レ等ハ漁業上ノミナラス夏時海水浴期ニ向フ折柄輕々ニ看過スヘカラサルナリ以上ノ如キ實情ニ直面スルニ拘ハラス其ノ聲ヲ大ニセサルノ故ヲ以テ關係官廳等ニ於テハ事態輕微ナルモノ、如キ感ヲナスモノアルモ吾等ハ其ノ實情ノ曝露ニ依リ漁獲物ノ販路ニ一大支障ヲ來タスヲ恐レ忍フヘカラサルヲ忍ヒ祕密ノ内ニ之レカ救濟ヲ關係官廳ニ訴フルノ止ムナキ立場ニアルコトハ特ニ御諒察ヲ願ハサルヲ得テハ右情況ニ照シ此際伊勢内灣ニ名古屋市ノ屎尿放流ヲ禁セラレンコトヲ希望スルモノナルカ處分方法ニ於テ罷ムヲ得ストセハ伊勢灣外伊良湖岬ヲ距ル太平洋上ニ位置ヲ變更セラレンコトヲ吾等一同切望スルモノナリ

右陳情候也
大正十四年四月十一日

三重縣三重郡富田町富田漁業組合

理事	渡邊 彦七
監事	森谷 末吉
同	橋本 久吉
同	鈴木 末吉
總代	渡部 吉三郎
同	

愛知縣知事 山 脇 春 樹 殿

第二百二十一 大正十四年四月三十日東區下飯田町總代高木勘左工門外百五十六名ヨリ下飯田町屎尿溜撤廢ニ關シ左ノ通り陳情書ノ提出アリタリ

陳 情 書

謹而名古屋市長閣下ニ一書ヲ呈シ左ノ事情ヲ陳述シ閣下ノ御明斷ヲ仰キ度候
名古屋市ニ於テハ從來汚物屎尿溜場ヲ東區下飯田町字東原ニ設置シアリ更ニ今般同町字狐向地内ニ尙一箇所御設置ノ趣ナルモ是レ近時ノ當地トシテ一大苦痛ニ不堪次第ニ候顧ルニ當地一帶ハ大正元年源泉ヲ耕地整理ノ大業ニ起シ爾來時代ノ趨勢ニ順應スル施設經營ニ努メ幾多ノ犠牲ト多大ノ財力ヲ投シ或ハ新市街ノ建設ニ資シ或ハ都市計畫ニ相呼應シ而シテ今日ノ工場地帯將タ住宅地帯トシテ設備整然タルモノ有之候今ヤ城東一帶ノ地ハ東京モスリン兩工場ヲ初メトシ三菱工場、小松製絲、佐治製陶、六郷變電所、輕銀工場信産館、旭陶器、中央窯業、川上絹布、名古屋別珍、大隈鐵工場等實ニ大小二十有餘ノ工場ヨリ吐ク煤煙ハ天空ヲ蔽ヒ尙建造ノ物音夜ヲ日ニ次キ殆ト隔世ノ感有之候然ルニ此ノ地帯ニ汚物屎尿溜場ノ存置又ハ設置ハ當地方積年ノ畫策ヲ打破シ地方ノ發展ヲ阻害スルハ勿論公衆衛生上寒心ニ不堪儀ト被存候近時農村不振ニシテ農家經濟助長ノ上ニ金肥節約ノ唱導サル、アレハ之レ等ノ施設タルヤ須ク市外純農村ニ求メラル、ヲ以テ策ノ得タレモノニ非ラサルカ當地方二十年ノ過去ニ於テハ農村振興策ヲ以テ村是トナシタルモ今ヤ名古屋市ニ編入サル、アリ都市計畫ノ布カル、アリテ全ク農村狀態ヨリ脱却シ文化ノ施設見ル可キモノ有之候

是ヲ都市計畫ヨリ案スルモ交通衛生保安經濟等ニ關シ永久ニ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ福利ヲ増進スルノ趣旨ニ悖リ又之ヲ建築法ノ精神ヨリ見ルモ養豚養鶏ノ業ニ於テスラ重要道路ノ沿線ニ禁セラルヘキニ汚物屎尿ノ腐敗物ヲ工場地、住宅地ノ中心ニ存置サル、ハ甚タ當ヲ得サルモノト被存候況ンヤ前者ハ都市ノ威信ヲ保持スヘキ循環線ニ接シ後者ハ幅員十二間ノ外廻リ線ニ接スルニ於テ一層其感ヲ深カラシム可ク候何卒如上微意ノ存スル所篤ト閣下ノ御斟酌ヲ賜リ交通衛生將タ又地方開發上速ニ他ニ候補地ノ御選定相成リ當地方幾多市民ヲシテ善政ニ沐浴セシメラレ度此ノ段謹ンテ陳情候也

大正十四年四月三十日

三二六

市内東區下飯田町九百九十三番地

町總代 高木 勘 左 工 門

外百五十六名

名古屋市長 田 阪 千 助閣下

第二百二十二 大正十四年五月十八日名古屋市長ヨリ海面無料使用區域擴張ニ關シ愛知縣知事へ左ノ申請書ヲ提出セリ

衛發第一五五號

海面無料使用區域擴張申請

- 一、位 置 名古屋港内南區豊田町地先現在占用海面ニ隣接スル南方海面別紙略圖朱書ノ通り
- 二、海面ノ面積 六 百 坪(長五拾間、幅八間及長貳拾五間、幅八間)
- 三、使用ノ目的 屎尿船繫留用
- 四、使用期間 許可ノ日ヨリ大正二十一年七月三十一日ニ至ル向フ八ケ年間
- 五、使用料金 無 料

右ハ本市屎尿沿岸交付並外海ニ消毒投棄ノ爲屎尿船航行ノ途中、曳船汽船出航時迄一時繫留ノタメ大正十一年八月二十三日許可相成候處屎尿船激増ノ結果狹隘ヲ感シ候ニ付擴張使用ノ儀御許可相成度別紙圖面添付此段及申請候也

大正十四年五月十八日

名古屋市長 田 阪 千 助

愛知縣知事 山 協 春 樹殿

第二百二十三 大正十四年五月十九日屎尿處分ノ現況並將來改善ニ關スル卑見ヲ内務省衛生局長ニ左ノ通り

提出セリ

衛發第一五七號

大正十四年五月十九日

名古屋市長 田 阪 千 助

内務省衛生局長 山 田 準 次 郎殿

本市ニ於ケル屎尿處分ノ現況並將來改善ニ關スル卑見左記ノ通り御報告候也

第一、屎尿處分現況

一、汲取區域及屎尿量

現在市ノ義務ニ屬スル屎尿汲取區域ハ別圖(略)ノ如クニシテ其ノ戸數十三萬二千九百六十七戸人口六十五萬五千三百三十八人ニシテ一日ノ排泄屎尿量約三千九百石ナリ

二、處分ノ方法

前項屎尿量平均一日約三千九百石ハ次ノ方法ニ據リ之ヲ處分シツ、アリ

- (一) 自家耕地ノ肥料ニ供スルモノ一日約三十石
- (二) 公私設水槽便所淨化裝置ニテ下水管ニ放流スルモノ一日約七十石
- (三) 本市附近農民カ汲取リ之ヲ生肥トシテ利用スルモノ一日約千百石
- (四) 市直營人夫ニテ汲取ルモノ一日約二千七百石

市直營汲取ノモノハ從來其ノ大部ハ之ヲ船積ト爲シ消毒ノ上伊勢灣へ投棄シ來リタルモ本年三月來左ノ方法ニ改メ之ヲ處分スルコト、セリ

- (イ) 沿海農村ヨリ廻航シ來ル屎尿船へ無償交付スルモノ一日約五百七十石
- (ロ) 淨化消毒ノ上下水管ニ放流スルモノ一日約三十石
- (ハ) 沿海農村へ市有船ニ積込ミ無償交付スルモノ一日約二千百石

三二七

面シテ沿海農村へ市有船ニ積込ミ無償交付スル平均一日約二千百石ノ尿尿中尿ノ一部ハ今後農繁期(六月及十一月)ニ際シ需要激減セル場合ニ限り再ヒ海中投棄處分ヲナスノ已ムナキニ至ルヘク此場合ハ完全ナル消毒ヲ爲スハ勿論特ニ除紙法ヲ行ヒ舊投棄地點ヲ距ルコト更ニ八哩ノ別圖(略)ニ示セル熱田港ヲ距ル三十餘哩ノ地點ニ投棄スル豫定ナリ

三、處分ニ要スル經費左表ノ通

年次	尿尿處分		一ケ年尿尿量	人口一人當	尿尿一石當
	經常	臨時			
十三年度	五〇五、八二〇	六五、三六四	一、三〇七、六九一	八三三	三七五
十四年度	五二〇、三六八	六五、五三六	一、四二六、八六八	七九八	三六四

備考 臨時費ハ除算シタリ

第二、將來ノ改善意見

下水道ノ擴張ト相俟ツテ根本的解決ニ努ムヘク目下調査中ニ屬ス同時ニ他面公衆便所及市設建物附屬ノ便所等ハ逐次之ヲ水槽式ニ改メ淨化裝置ヲ附設スルト同時ニ市民ニ對シ水槽便所ノ獎勵ニ努メ且ツ農村ニ於ケル尿尿ノ需要少キ季節ニ支障ナカラシムルタメ農村ニ大尿尿溜ノ築造ヲ獎勵シツ、アリ

第二百二十四 大正十四年五月十九日尿尿市營區域内ノ戸數人口尿尿量等ノ左記調査書ヲ内務省衛生局へ提出セリ

衛發第一五八號

大正十四年五月十九日

内務省衛生局御中

名古屋市役所

過般御廳へ本市衛生課長出頭ノ際御下命有之候本市尿尿處分區域内ノ戸數人員尿尿量調査表別紙ノ通り進達候也

(別紙)

第一號 名古屋市尿尿市營區域内特別建物戸數人員尿尿量調査表 (△印朱書)

建物名	區分	戸數	人員		計	一日平均	一ケ月汲取度數			
			常住者	通勤者又ハ參集者			自三回至五回	自六回至十回	自十一回至二十回	自廿一回至三十回
官公署	△	五三	七二	一、八四五	一、五五六	三、〇八六	三	三〇	戶	六六二、五九
學校	△	一一一	一、三五六	一〇八、四一九	一〇九、七八五	一七〇、八二〇	五九	五九	戶	一五、二四、六〇
病院	△	一六	九八四	一、二三四	二、一九八	七、七三三	八	七	戶	一一三、六六
銀行會社	△	二〇四	一、一一〇	六、八八八	七、九九八	一六、八八四	一五六	四八	戶	五〇六、五二
諸工場	△	二九八	一一、九五六	三、六二二	四、五七九	一七、六六六	一九四	九〇	戶	七三、五九、九八
劇場寄席	△	四一	一六三	一五、三〇〇	一五、三六三	二二、七七三	五	二四	戶	七三、一六
宿屋料理店	△	一、六七八	二六	一、五六〇	一、五八六	二、四九六	一八九	一五	戶	五三、五四、七〇
飲食店	△	八	一〇、三五五	一五、七六〇	二五、九八五	八四、九九〇	一、四八四	五	戶	二、五三
ビルンク及アパートメントスト	△	一	九一	二六五	三五六	九四三	一	一	戶	二、五三
大商店	△	二四	一、〇五三	八〇四	一、八五六	七、五八	一六	八	戶	二二五、五四

第二號 名古屋市尿尿市營區域内(特別建物ヲ除キタル) 戶數人口尿尿量調査表

計	貸座敷		公設便所		其ノ他多數人ノ參集スヘキ建物		計
	戶數	人口	戶數	人口	戶數	人口	
△ 二、六九六 九七	△ 三〇、七三三 一、三六三	△ 二七四、七〇三 四四、七六一	△ 四三 四	△ 八四八 七二	△ 六一、七三三 一九、三九〇	△ 一九、七五〇 八、七五〇	△ 三〇、五、四七四 四六、一四三
△ 二、三九六 九七	△ 二、三九六 九七	△ 四、八八三 一八、一〇二	△ 一、一〇〇 三	△ 二、三九六 九七	△ 九七、七五八 三九、五〇八	△ 二、一〇〇 三	△ 二、三九六 九七
△ 二、三九六 九七	△ 二、三九六 九七	△ 四、八八三 一八、一〇二	△ 一、一〇〇 三	△ 二、三九六 九七	△ 九七、七五八 三九、五〇八	△ 二、一〇〇 三	△ 二、三九六 九七
△ 二、三九六 九七	△ 二、三九六 九七	△ 四、八八三 一八、一〇二	△ 一、一〇〇 三	△ 二、三九六 九七	△ 九七、七五八 三九、五〇八	△ 二、一〇〇 三	△ 二、三九六 九七
△ 二、三九六 九七	△ 二、三九六 九七	△ 四、八八三 一八、一〇二	△ 一、一〇〇 三	△ 二、三九六 九七	△ 九七、七五八 三九、五〇八	△ 二、一〇〇 三	△ 二、三九六 九七
△ 二、三九六 九七	△ 二、三九六 九七	△ 四、八八三 一八、一〇二	△ 一、一〇〇 三	△ 二、三九六 九七	△ 九七、七五八 三九、五〇八	△ 二、一〇〇 三	△ 二、三九六 九七
△ 二、三九六 九七	△ 二、三九六 九七	△ 四、八八三 一八、一〇二	△ 一、一〇〇 三	△ 二、三九六 九七	△ 九七、七五八 三九、五〇八	△ 二、一〇〇 三	△ 二、三九六 九七
△ 二、三九六 九七	△ 二、三九六 九七	△ 四、八八三 一八、一〇二	△ 一、一〇〇 三	△ 二、三九六 九七	△ 九七、七五八 三九、五〇八	△ 二、一〇〇 三	△ 二、三九六 九七
△ 二、三九六 九七	△ 二、三九六 九七	△ 四、八八三 一八、一〇二	△ 一、一〇〇 三	△ 二、三九六 九七	△ 九七、七五八 三九、五〇八	△ 二、一〇〇 三	△ 二、三九六 九七

備考

- 一、本市多年ノ實驗上常住者一人一日ノ尿尿排泄量(紙類等ノ混入物ヲ含ム)ヲ六合トシテ算出ス
- 二、通勤者及參集者尿尿量ハ平均四人ヲ以テ一人ニ換算計上ス
- 三、△印ハ總テ淨化裝置ナリ
- 四、諸工場ハ工場法適用ノモノノミヲ計上ス
- 五、大商店ハ店員家族併テ五十人以上ノモノヲ計上ス
- 六、第二號表ニハ第一號表ニ該當セサルモノノミヲ計上ス

第二百二十五 大正十四年七月十日各衛生組合長へ左記尿尿處分ノ現況ヲ印刷ノ上配付セリ

名古屋市尿尿處分ノ現況

都市ノ膨脹ニ伴ヒ施設經營スヘキ事業枚舉ニ違アラスト雖モ就中汚物處分ハ痛切ニ其ノ必要ヲ感スルモノモ生産的ニシテ然モ莫大ナル經費ヲ要スルヲ以テ容易ニ其ノ事業ノ完成ヲ期スルコト能ハサル爲メ市民怨嗟ノ的トナルハ各都市ヲ通シテ汚物處分殊ニ尿尿處分ナリトス就中本市ノ如キハ縣令ニ依リ當然ノ義務トシテ市ニ於テ處分ヲ要スル爲メ彼ノ東京、大阪、京都等ノ如ク市民ニ於テ處分スルコトヲ原則トシ之カ不能ナル場合ニ限り始メテ市カ一定ノ料金ヲ徵收シ應急的汲取ヲ爲ス都市ノ處分方法トハ自ラ雲泥ノ相違アリテ其ノ經營ノ困難ナルコトハ到底比較スヘクモ非ス是ヲ以テ尿尿處分ハ現下本市重要政策ノ一部ヲ成セルモノト信ス依テ以下其ノ現況ヲ略述スルコト、シタリ

- 一、尿尿量
- 二、處分ノ方法

日々排泄セラル、約三千九百石ノ尿尿中本市ト市内及附近農民團體ト特殊ノ契約ヲ爲シ汲取リ搬出スルモノ約千百石市民ノ自家耕地ノ肥料トシ又ハ便所ニ取付ケタル淨化裝置ニ據リ處分スルモノ約百石ニシテ殘餘ノ約二千七百石ハ市直營ニシテ毎日所要ノ人夫ヲ使役シテ之ヲ汲取リ搬出セシメツ、アリ而シテ市ハ此ノ汲取リタル一日平均二千七百石ノ尿尿ヲ如何ニシテ處分スルヤト云フニ一部ハ市郊外ノ貯溜場ヘ搬入ノ上一定ノ條件ノ下ニ附近ノ農民ヘ交付シ或ハ公設ノ淨化裝置ヲ以テ淨化處分シ爾餘ノ大部ハ兩

堀川河岸ノ積込場へ運搬シ從來其ノ大部ハ之ヲ海中へ投棄シ來レルモ本年四月來縣下知多、海部兩郡、三重縣下三重、桑名兩郡及岐阜縣下海津、養老兩郡ニ於ケル郡村農會ト協定シ是等ノ沿海農村へ舟送シ特殊ノ契約ノ下ニ之ヲ交付シツ、アリ但シ六月及十一月ノ如キ農繁期ニ際シ其ノ需要激減スル場合ハ止ムヲ得ス尿ハ陸揚ヲナシ之ヲ貯溜場へ搬入シ尿ハ完全ナル消毒ト嚴重ナル除紙法ヲ行ヒタル上海中へ投棄ス

三、處分ニ使用スル施設

毎日三千九百石一ケ年百四十二萬石ノ多量ナル尿尿ヲ處分スルニ本市ニ如何ナル施設アリヤト云フニ遺憾ナカラ概ネ次ノ如キ實況ナリ

(一) 舊尿尿汲取請負會社ノ築造シタル不完全ナル尿尿貯溜場五ケ所其ノ總容量約一萬石

(二) 兩堀川岸公共物揚場ヲ其儘充當シタル積込場八ケ所
内新堀川堀留ノ一ケ所ハ本年度ニ於テ完全ナル積込場ニ改築ノ爲メ目下設計中尙明年度以降逐次改築ノ豫定ナリ

(三) 公設便所百十二ケ所内淨化裝置ヲ附設シ改築シタルモノ三十五ケ所

(四) 一日三十石ヲ處分スル淨化裝置附設ノ尿尿溜一ケ所
本年度ニ於テ更ニ一日百石ヲ處分スル淨化裝置一ケ所ヲ新設ノ爲メ目下設計中尙學校ノ便所ハ逐次水洗式淨化裝置ニ改造ノ豫定ナリ

(五) 尿尿汲取運搬ニ要スル器具トシテ尿尿船六十六隻、曳船ランチ三隻、運搬車四百二十九輛、桶四千三百三十九個

(六) 一昨年漏電ノ爲メ一部ヲ燒失シタル以來作業休止中ノ尿ヨリ硫酸ヲ製造スル工場一箇所
以上ノ如ク尿尿運搬器具及改築セシ少數ノ公設便所ヲ除ク外特ニ見ルヘキ施設ナキヲ以テ將來財政ノ許

四、處分ニ要スル經費

ス範圍ニ於テ逐次整備スル豫定ナリ

尿尿處分ニ要スル本年度所要經費五拾貳萬餘圓ニシテ其ノ詳細ハ別表ノ如シ
之ヲ要スルニ本市尿尿處分法中各戸ヨリ汲取リ搬出スル方法ハ逐年改善セラレ益々良好ニ向ヒツ、アリテ他都市ニ比シ敢テ遜色ナキモノト信スルモ此ノ搬出シタル尿尿ノ處分施設未タ整備セス其ノ運搬及利用等ニ關シ不便不利尠カラサルハ遺憾トスル所ナリ

大正十四年度名古屋市尿尿量及所要經費

區	別	戸數	人口	平均一日尿尿量	所 要 經 費		
					一ケ年總額	一ケ年一戸當	一ケ年一人當
市 營 區	計	三九、七四九	一八三、二五三	一、一〇〇	九、八五五	、〇二四	、〇〇五
市 營 區 以 外	計	九一、四九九	四五〇、〇一七	二、七〇〇	五、三三六	五、六一〇	一、一四〇
合 計	計	一三〇、九六七	六三三、二七〇	三、九〇九	一五、一九一	一〇、五三四	二、一四六
市 營 區	計	一、五五九	五、〇九二	三〇	—	—	—
市 營 區 以 外	計	一六〇	一三、一七六	七九	—	—	—
合 計	計	一、七一九	一八、二六八	一〇九	—	—	—
市 營 區	計	二〇、四二一	八二、五二九	四九五	—	—	—
市 營 區 以 外	計	一五三、三七八	七三四、〇五七	四、四〇四	五、三三六	—	—

大正十四年七月

名古屋市役所

第二百二十六 大正十四年七月十五日名古屋市總聯合衛生會長ヨリ景雲橋屎尿積込場施設改善ニ關シ左ノ建議アリタリ

建議

本市舊堀川景雲橋屎尿積込場ハ其ノ施設不完全ニシテ臭氣ノ發散甚シキノミナラス常ニ交通ノ妨害ヲ爲シ且ツ市街ノ美觀ヲ損傷スルコト尠カラズ候ニ付速ニ適當ナル積込場御施設相成候様致度本會ノ決議ニ依リ此段及建議候也

大正十四年七月十五日

名古屋市長 田 阪 千 助殿 名古屋市總聯合衛生會長 田 阪 千 助

第二百二十七 大正十四年七月二十日知多郡橫須賀町太田漁業組合理事加藤友二外二十七名ヨリ屎尿海中放棄ニ關シ左ノ陳情アリタリ

愛知縣名古屋市ノ屎尿處分方法ノ儀ニ付陳情

國家社會ノ進步發達ノ上ニ現ル、幾多諸問題中最モ人類存續ノ根本的要素タル食料問題ハ緊要缺クヘカラスアルモノ、一ナリ吾等同業微力ナリト雖モ漁業ニ從ヒ食料供給事業ノ一員トシテ人類共存ノ責務ヲ擔ヒ日夜孜々トシ斯業發達改良ニ意ヲ注キツ、アルモノ獨リ私利私營ヲ貪ラントスルニアラスシテ俱ニ人類ノ生存繁榮ト社會ノ保健福祉トヲ圖リテ以テ聊カタリトモ國家ノ爲メ奉公ノ誠ヲ致サントスル微衷ニ外ナラサルナリ然ルニ食料問題中彼ノ米麥蔬菜鳥獸肉ノ如キハ近時ノ進步セル科學ノ力ヲ以テ人類ノ及フ限りノ手段ヲ盡シ繁殖改良等幾多ノ方法ヲ盡ス上ニ於テ易々タルモノ尠カラサレトモ我カ水産魚族ニ至リテハ之等ノ手段ハ極メテ或ル局限セラレタル範圍ニ止マリ其ノ他ハ殆ント自然ノ力ニヨリテ左右セラル、ノ外何等策ノ施スヘキモノアルヲ知ラサルナリ而モ質其ノモノ、繁殖改良既ニ自然ノ力ヲ俟ツノミナラス之カ保護

ノ方法ノ如キモ亦陸地產物ノ如ク徹底ヲ期シ難キハ勿論却ツテ人類カ自然ヲ冒瀆スルノ結果トシテ水産魚族動物ノ生棲ヲ脅威シ繁殖ヲ阻止スルコトノ多キハ世上餘リニ多クノ事例ヲ有ス然レトモ外洋ニ至リテハ尙自然力ノ偉大ニ依リテ其ノ弊害ノ及フ處ヲ察知シ難キモ彼ノ内灣ニ於テハ其ノ害ノ及フ處實ニ著明ニシテ將來憂慮ニ堪エサルモノ多シ

茲ニ吾等一同書ヲ致シテ賢明ナル閣下ノ清鑑ヲ仰カントスル事ハ愛知縣名古屋市ノ實施シツ、アル同市ノ屎尿處分問題ナリトス同市カ市民ノ屎尿ヲ處分スルニ肥料トシテ農家ニ與フル方法ハ既ニ需要農家少キト運搬經費ノ關係上其ノ策ヲ失ヒ遂ニ昨年ヨリ市民ノ屎尿ヲ船舶ニ依リ伊勢灣上ニ搬出シ愛知縣下野間沖ヨリ三重縣二見町見通線數十哩ノ沖合ニ放流スルコト、ナリ其ノ筋ノ許可ヲ得テ實行シ居レルカ元來伊勢内灣ハ潮流ノ關係ト春季ヨリ秋季ニ至ル東南風並ニ東北風時期ニ至リテハ右放流サレタル屎尿ノ全部ハ四散スルコトナクシテ海中ニ浮流シ漸次沿岸ニ押シ流サレ之カ爲メ沖合漁業タル打瀬網、巾着網等ノ漁業中浮流セル屎尿カ網中ニ充滿シ全ク從業ノ妨ケ或ハ魚類ト混入シテ漁獲物ヲ市場ニ上スコトヲ得サラシムル等ノ事例ニ遭遇スル事往々ニシテ漁業家ノ蒙ル損害ハ蓋シ僅少ニ非サルナリ更ニ糞ツテ糞フルニ之等放流サレタル屎尿中ヲ游泳生棲スル魚類カ市場ニ販賣セラレ一般需要ヲ充シ居ルモノトセハ衛生保健上由々數問題タルヲ失ハス特ニ名古屋市ニ於テ傳染病ノ流行ヲ見ンカ其ノ來ル處ノ影響ハ吾等漁業家ノ生業ヲ奪フノミナラス一般社會ヲ毒スルコト蓋シ思ヒ半ニ過クルモノアルヘシ否斯カル特例ヲ見ル迄モ無ク常時傳染病保菌者ノ屎便カ齋ラス處ノ結果ニ想到セハ實ニ疎然肌ニ粟ヲ生セスンハアラス尙實情ニ就テ見ルニ名古屋市カ正規ノ方法ニ依リ處分スルモ如上ノ影響ハ明カナルニ不拘何等心無キ運搬船夫等カ天候ノ關係ヲ初メ周圍ニ目睹者尠キ場合等ニ於テ前記正規ノ場所以外遙ニ近距離ノ海上ニ放流シ去ルコト往々ニシテ爲ニ伊勢灣沿岸各地ニ右屎尿ノ打上ケラレタルコトスラアリテ之等ハ漁業上ノミナラス夏時海水浴期ニ向フ折柄輕々ニ看過スヘカラサルナリ以上ノ如キ實情ニ直面スルニ拘ハラズ其聲ヲ大ニセサルノ故ヲ以テ關係官

應等ニ於テハ事態輕微ナルモノ、如キ感ヲナスモノアルモ吾等ハ其ノ實情ノ暴露ニ依リ漁獲物ノ販路ニ一
大支障ヲ來タスヲ恐レ忍フヘカラサルヲ忍ヒ祕密ノ内ニ之レカ救濟ヲ關係官廳ニ訴フルノ止ムナキ立場ニ
アルコトヲ特ニ御諒察ヲ願ハサルヲ得ス就テハ右情況ニ照シ此際伊勢灣内ニ名古屋市ノ屎尿放流ヲ禁セラ
レンコトヲ希望スルモノナルカ處分方法ニ於テ止ムヲ得ストセハ伊勢灣外伊良湖岬ヲ去ル太平洋上ニ位置
ヲ變更セシメラレンコトヲ吾等一同切望スルモノナリ
右陳情候也

大正十四年七月二十日

愛知縣知多郡橫須賀町

太田漁業組合理事

加藤友二

外二十七名

名古屋市長 田阪千助殿

第二百二十八 大正十四年七月二十二日海面使用ノ件愛知縣知事ヨリ左ノ通り許可セラレタリ
指令土第三四二三號

名古屋市

大正十四年五月十八日附發衛第一五五號申請海面使用ノ件許可ス仍テ別紙命令書ノ條項ヲ遵守スヘシ
大正十四年七月二十二日

命令書

愛知縣知事 山脇春樹

第一條 今般名古屋市ニ對シ海面使用ヲ許可スル位置ハ愛知縣名古屋市南區豊田町地先六百坪願書添付圖
面ノ通り

第二條 使用ノ目的ハ屎尿船繋留場トス

第三條 使用期間ハ大正十四年七月ヨリ同二十一年七月迄トス

第四條 使用者ハ許可ヲ受ケタル日ヨリ其反別又ハ坪數目的期間及氏名ヲ記載シタル標杭ヲ使用地ニ建設
スヘシ

第五條 使用期間ノ終了若クハ使用者ニ於テ使用ヲ廢シタルトキ又ハ愛知縣知事ニ於テ使用ヲ取消シタル
トキハ七日内ニ使用ニ供スル物件ヲ取拂ヒ原形ニ復シ其ノ旨届出ツヘシ

第六條 左ノ場合ニ於テ愛知縣知事ハ許可ヲ取消シ又ハ其ノ效力ヲ停止シ若クハ此ノ命令書ノ條項ヲ變更
シ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ使用ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スル事アルヘシ

一、使用ノ爲他ニ障害ヲ及ホシ又ハ其ノ虞アリト認メタルトキ

二、許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三、此ノ命令書若クハ此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

四、公益ノ爲必要アルトキ

第七條 使用者ニ於テ此ノ命令書若クハ此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ因リ履行スヘキ義務ヲ履行せ
サルトキハ愛知縣知事ニ於テ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ代テ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第八條 此ノ命令書ニ從ヒ使用者ノ履行スヘキ義務ノ爲ニ要スル費用及第七條ノ費用ハ總テ使用者ノ負擔
トス

第九條 此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ因リ使用者ニ於テ損害ヲ受クルコトアルモ之カ賠償ヲ請求ス
ルコトヲ得ス

第十條 許可ニ依リテ生スル權利義務ハ愛知縣知事ノ許可ヲ受クルニ非ラサレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得
ス

大正十四年七月二十二日

愛知縣知事

山脇

脇

春

樹

第二百二十九 大正十四年七月二十五日西區船入町東松松兵衛外十二名ヨリ尿管積込場ニ關シ左ノ陳情書ノ提出アリタリ

陳情書

貴市衛生課ニ於テ御施行ノ尿管ヲ運搬船へ積込ノ儀西區船入町傳馬橋西南詰ニテ一ヶ月ノ内半ヶ月間宛實施相成居候處最初ノ御計畫ニテハ臭氣放散セサル設備ヲナシ早朝日光ノ放射ヲ受ケサル時間ノミニ御實施ノ旨承リ居リ候處最近ニテハ右ノ防臭設備更ニ無之午前中ヨリ午後迄ニモ及ヒ炎天ニテ御實施ノ爲メ臭氣ノ放散甚敷ク附近ノ住家臭氣ニ不堪加之近來流行病發生ノ折柄衛生上危險ナル排出汚物ヲモ積込ニ相成至大ノ危險ヲ感シ居候ノミナラス傳馬橋通ハ市道中ノ幹線道路ニ有之候ニモ不拘汚物運搬車ノ白晝ニ輻輳致居候現況ニテハ他ヨリ來市者ニ對シ市ノ對面上不面目ノ至リト存候ノミナラス從來傳馬橋中橋ノ二ヶ所ノミニテ交代使用ニ相成リ他ノ共同物揚場沿岸ニ數ヶ所所有之候ニモ不拘御使用無之ハ公平ヲ缺ク御處置トモ考ヘラレ候ニ付此際實地御調査ノ上相當ノ設備ヲ加ヘ臭氣ノ放散セサルコトニ改良ナシ使用場所モ數ヶ所ヲ増加シテ一ヶ所ノ使用日數ヲ短縮シ平等御使用相成從來ノ不公平ヲ改メラレ候事ニ致度此段陳情仕候也
大正十四年七月廿五日
東松兵衛
外十二名

名古屋市長 田阪千助殿

第二百三十 大正十四年九月七日海中投棄尿管消毒ニ關シ三重縣知事ヨリ左ノ照會アリタリ

衛發第八五〇五號

大正十四年九月七日

名古屋市長殿

三重縣知事

貴市ニ於ケル尿管處分海中投棄ノモノニ關シテハ不斷確實ナル消毒方法ヲ施行セラレツ、アルコト、思

料セラレ候處現下東京市、千葉、神奈川、兵庫等各縣ニ於テ發生ノ「コレラ」ハ益々蔓延ノ情有之何時病毒ノ侵入ヲ蒙ルヤモ不被計ノ情況ニシテ之カ爲メ極力防疫ニ努メツ、アルノ折柄ニ候條貴市ニ於ケル投棄ノ尿管ニ關シテハ特ニ嚴重消毒ヲ施行相成度爲念此段及通牒候也

第二百三十一 大正十四年九月八日尿管海中放棄監督ノ爲メ野間燈臺沖通過時間通報方ニ付左ノ通り航路標識管理所長へ依頼セリ

衛發第二一二號

大正十四年九月八日

航路標識管理所長殿

名古屋市長 田阪千助

本市尿管處分上將來伊勢灣及渥美灣沿岸農村へ尿管船積輸送ノ豫定ニ有之候就テハ從業員監督上御所管知多郡野間燈臺地先ヲ尿管船通過ノ際ニ於ケル時間承知致度候間乍御手數爾今當分ノ内左記ニ依リ通報方可然御配意相煩度御承諾ノ上ハ通報用葉書ハ別途送付可致其他之ニ伴フ費用一切當方ヨリ支辨可致此段御依頼候也

名古屋尿管船通過日報

時	日	何月何日何時	航
曳航船數	何	何	(南) (北)
燈臺ヲ距ル里程	何	何方約何哩	

第二百三十二 大正十四年九月九日海中投棄尿管消毒ニ關シ三重縣知事ノ照會ニ對シ左ノ通り回答セリ

衛發第三五二號ノ一

大正十四年九月九日

三重縣知事殿

名古屋市長 田阪千助

本月七日附衛發第八五〇五號ヲ以テ御通牒有成候尿尿海中投棄ノ件了承本市尿尿處分ノ現況別紙ノ通りニ有之本年度初メヨリ特殊ノ場合ヲ除ク外絕對ニ海中へ投棄スルコト無之候條御承知相成度候
追テ今後萬一投棄ノ必要アル場合ハ從來ノ通り完全ニ消毒致シ防疫上危害ナキヲ期スヘク候

（別紙第二百二十五登載ノ印刷物添付）
第二百三十三 大正十四年九月十日縣有借地坪數變更ニ付愛知縣知事へ左ノ通り申請書ヲ提出セリ
衛發第二一四號

縣有地借地坪數變更ノ儀申請

名古屋市南區東築地五十九新開地四町七反七畝二十歩ノ内五畝歩

期間 自大正七年十一月 十ヶ年使用料年額金十八圓

右大正十四年一月二十九日附會第十三號ヲ以テ用途變更ノ儀御承認ヲ得候ニ付倉庫建築ノタメ實地測量致候處左記ノ通ニ有之候ニ付テハ之カ増坪借用ノ儀御承認相成候様致度別紙圖面相添此ノ段申請候也

大正十四年九月十日

名古屋市長 田 阪 千 助

愛知縣知事 山 脇 春 樹 殿

左 記

一、借地坪數 百五拾坪

一、測量坪數 百八十八坪六五 測量増 三十八坪六五

第二百三十四 大正十四年九月十一日尿尿海中投棄及販路擴張ノ件左ノ通り實施スルコト、セリ

一、昨今伊勢灣内沿岸各地農村ニ於ケル尿尿需要頓ニ激減セルニ付左記ニ依リ再ヒ海中投棄ヲ實施ス

1、期間 九月中旬ヨリ十一月下旬迄

2、回数 概ネ一週 一、二回

3、場所

熱田海岸ヲ距ル約三十九哩伊勢灣外（從來ノ地點ヨリ約八哩ヲ延長シ水深ト潮流ノ關係上魚漁セサル地區ニシテ豫テ三重縣ヨリ第一希望トシテ申越シタル地點）

二、縣下渥美郡々農會ト協定シ試ニ左記ニ依リ尿尿ノ販路ヲ擴張ス

1、期間 差當リ九月ヨリ十一月迄

2、回数 一週 一、二回

3、尿尿量 概ネ一回百石乃至二百石

第二百三十五 大正十四年九月十五日尿尿船通報方ニ關シ燈臺局長ヨリ左ノ通り回答アリタリ

燈臺第一〇七九號

大正十四年九月十五日

名古屋市長 殿

答

尿尿船通報方ノ件

本件了承候ニ付通過日報記載ノ主要事項及其他ニ關シテハ尙直接當該燈臺へ照會相成度候

追テ野間岬燈臺へハ本件受託ノ旨通知致置候

第二百三十六 大正十四年九月十六日尿尿處理ニ關シ三重縣警察部長ヨリ左ノ通り照會アリタリ

衛發第八九四六號

大正十四年九月十六日

名古屋市長 殿

尿尿處理ニ關スル件

今回當部衛生課員ノ貴地視察ノ復命ニ依レハ海中放棄ノ尿尿ニ對シテハ其容量ノ一千分ノ一ニ相當スル

クロール」石灰ヲ混シ消毒相成ルヘキ方針ノ趣ナルモ本縣カ之ニ對シ嚴重消毒ヲ希望致スハ畢竟傳染病豫防上ノ見地ヨリノ要求ニ有之候條傳染病豫防法ニヨル消毒方法即チ尿管容量ノ五分ノ一以上ノ「クロール」石灰(水二十倍)ヲ投入充分攪拌シタル後放棄スルコトニ御實行相成度素ヨリ海中放棄ノモノカ悉ク傳染病者ノ尿管ナリトハ認メ難キモ診定セラレサル多數保菌者ノ尿管ノ混在スルハ免レサルコトニ候間本縣トシテハ傳染病豫防法ニヨル消毒方法ニヨリ完全ニ消毒サレタルモノナルコトヲ希望スル次第ニ候條此趣旨ニ依リ嚴重御處理相成度猶本縣本會川揖斐川沿岸農村へ搬送セララル尿管船ノ船側ニ設ケアル尿管排出栓ハ漏出ノ恐有之候條「バルブ」式ノモノニ改造相成航行中及停船中ニ於ケル漏出ヲ防クコトニ御實行相成度此段併セテ及通牒候也

第二百三十七 大正十四年九月二十一日尿海中放棄ニ關シ三重縣警察部長及知多郡豐濱町長へ左ノ通り通牒セリ

衛發第二一八號

大正十四年九月二十一日

名古屋市長 田阪千助

三重縣警察部長殿

知多郡豐濱町長殿

本市尿管ハ豫テ印刷物ヲ以テ御通報致置候通伊勢灣沿岸三縣下農村へ輸送中ノ處此頃尿管丈ハ頓ニ其ノ需要減少致候ニ尿管ヲ左記ノ通り海中放棄ヲ實施ノ豫定ニ有之候條爲念此段及御通報候也

一、期 間 九月中旬ヨリ十一月下旬迄

二、回 數 概ネ一週 一、二回

三、場 所 熱田海岸ヲ距ル約三十九哩ノ地點

第二百三十八 大正十四年九月二十四日尿管船通過時間通報方左ノ通り野間燈臺へ依頼セリ

衛發第二一九號

大正十四年九月二十四日

名古屋市役所

野間燈臺御中

本市尿管處分上將來伊勢灣及渥美灣沿岸農村へ尿管船輸送ニ關シ貴燈臺沖通過ノ際其時間通報方其筋へ照會候處本月十五日附ヲ以テ燈臺局長ヨリ了承ノ旨回答有之候ニ付爾今午御手数數左記事項御通報相煩度此段及御依頼候也

追テ實施期間ハ差當リ本月上旬ヨリ十二月中旬迄一週約一、二回ニシテ其地點ハ時々變移スルモ概ネ熱田港ヲ距ル約三十一哩乃至三十九哩ノ豫定ニ候

左記

月 日 野間岬燈臺

一、通過時刻 南へ何時何分 一、進行方法

一、陸岸トノ距離 北へ何時何分 一、曳船數

備考

第二百三十九 大正十四年十月二十一日縣有地增坪使用ノ件愛知縣知事ヨリ左ノ通り承認セラレタリ
指令會第一三號

名古屋市長

大正十四年九月十日附發衛發第二一四號申請左記縣有地增坪使用ノ件承認ス

大正十四年十月二十一日 愛知縣知事 山脇春樹

記

名古屋市南區東築地五九番新開地四町七反七畝二十歩ノ内

- 一、貸付坪數 百五十坪
- 一、測量坪數 百八十八坪六合五勺
- 一、測量增坪 三十八坪六合五勺

第二百四十 大正十四年十二月二十六日新堀川掘留尿積込場改築ニ付左ノ通り届出タリ
 衛發第二五一號

本市尿尿處分ニ關スル方法及設備ニ付大正十三年五月御認可相成候新堀川掘留尿積込場設備ニ付テハ別紙圖面ノ通り設備致度候條御認可相成度大正十三年二月縣令第十五號ニ依リ及御届候也
 大正十四年十二月二十六日
 名古屋市長 田 阪 千 助

愛知縣知事 山 脇 春 樹殿
 第二百四十一 大正十五年一月十二日淨化裝置設備ニ付左ノ通り愛知縣知事へ届出タリ
 衛發第五號
 大正十五年一月十二日
 名古屋市長 田 阪 千 助

愛知縣知事 山 脇 春 樹殿
 本市尿尿處分ニ關スル方法及設備ニ就テハ曩年御認可相成候處東區千種町字豊前塵芥燒却所敷地内ニ別紙圖面ノ通り尿尿一日百石ノ淨化裝置設備致度候條御認可相成度大正十三年二月縣令第十五號ニヨリ此段及御届候也

第二百四十二 大正十五年一月三十日南區豊田町衛生組合長山田信太外八名ヨリ内田橋尿積込場撤廢ニ關シ左ノ陳情アリタリ

陳 情 書

市内南區豊田町地内圖書新田ニ通スル圖書橋西詰ヨリ明治新田内田橋北詰ニ至ル護岸ニ於テ市衛生係監督

ノ下ニ尿尿ノ搬出ヲ取扱ハルル茲ニ年アリ近時衛生思想宣傳ノ折柄ニモ拘ラス年内通シテ如上ノ不潔物ノ搬出ヲ取扱ハルルハ町民ノ衛生ヲ無視セラルルモノト云ハサルヲ得サルナリ思フニ市民ノ幸福ハ東西何レヲ問ハス均霑主義ナラサル可カラス然ルニ何ソヤ白晝ニ此ノ汚物ヲ町ノ中央ニ於テ而カモ風勢強キ風上ニ於テ是レカ取扱ヲナス其ノ不衛生ナル言語ニ盡ス能ハス加之容器ヲ道路ニ配列シアリテ通行民ノ迷惑ハ勿論殊ニ公設市場ニ隣接シテ民衆ノ感情ヲ害スル吾人ノ往々耳ニスル所ナリ要スルニ斯ノ如キ行爲ハ一面ニ法ヲ說テ一面ニ犯行ヲ敢テスルト同様ニシテ當局ノ不徹底モ亦甚シト云フヘシ速ニ公衆衛生ヲ尊重セラレ他ニ適當ノ場所ヲ選定セラレ右搬出場所ノ變更ノ行ハレンコトヲ望ム町民ヲ代表シ此段及陳情候也
 大正十五年一月 日
 名古屋市南區豊田町字丁字屋 衛生組合長 山 田 信 太

外 八 名

名古屋市長 田 阪 千 助殿
 第二百四十三 大正十五年二月二十五日水槽便所設置ノ件左ノ通り認可セラル
 愛知縣指令衛收第六九七號

名古屋市長 田 阪 千 助
 大正十五年一月十二日附願水槽便所設置ノ件許可ス
 名古屋市長 田 阪 千 助

大正十五年二月二十五日 愛知縣知事 山 脇 春 樹
 第二百四十四 大正十五年三月一日電動機及油機關設置ニ付左ノ通り出願セリ
 衛發第二九號
 名古屋市長 田 阪 千 助

大正十五年三月一日 新榮町警察署長警視 梶 田 儀 十 郎 殿

市設千種燒却所敷地内ニ於テ別紙ノ通り油機關及電動機増設致度候條御許可相成度此段及御願候也

事項書

- 一、設置者 名古屋市
 - 二、設置場所 名古屋市東區千種町字豊前敷地千二十二坪八四六
 - 三、敷地建物坪數 建物百四十坪〇九 内電動機室四坪三八
 - 四、附近略圖 別紙ノ通り(略)
 - 五、電動機油機關室圖 別紙ノ通り(同)
 - 六、電動機油機關使用目的 汚水吸揚及汚水攪拌竝ニ殘滓吸揚用
 - 七、期節 年中
 - 八、使用期間 晝夜間
 - 九、油機關取扱主任ノ履歷 別紙ノ通り(略)
 - 一〇、工事落成期日 大正十五年三月三十一日
- 油機關構造調書
- 一、種類、型式、個數 石油發動機農工業用G型一個
 - 一、汽筒ノ寸法個數 3½ 吋一個
 - 一、衝程ノ寸法 5 吋
 - 一、一分間ノ回轉數及爆發數 六五〇回轉
 - 一、點火裝置及其ノ種類 發火栓及高壓磁石發電機ニ依ル
 - 一、馬力 三馬力
 - 一、汽筒ノ冷却方法 汽筒ノ外套ヲ形成セル水槽門ニ於ケル自然循環ニ依ル
 - 一、勢輪ノ徑個數 1呎 4½吋 二個
 - 一、消音器ノ種類構造個數 皿形抵抗式 一個
 - 一、排汽管ノ材質徑高 鐵管1½吋 高六尺
 - 一、發生器洗滌器油槽ノ裝置寸法竝供給方法 油槽大サ直徑4½吋長12吋亞鉛引鐵製 汽筒上部ニ取付ケ自然落下
 - 一、製造所名製造年月日及履歷 大正十三年十月二十日東京市株式會社池貝鐵工所製造
- 備考 本機關ハ汚水吸揚用豫備ニシテ常時ハ電動機ヲ使用ス

電動機構造調書

- 一、種類方法個數 六〇「サイクル」三相交流誘導式 三臺
 - 一、電壓 二〇〇「ヴォルト」
 - 一馬力 數 汚水吸揚用 二馬力(常用)
 - 汚水攪拌殘滓吸揚用 一馬力(常用)
 - 同 一馬力(豫備用)
 - 一、一分間ノ回轉數 一、八〇〇回轉
- 電動機常用ノ分ハ在原製豫備用ノ分ハ米國「マイヤ」會社製造ニシテ東邦電力株式會社ニ於テ試驗セルモノ
- 第二百四十五 大正十五年三月二日尿尿殘滓溜改築ニ付愛知縣知事ヘ左ノ通り屆書ヲ提出セリ
- 衛發第三一號
- 本市尿尿處分ニ關スル方法及設備ニ付テハ曩ニ認可相成居候東區千種町字豊前燒却所敷設地内ニ於ケル尿尿殘滓溜及上家改築致度候條別紙圖面相添ヘ此段及御屆候也

大正十五年三月二日
 愛知縣知事 山 脇 春 樹殿
 名古屋市長 田 阪 千 助

第二百四十六 大正十五年三月二十五日尿尿日並汲取ニ付區域内約八萬戸へ左ノ通り印刷物ヲ配付セリ

尿尿ノ汲取ニ就テ

一、汲取日並
 市役所ノ人夫ニ汲取ラセル區域ハ來ル四月一日ヨリ皆様ノ宅ノ入口ニ貼ツタ汲取日並ニヨリ十日目毎ニ汲取ラセル豫定テアリマス一回置テ差支ナキ家ハ二十日目毎ニ汲取ラセマス人夫カ汲取ニ參リマシタトキ留守テ汲取レナカッタリ家ノ都合テ御斷リニナリマスト次ノ汲取日マテ參レマセンカラ定日ニ汲取ノ出來ル様御注意ヲ願ヒマス

二、便 壺

便壺カ人數ノ割合ニ小サカツタリ又ハ數カ少クテ十日間待タレヌ様ナ宅テハ成ルヘク早く大キナ便壺ト替ヘテ預キタイ

三、汲取人取締人夫ニハ如何ナル事情カアリマシテモ決シテ金品ヲ貰ツテハナラヌト嚴重ニ達シテアリマス若シ貰ツタ事カ判ルト直ニ解傭シ賃金ヲ拂ハヌコトニ定メテアリマスカラ御承知ヲ願ヒマス

四、停 滯 申 告
 大小便ノ溜ツタトキヤ汲取人ニ不都合ノアツタ場合ハ近所ノ不淨汲取申告箱へ投書ナサルカ又ハ左記受持ノ衛生事務所へ御申出ヲ願ヒマス

左 記

區	域	事務所名	位 置	電 話 番 號
東 區	東區	東區衛生事務所	東區役所内	東 一三番
西 區	西區	西區衛生事務所	西區役所内	本 四四八〇番
中區 <small>(鐵砲、末廣、門前、古渡ノ各町以東但右各町ヲ除ク)</small>	中區	中區衛生事務所	中區役所内	東 三七三四番
中區 <small>(鐵砲、末廣、門前、古渡ノ各町以西但右各町ヲ含ム)</small>	西區	西區衛生事務所	横三ツ藏町通南桑名町ト南伏見町ノ中程南側	本 一〇八六番
南 區	南區	南區衛生事務所	南區役所内	南 一八七一番

大正十五年三月 名古屋市長 保健部衛生課

第二百四十七 大正十四年度中ニ於ケル尿尿汲取其他ニ關シ契約セル者並ニ契約條項左ノ如シ

記

- 一、尿尿汲取搬出契約者 稻垣市三郎 外三百十名
- 二、尿尿船積無償交付契約者 佐野源太郎 外三十三名
- 三、尿尿船積輸送交付契約者 伊藤房吉 外二十二名
- 四、尿尿無償交付契約者 堀尾茂助 外一名
- 五、尿尿船貸與及尿尿無償交付契約者 松永富五郎 外五名
- 六、尿尿無償交付契約者 青木太三郎
- 七、尿尿無償交付並尿尿溜貸借者 加藤杉太郎
- 八、尿尿船積無償交付契約者 水谷兼吉

以上契約書寫左記ノ通り

一、尿尿汲取搬出契約書

名古屋市長ヲ甲トシ

ヲ乙トシ名古屋市内ニ於ケル尿尿無償汲取搬出ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 乙ハ別表汲取区域内ノ尿尿ヲ汲取搬出スルモノトス

第二條 本契約期間ハ大正 年 月 日ヨリ大正 年 月 日迄トス

第三條 乙ハ甲ニ對シ汲取契約保證金トシテ金 圓ヲ提供スルモノトス

第四條 乙ハ契約締結後五日以内ニ汲取区域内各戸ノ尿尿汲取人配置表ヲ作製シ甲ニ提出スルト同時ニ其ノ排泄量ニ應シ甲ヨリ指定セラレタル汲取日時ニ依リ常ニ停滞ナキ様完全ニ汲取掃除ヲ爲スモノトス

第五條 暴風雨等ニ因ル浸水便壺ノ掃除ハ甲ニ於テ適宜ノ處分ヲ爲スモノトス

第六條 乙カ滿半ケ年間第四條ノ義務ヲ完全ニ履行シタル場合ハ甲ハ甲ノ定メタル規定ニ據リ乙ニ對シ相當ノ獎勵金ヲ交付スルモノトス

第七條 乙カ尿尿ノ汲取掃除ヲ怠リタルトキハ甲ハ代執行ヲ爲シ其ノ尿尿ハ甲ニ於テ適宜處分ス

甲ニ於テ代執行ヲ爲シタルトキハ乙ハ汲取尿尿壹石ニ付金五十錢ノ割ヲ以テ甲ニ代執行費ヲ納付スルモノトス

前項代執行ハ前月中ノ分ヲ翌月十五日迄ニ納付スルモノトス

第八條 甲ハ乙カ正當ノ理由ナク又ハ誠意ヲ以テ本契約ノ履行ヲ爲ササルモノト認メタルトキハ何時タリトモ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ハ第三條ニヨリ乙ノ提供シタル保證金ハ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ所得ニ歸シ代執行費ノ未納其他損害アルトキハ乙ハ別ニ之ヲ賠償スルモノトス

第九條 乙ハ尿尿汲取區域ノ増減、汲取處分方法ノ改良及其ノ他ニ關シ甲ノ指示ニ從フモノトス

第十條 本契約條項ニ疑義ヲ生シタル場合ハ市長ノ意見ニ從フモノトス

本契約ヲ證スル爲メ本證貳通ヲ作り各壹通ヲ所持スルモノトス

大正 年 月 日

名古屋市長 田 阪 千 助

二、尿船積無償交付契約書

名古屋市長ヲ甲トシ 乙トシテ尿船積込無償交付ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 乙ハ名古屋市 尿船積込場ヨリ自己ノ所有スル船舶ヲ航海シ尿ノ輸送ヲ爲スモノトス

第二條 乙ハ前條輸送ノ爲メ左記船舶ヲ使用シ毎月 石以上ヲ輸送スルモノトス

一、船舶 石積 艘

但シ暴風雨其他變災ノ爲メ甲ニ於テ航海不可能ナリト認メタル場合ハ此限リニアラス

第三條 乙ハ本契約保證金トシテ金 圓ヲ甲ニ提供シ置クモノトス

第四條 乙カ契約石數ノ輸送ヲ怠リタルトキハ輸送不足數壹石ニ付金拾錢ノ割ヲ以テ過怠金ヲ徵收スルモノト過怠金ハ甲ノ通知ニ依リ前月中ノ分ヲ翌月拾五日迄ニ乙ハ甲ニ納付スルモノトス

第五條 本契約期間ハ大正 年 月 日ヨリ大正 年 月 日迄トス

第六條 乙ハ有料タルト無償タルトヲ問ハス本契約ニ依リ交付ヲ受ケタル尿ヲ契約團體員以外ノ者ニ交付スルコトヲ得サルモノトス

但シ名古屋市ヲ距ル數里以外ニ輸送スルモノハ此限リニアラス

第七條 甲ハ乙カ正當ノ理由ナクシテ本契約ヲ履行セスト認メタルトキハ之ヲ催告シ尙之ニ應セサルトキハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ハ第三條ノ保證金ハ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ所得ニ歸シ過怠金未納其他損害アルトキハ乙ハ別ニ之ヲ賠償スルモノトス

大正 年 月 日

名古屋市長 田 阪 千 助

三、

三五一

第八條 甲ハ尿尿處分方法ノ變更其他本契約ヲ履行シ得サル事情ノ生シタル場合ハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得ルモノトス

但シ此ノ場合乙ニ損害アルモ甲ハ賠償ノ責ニ任セス

第九條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ甲ノ意見ニ從フモノトス
本契約ヲ證スル爲メ本證貳道ヲ作り各壹通ヲ所持スルモノトス

大正 年 月 日

名古屋市長 田 阪 千 助

三、尿尿船積輸送交付契約書

名古屋市長ヲ甲トシ何縣何郡何村

ヲ乙トシ尿尿船積輸送交付ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 甲ハ尿尿運搬船ニ積載シタル尿尿ヲ別紙日次表並指定ノ場所ニ於テ乙ニ交付スルモノトス
但シ甲ノ都合ニヨリ出航セサルトキハ此限リニアラス

第二條 乙ハ前條ノ尿尿船ヲ受取りタルトキハ尿尿運搬船壹隻ニ付尿尿料金壹圓ヲ甲ニ交付シ直ニ其尿尿ヲ汲出シ空船ハ必ス責任者ヲ附シ甲ニ引渡スモノトス
但農繁期六月十一日ヨリ七月十日マテ及十月二十一日ヨリ十一月二十日マテニ限リ尿尿料金ヲ免除シ無償交付スルモノトス

第三條 乙ハ前條尿尿運搬船ヲ破損若クハ亡失セシメタルトキハ損害賠償ノ責ニ任スルモノトス

第四條 乙ハ本契約保證金トシテ金拾圓ヲ契約ト同時ニ甲ニ提供スルモノトス

第五條 甲ハ尿尿處分方法ノ改變其他ノ事由ニ依リ契約ヲ履行シ得サル事情ノ生シタルトキ若クハ乙カ誠意ヲ以テ本契約ヲ履行セスト認メタルトキハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得此場合乙ニ損害アルモ甲ハ賠償ノ責ニ任セス

第六條 前條後段ニ依リ契約解除ノ場合ハ第四條ノ保證金ハ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ所得ニ歸シ尙甲ニ損害アルトキハ乙ハ別ニ之ヲ賠償スルモノトス

第七條 本契約期間ハ大正十四年七月十一日ヨリ大正十五年三月三十一日マテトス
本契約ヲ證スル爲メ本證貳通ヲ作り各壹通ヲ所持スルモノトス

大正 年 月 日
名古屋市長 田 阪 千 助
何縣何郡何村 氏 名

四、尿尿無償運搬契約書

名古屋市長ヲ甲トシ東春日井郡篠木村大字關田堀尾茂助ヲ乙トシ尿尿無償運搬ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 乙ハ東區衛生事務所管内ニ設置セル尿尿貯溜池ヨリ自己ノ所有スル牛車ヲ以テ尿尿ノ運搬ヲナスモノトス

第二條 乙ハ一ヶ月二十車以上ヲ運搬スルモノトシ引續キ二日以上休業スルコトヲ得ス
但シ天災地變ニ因リ甲ニ於テ作業不能ト認メタルトキハ此ノ限リニアラス

第三條 甲ハ乙カ本契約ニ定メタル車數ノ運搬ヲ怠リタルトキハ一車ニ付一圓尙二日以上休業シタルトキハ一日ニ付壹圓ノ割ヲ以テ違約金ヲ徴收スルモノトス

第四條 乙ハ本契約保證金トシテ金參拾圓也ヲ契約ト同時ニ甲ニ提供スルモノトス

第五條 乙ハ輸送シタル尿尿ヲ竹林肥料トスル外人ニ交付又ハ賣却スルヲ得サルモノトス

第六條 甲ハ乙カ正當ノ理由ナクシテ本契約ヲ履行セスト認メタルトキハ之ヲ催告シ尙之ニ應セサルトキハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ハ第四條ニ依リ乙ノ提供シタル保證金ハ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ所得ニ歸シ尙違約金ノ未納其他甲ニ損害アルトキハ別ニ之ヲ賠償スルモノトス

第七條 甲ニ於テ尿尿處分方法ノ改變其他ノ理由ニヨリ契約ヲ履行シ得サルトキハ何時タリトモ本契約ヲ

解除スルコトヲ得此ノ場合乙ニ損害アルモ甲ハ賠償ノ責ニ任セス

第八條 本契約期間ハ大正十四年三月二十八日ヨリ大正十五年三月三十一日マテトス

第九條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ甲ノ意見ニ從フモノトス

本契約ヲ證スル爲メ本證貳通ヲ作製シ各壹通ヲ所持スルモノトス

大正十四年三月二十八日

名古屋市長

田 阪 千 助

東春日井郡篠木村大字關田

堀 尾 茂 助

五、屎尿船貸與並屎尿無償交付契約書

名古屋市長ヲ甲トシ何縣何郡何町(村)農會長ヲ乙トシ屎尿船貸與並屎尿無償交付ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 甲ハ乙ニ對シ屎尿輸送ノ用ニ供スル屎尿船ヲ無償ニテ何石積何隻ヲ貸與スルモノトス

第二條 乙ハ甲ノ貸與シタル屎尿船ヲ概ネ十日以内ニ一隻宛甲ノ指定セル積込場ニ廻航シ屎尿ノ無償輸送ヲ爲スモノトス

但天災地變ニテ甲ニ於テ航行不可能ト認メタルトキハ來航セサルモ妨ケナシ

第三條 乙カ第一條ノ屎尿船ヲ破損シタルトキハ甲ハ之カ修理ヲナシ其費用ハ乙ヨリ徵收ス尙亡失シタルトキハ乙ハ損害賠償ノ責ニ任スルモノトス

但輕微ナル修理ハ甲ノ承認ヲ得テ乙ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第四條 本契約期間ハ大正 年 月 日ヨリ大正 年 月 日迄トス

第五條 乙ハ本契約保證金トシテ契約ト同時ニ金何圓ヲ甲ニ提供スルモノトス

第六條 甲ハ乙カ正當ノ理由ナク又ハ誠意ヲ以テ本契約ヲ履行セサルモノト認メタルトキハ催告シ尙之ニ應セサルトキハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ハ第五條ニ依リ乙ノ提供シタル保證金ハ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ所得ニ

歸シ尙其他ノ損害アルトキハ乙ハ別ニ之ヲ賠償スルモノトス

第七條 屎尿處分方法ノ變改其他ノ事由ニ依リ甲ニ於テ本契約ヲ解除スルコトヲ得此場合ハ第五條ニ依リ乙ノ提供シタル保證金ヲ還付スルノ外乙ニ損害アルモ甲ハ賠償ノ責ニ任セサルモノトス

第八條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ名古屋市長ノ意見ニ依リ本契約ヲ證スル爲メ本證貳通ヲ作り各壹通ヲ所持スルモノトス

大正 年 月 日 名古屋市長 田 阪 千 助

六、屎尿無償交付契約書

名古屋市長ヲ甲トシ西春日井郡山田村大字上小田井總代青木太三郎ヲ乙トシ屎尿無償交付ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 乙ハ甲ニ於テ適當ト認メタル場所ニ甲ノ指示ニ從ヒ屎尿貯溜場ヲ設置スルモノトス

第二條 前項屎尿貯溜場ノ設備修繕其他一切ノ費用ハ乙ノ負擔トス

但天災地變其他甲ノ都合ニヨリ搬入シ得サルトキハ此限リニアラス

第三條 乙ハ前條ニ依リ交付ヲ受ケタル屎尿ハ其翌日中ニ於テ居村ニ運搬スルモノトス

但天災地變ニヨリ甲ニ於テ運搬不可能ト認メタルトキハ此限リニアラス

第四條 乙ハ第二條ニ依リ交付ヲ受ケタル屎尿ハ有料タルト無償タルトヲ問ハス團體員以外ニ交付又ハ賣却スルコトヲ得ス

第五條 本契約期間ハ大正十四年十月一日ヨリ大正十六年三月三十一日マテトス

第六條 乙ハ本契約保證金トシテ金五拾圓也ヲ契約ト同時ニ甲ニ提供スルモノトス

第七條 乙カ屎尿ノ運搬ヲ怠リタルトキハ甲ニ於テ適宜ノ處分ヲナシ其ノ代行費トシテ一石ニ付一圓ノ割

ヲ以テ乙ヨリ徴收ス

前項代行業ハ甲ノ通知ニ依リ十五日以内ニ納付スルモノトス

第八條 甲ハ乙カ正當ノ理由ナク又ハ誠意ヲ以テ契約ノ履行ヲ爲ササルモノト認メタルトキハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ハ第六條ニ依リ乙ノ提供シタル保證金ハ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ所得ニ歸シ尙代行業ノ未納其他甲ニ損害アルトキハ乙ハ別ニ之ヲ賠償スルモノトス

第九條 甲ハ尿尿處分方法ノ改變其他ノ事由ニ依リ本契約ヲ履行シ得サル事情ノ生シタル場合ハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合第六條ノ保證金ハ還付スルモ之レカ爲メ乙ニ損害アルモ賠償ノ責ニ任セサルモノトス

第十條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ甲ノ意見ニ從フモノトス

本契約ヲ證スル爲メ本書貳通ヲ作り各壹通ヲ所持スルモノトス

大正十四年十月一日

名古屋市長 田 阪 千 助

西春日井郡山田村大字上小田井

總 代 青 木 太 三 郎

七、尿無償交付並尿溜溜無償貸借契約書

名古屋市長ヲ甲トシ名古屋市中區池田町七拾番地加藤杉太郎ヲ乙トシ尿無償交付並尿溜溜無償貸借ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 甲ハ乙ニ對シ中區御器所町汚物處理所内ニ設備シタル尿溜溜壹個ヲ無償貸與シ且ツ同所ニ於テ毎日尿約十石宛ヲ無償交付ス

第二條 乙ハ甲ノ交付シタル尿ヲ以テ乾糞肥料ノ製造ヲナスモノトス

第三條 乙ハ本契約ノ保證金トシテ契約ト同時ニ金壹百圓ヲ甲ニ提供スルモノトス

第四條 乙ハ尿溜溜ニ工作物ヲ附設セントスルトキハ甲ノ承認ヲ受クルヲ要ス

前項工作物ハ契約解除ノ際之ヲ取毀テ原形ニ復スヘシ

第五條 尿溜溜ノ修理ハ乙ニ於テ之ヲ行フヘシ但施工ノ際ハ甲ノ指揮ヲ受クルヲ要ス

第六條 乙ハ加工シタル製品ヲ即日場外ニ搬出スヘシ

第七條 乙カ前條ノ義務ヲ怠リタル場合ハ甲ニ於テ代執行ヲナシ其費用ヲ乙ヨリ徴收スルモノトス

第八條 甲ハ乙カ本契約ヲ履行スルコト能ハスト認メタルトキハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコト得

前項契約解除ノ理由カ乙ノ契約不履行ニ基ク場合ハ第三條ニ依リ乙ノ提供シタル保證金ハ違約金トシテ

甲ノ所得ニ飯ス

第九條 本契約期間ハ大正十四年四月一日ヨリ大正十五年三月三十一日マテトス

第十條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ甲ノ意見ニ從フモノトス

本契約ヲ證スル爲メ本書貳通ヲ作製シ各壹通ヲ所持スルモノトス

大正十四年三月三十一日

名古屋市長 田 阪 千 助

名古屋市中區池田町七十番地

加 藤 杉 太 郎

八、尿船積無償交付契約書

名古屋市長ヲ甲トシ名古屋市中區東川端町十丁目水谷兼吉ヲ乙トシ尿船積無償交付ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 乙ハ名古屋市中區堀留尿積込場ニ自己ノ所有船ヲ廻航シ天候ノ如何ヲ問ハス毎日百石以上ヲ輸送スルモノトス

第二條 乙ハ本契約保證金トシテ金壹百五拾圓也ヲ現金ヲ以テ甲ニ提供スルモノトス

第三條 甲ハ乙カ契約石數ノ輸送ヲ怠リタルトキハ一日ニ付金五圓ノ割ヲ以テ過怠金ヲ徵收ス

第四條 乙ハ本契約ニ依リ交付ヲ受ケタル屎尿ヲ甲ノ承認シタル區域以外ニ賣却又ハ交付スルコトヲ得サルモノトス但シ甲ニ於テ承認シタル區域内ト雖モ支障アル場合ハ停止スルコトアルヘシ

第五條 甲ハ屎尿處分方法ノ變更其他ノ事由ニヨリ契約ヲ履行シ得サル事情ノ生シタル場合若クハ乙カ正當ノ理由ナクシテ本契約ヲ履行セスト認メタルトキハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得此場合乙ニ損害アルモ甲ハ賠償ノ責ニ任セサルモノトス

第六條 前條後段ニヨリ契約解除ノ場合ハ第二條ノ保證金ハ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ所得ニ返シ尙過怠金ノ未納其他甲ニ損害アルトキハ乙ハ別ニ之ヲ賠償スルモノトス

第七條 本契約期間ハ大正十四年十月一日ヨリ大正十五年三月三十一日マテトス

第八條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ甲ノ意見ニ從フモノトス

本契約ヲ證スル爲メ本證貳通ヲ作り各壹通ヲ所持スルモノトス

大正十四年十月二十三日

名古屋市長 田 阪 千 助
 名古屋市中區東川端町十丁目二十四番地 水 谷 兼 吉

第二百四十八 大正十五年三月下飯田塵芥燒却所構内へ容積五百石ノ屎尿溜二個ヲ新設セリ

第二百四十九 大正十五年四月一日水槽便所設備ニ關シ左ノ通り各町衛生組合長へ依頼セリ

拜啓春寒料峭ノ候愈々御清康奉慶賀候陳者本市屎尿處分ニ就テハ種々研究中ニ有之候得共現下ニ於ケル市財政上ノ關係ヨリ急ニ根本的處分ヲ講スル運ヒニ至ラサルハ甚タ遺憾トスル所ナルモ現在ノ處分法ニ委セハ年々市費ノ増加ハ免レサルヲ以テ此間ニ於テ最モ衛生的且經濟的處分法ハ便所ノ改良ニ若クモノ無之儀

ト被存候ニ付大正十五年度新ニ本市衛生課ニ水槽式淨化裝置其他衛生工事専門技術員ヲ置キ市民各位ノ依頼ニ應シ無手数料ニテ設計審査、價格ノ判定及工事ノ監督ヲスルコトニ相成候ニ付御多忙中恐縮ノ儀ニ存候得共御管内可然向へ別紙印刷物ヲ配布御勸誘相成候様致度此段及御依頼候

大正十五年四月 敬具
 名古屋市長 田 阪 千 助

町 衛生 組合 長 殿

水槽便所設備獎勵ノ爲メ新ニ設ケタル便法

汚物自然淨化裝置附設ノ洋式便所ノ工事ヲ專業トスル營業者ハ現在市内ニ數名アリ何レモ其ノ構造ニ關シ特色ヲ有シ多クハ專賣特許ヲ受ケ何々式ト唱へ競フテ築造ヲ請負ヒツ、アルモ市民各位中之カ設備ヲ爲サントスルニ當リ本裝置ニ關スル知識ニ乏シク其ノ型式ノ選定、工費ノ判定、工事ノ監督等ニ不尠苦慮セラ、向アルヲ以テ今回特ニ市役所衛生課ニ斯道ノ技術員ヲ置キ無手数料ニテ左記事項ノ依頼ニ應スルコト、セリ各位奮テ此衛生的設備ヲ施サレンコトヲ望ム

一、工事設計ノ審査、價格ノ判定及工事ノ監督

各位カ水槽便所ノ設備ヲ營業者ニ依頼セラ、際營業者ヨリ差出シタル工事設計カ果シテ適當ナルヤ否ヲ審査シ又請負價格カ設備ニ對シ相當ナルヤ否等ヲ判定シ尙相互間ニ工事ノ契約成立セバ該工事監督ノ依頼ニ應ス

二、工 事 設 計

各位カ營業者ニ工事ノ設計ヲ依頼セス直接當所ニ依頼セラレタル場合ハ直チニ技術員ヲ派遣シ實地調査ノ上設計セシム

三、工 事 依 託

本市技術員ノ設計シタルモノハ勿論他ノ設計ニ係ルモノト雖モ總テ工事ノ依頼ニ應ス此ノ場合ハ本市ニ

第一條 乙ハ名古屋市 屎尿積込場ヨリ自己ノ所有スル船舶ヲ航海シ屎尿ノ輸送ヲ爲スモノトス
第二條 乙ハ前條輸送ノ爲メ左記船舶ヲ使用シ毎月 石以上ヲ輸送スルモノトス

一、船舶 石積 艘

但シ暴風雨其他變災ノ爲メ甲ニ於テ航海不可能ナリト認メタル場合ハ此限リニアラス

第三條 乙ハ本契約保證金トシテ金 圓ヲ甲ニ提供シ置クモノトス

第四條 乙カ契約石數ノ輸送ヲ怠リタルトキハ輸送不足石數壹石ニ付金拾錢ノ割ヲ以テ過怠金ヲ徵收スル
モノトス過怠金ハ甲ノ通知ニヨリ前月中ノ分ヲ翌月十五日迄ニ乙ハ甲ニ納付スルモノトス

第五條 本契約期間ハ大正 年 月 日ヨリ大正 年 月 日迄トス

第六條 乙ハ有料タルト無償タルトヲ問ハス本契約ニ依リ交付ヲ受ケタル屎尿ヲ契約團體員以外ノ者ニ交
付スルコトヲ得サルモノトス

但シ名古屋市ヲ距ル數里以外ニ輸送スルモノハ此限リニアラス

第七條 甲ハ乙カ正當ノ理由ナクシテ本契約ヲ履行セスト認メタルトキハ之ヲ催告シ尙之ニ應セサルトキ
ハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得
前項契約解除ノ場合ハ第三條ノ保證金ハ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ所得ニ販シ過怠金未納其他
損害アルトキハ乙ハ別ニ之ヲ賠償スルモノトス

第八條 甲ハ屎尿處分方法ノ變更其他本契約ヲ履行シ得サル事情ノ生シタル場合ハ何時タリトモ本契約ヲ
解除スルコトヲ得ルモノトス但シ此ノ場合乙ニ損害アルモ甲ハ賠償ノ責ニ任セス

第九條 甲ハ乙カ本契約ヲ完全ニ履行シタルトキハ獎勵金ヲ交付スルコトアルヘシ

第十條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ甲ノ意見ニ從フモノトス
本契約ヲ證スル爲メ本證貳通ヲ作り各壹通ヲ所持スルモノトス

大正 年 月 日 名古屋市長 田 阪 千 助

三、屎尿船積輸送交付契約書

名古屋市長ヲ甲トシ ヲ乙トシ屎尿船積輸送交付ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 甲ハ屎尿運搬船ニ積載シタル屎尿ヲ別紙日次竝ニ場所協定表ニ據リ乙ニ交付スルモノトス

但天候其他ニ因リ出航シ能ハサルトキハ此ノ限リニアラス

第二條 乙ハ前條ノ屎尿運搬船ヲ受取リタルトキハ直ニ船内ノ屎尿全部ヲ汲出シ其ノ空船ニハ必ス責任者
ヲ附シ 時間以内ニ受領地点ニ於テ甲ニ引渡スモノトス

第三條 乙ハ第一條ノ屎尿料金トシテ毎月二十五日迄ニ左記ニ據リ一ヶ月分ヲ甲ニ豫納スルモノトス

百 石 船 一隻ニ付屎尿料金 金 圓 拾錢

百五十石船 金 圓 拾錢

貳百石船 金 圓 拾錢

參百石船 金 圓 拾錢

但自六月一日三十日間及至十一月十一日三十日間ニ限リ料金ヲ免除ス

第四條 乙ハ第二條ノ屎尿運搬船ヲ破損若クハ亡失セシメタルトキハ其ノ損害賠償ノ責ニ任スルモノトス

第五條 乙ハ本契約保證金トシテ金 圓也ヲ契約ト全時ニ甲ニ納付スルモノトス

第六條 甲ハ屎尿處分方法ノ改變其他ノ事由ニ依リ本契約ヲ履行シ得サル事情ノ生シタルトキ若クハ乙カ
誠意ヲ以テ本契約ヲ履行セスト認メタルトキハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得此場合乙ニ損害
アルモ甲ハ賠償ノ責ニ任セス

第七條 前條後段ニ依リ解除ノ場合ハ第五條ノ保證金ハ違約金トシテ契約解除ト全時ニ甲ノ所得ニ販シ尙

甲ニ損害アル時ハ乙ハ別ニ之ヲ賠償スルモノトス

第八條 本契約期間ハ大正 年 月 日ヨリ大正 年 月 日マテトス
本契約ヲ證スル爲メ本證貳通ヲ作り各壹通ヲ所持スルモノトス
大正 年 月 日 名古屋市長 田 阪 千 助

四、尿尿無償運搬契約書

名古屋市長ヲ甲トシ東春日井郡篠木村大字關田堀尾茂助ヲ乙トシ尿尿無償運搬ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス
第一條 乙ハ東區衛生事務所管内ニ設置セル尿尿貯溜池ヨリ自己ノ所有スル牛車ヲ以テ尿尿ノ運搬ヲナス
モノトス

第二條 乙ハ一ヶ月二十車以上ヲ運搬スルモノトシ引續キ二日以上休業スルコトヲ得ス

但シ天災地變ニ因リ甲ニ於テ作業不能ト認メタルトキハ此限リニアラス

第三條 甲ハ乙ガ本契約ニ定メタル車數ノ運搬ヲ怠リタルトキハ壹車ニ付壹圓尙二日以上休業シタルトキ
ハ一日ニ付壹圓ノ割合ヲ以テ違約金ヲ徵收スルモノトス

第四條 乙ハ本契約保證金トシテ金參拾圓也ヲ契約ト全時ニ甲ニ提供スルモノトス

第五條 乙ハ輸送シタル尿尿ヲ竹林肥料トスル外他人ニ交付又ハ賣却スルヲ得ザルモノトス

第六條 甲ハ乙ガ正當ノ理由ナクシテ本契約ヲ履行セズト認メタルトキハ之ヲ催告シ尙之ニ應ゼザルトキ
ハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ハ第四條ニヨリ乙ノ提供シタル保證金ハ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ所得ニ
歸シ尙違約金ノ未納其他甲ニ損害アルトキハ別ニ之ヲ賠償スルモノトス

第七條 甲ニ於テ尿尿處分方法ノ改變其他ノ理由ニヨリ契約ヲ履行シ得サルトキハ何時タリトモ本契約ヲ
解除スルコトヲ得此ノ場合乙ニ損害アルモ甲ハ賠償ノ責ニ任セス

第八條 本契約期間ハ大正十五年四月一日ヨリ大正十六年三月三十一日迄トス

第九條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ甲ノ意見ニ從フモノトス
本契約ヲ證スル爲メ本書貳通ヲ作製シ各壹通ヲ所持スルモノトス
大正十五年三月二十六日 名古屋市長 田 阪 千 助
東春日井郡篠木村大字關田 堀 尾 茂 助

四、尿尿無償交付契約書

名古屋市長ヲ甲トシ名古屋西區日比津町農事改良實行組合長近藤作治ヲ乙トシ西區則武貯溜場ニ貯溜シ
アル尿尿ノ無償交付ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 乙ハ甲ヨリ毎日前記尿尿貯溜場ヨリ尿尿一車以上五車以内ノ無償交付ヲ受ケ之ヲ無償搬出スルモ
ノトス

但シ暴風雨雪等ノ爲メ甲ニ於テ搬出不能ト認メタルトキハ此ノ限リニ非ス

第二條 本契約期間ハ大正十五年四月一日ヨリ大正十六年三月三十一日迄トス

第三條 乙ハ甲ニ對シ本契約保證金トシテ金五拾圓ヲ契約ト同時ニ提供スルモノトス

第四條 甲ハ乙ノ搬出カ第一條ノ契約車數ニ充タサルトキハ違約金トシテ一日一車ニ付金五拾錢ヲ徵收ス

前項違約金ハ翌月五日迄ニ甲ニ納付スルモノトス

第五條 甲ハ乙カ正當ノ理由ナク又ハ誠意ヲ以テ本契約ヲ履行セサルモノト認メタルトキハ何時タリトモ
契約ヲ解除スルコトヲ得

前項契約解除ノ場合ニ於テハ第三條ニヨリ乙ノ提供シタル保證金ハ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ
所得ニ販スルモノトス

第六條 本市尿尿處分方法ノ改變其他ノ事由ニ依リ交付不能ノ場合ハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコト

ヲ得

第七條 本契約條項中疑義ヲ生シタル場合ハ名古屋市長ノ意見ニ從フモノトス
本契約ヲ證スル爲メ本書貳通ヲ作り各自壹通ヲ所持スルモノトス

大正十五年三月二十七日

名古屋市長 田 阪 千 助
名古屋西區日比津町農事改良實行組合
組 合 長 近 藤 作 治

五、屎尿船積無償交付契約書

名古屋市長ヲ甲トシ名古屋市中區大井町九十一番地久野鐵次郎ヲ乙トシ屎尿船積無償交付ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 乙ハ名古屋市中區堀留屎尿積込場へ自己ノ所有船ヲ廻航シ天候ノ如何ヲ問ハス毎日屎尿貳百石以上ヲ輸送スルモノトス

第二條 乙ハ本契約保證金トシテ金貳百圓也ヲ契約ト同時ニ甲ニ納付スルモノトス

第三條 甲ハ乙カ契約石數ノ輸送ヲ怠リタルトキハ一日ニ付金拾圓ノ割ヲ以テ過怠金ヲ徵收ス過怠金ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ甲ニ納付スルモノトス

第四條 乙ハ本契約ニ依リ交付ヲ受ケタル屎尿ヲ甲ノ承認シタル區域以外ニ賣却又ハ交付スルコトヲ得サルモノトス但シ甲ニ於テ承認シタル區域内ト雖モ支障アル場合ハ停止スルコトアルヘシ

第五條 甲ハ屎尿處分方法ノ改變其他ノ事由ニヨリ本契約ヲ履行シ得サル事情ノ生シタルトキ若クハ乙カ誠意ヲ以テ本契約ヲ履行セスト認メタルトキハ何時タリトモ本契約ヲ解除スルコトヲ得此場合乙ニ損害アルモ甲ハ賠償ノ責ニ任セサルモノトス

第六條 前條後段ニヨリ契約解除ノ場合ハ第二條ノ保證金ハ違約金トシテ契約解除ト同時ニ甲ノ所得ニ販

シ尙過怠金ノ未納其他甲ニ損害アルトキハ乙ハ別ニ之ヲ賠償スルモノトス

第七條 本契約期間ハ大正十五年四月一日ヨリ大正十六年三月三十一日マテトス

第八條 甲ハ乙カ本契約ヲ完全ニ履行シタルトキハ獎勵金ヲ交付スルコトアルヘシ

第九條 本契約條項中疑義ヲ生シタルトキハ甲ノ意見ニ從フモノトス

本契約ヲ證スル爲メ本書貳通ヲ作り各壹通ヲ所持スルモノトス

名古屋市長 田 阪 千 助
名古屋市中區大井町九十一番地
久 野 鐵 次 郎

第二百五十二 大正十五年五月屎尿處分ニ關シ中區八百屋町井上徳三郎ヨリ左ノ建議書ヲ提出セリ

名古屋市長ニ關スル建議書

從來吾人ノ力説セシ如ク屎尿ノ處分ハ市トシテハ姑息ノ策ヲ採リ海ニ投スルノ費用ヨリハ陸送ノ失費ノ多額ナルヲ悞レテ之ニ躊躇シ便宜上他縣ヘモ無料配付ヲナスコトノ無謀ナルハ考慮ヲ要セサルヘカラス翻テ相當ノ方法ヲ講シ相當ノ費用ヲ擲チ我カ縣下ヘ陸送シ農民ノ希望ヲ滿タサハ漸次瘠化セル田野ヲ沃地トナラシメ縣下ノ産額ヲ累進セハ公益上得ル處多キハ論スル迄モナク徒ラニ眼前ノ打算ニ捉ハレ配給ノ途ニ重キヲ措カサルハ良計ト云フ事ヲ得サルヘシ
凡ソ事大ナル處置ヲナサントセハ甚大ナル覺悟ナカルヘカラス茲ニ於テ我縣市當局ハ意思疏通ノ下ニ設計ニヨリ解決アランコトヲ熱望ニ堪エス

設 計 案

一、荷物自動車三百臺 (一臺ニ三斗入通槽三十個 積載計九石)

此屎尿量貳千七百石

此他千三百石ハ配給契約済
此代金七拾五萬圓

一、通樽五千個

此代金貳萬五千圓
基本合計七拾七萬五千圓

經 營 費 (概 算)

- 一金七萬七千五百圓 (荷物自動車及通樽一ヶ年修繕費)
- 一金參拾貳萬八千五百圓 「ガソリン」代一日一臺三圓宛
- 一金五拾四萬圓 荷物自動車三百臺 一臺二人宛ノ給料
- 一金參拾萬圓 汲取人夫賃

合計百貳拾四萬六千圓

此負擔ハ縣市半額宛

但シ市外五里先溜場へ搬出

屎尿溜場所經費ハ郡村農會負擔

右縣ニテ負擔スヘキ理由

一日貳千七百石ノ屎尿ハ一ヶ年九拾八萬五千五百石ナリ

農民壹町歩(壹坪當リ貳升トスレハ六拾石ナリ)コノ人數壹萬六千四百廿五人ニ該當ス而シテ從來

一金貳百四拾六萬三千七百五十圓 (壹町歩約百五十圓 壹萬六千四百廿五人分)
内貳拾九萬五千六百五十圓屎尿九十八萬五千五百石壹石ニ付溜池ヨリ自家へ運搬費

差引貳百拾六萬八千百圓農家利益
コレ農民救済上ヨリ要求スヘキ理由ナリトス
更ニ一言セン

從來市ノ負擔ハ六十萬圓内外ナリ而シテ未タ屎尿排泄ノ全部ヲ處辨スルニアラス隨テ下水道ノ設備ヲナシ放流ノ企アリト聞ク此所要費數千萬圓ナリ又淨化裝置ノ設備ヲナサハ其費用夥シク延テ水道料ノ支拂額亦増加ヲ來スヘシ是レ餘リニ文化式ニ憬カレ經濟ノ本義ニ適スル遠シト云ハサルヘカラス情々顧フニ神代以降天賦ノ屎尿肥料ハ能ク地味ニ適シ瑞穂ノ國ヲ名セシニ拘ラス近時農民ノ之レヲ輕視スルノ弊日ニ甚シク又經濟上ノ贅澤ヲ抑止スルコトナク國利民福ノ道ヲ忘レタルカ如シ此際ニ處スルニ屎尿施肥普及ヲ圖ルハ産業立國ノ急務是ヨリ大ナルハナシトス又陸送運搬車ノ要具ハ或ハ「タンク」トシ容量拾石ノ器ヲ用フルモ可ナルヘシ

須ラク一國ノ隆昌ト安寧トヲ圖ラントセハ市郡交々意識ノ感情ヲ放擲シ生産需給ノ經濟上ノ原則ヲ理解シ最善ノ計ヲ講スルコト刻下ノ緊急策ナリト信スルヲ以テ茲ニ縣市當局ニ建議シ御採擇アラントヲ悃望シテ歇マサルナリ

我農場十五周年誌五四頁御參照ノ要アルヲ以テ一冊添付ス

大正十五年五月 日

名古屋市中區八百屋町二丁目
井・上 德 三 郎

名古屋市長 田 阪 千 助 殿

第二百五十三 大正十五年六月衛生施設概要トシテ各衛生組合長始メニ配付ノ印刷物中屎尿處分ニ關スルモノ左ノ如シ

5、鴨浦工場
 屎尿處分ノ安全辦トシテ加工場設備ノ必要ヲ認メ大正三年九月設置ノ許可ヲ受ケ經費十一萬五千五百餘圓ヲ投シ建設シ使用中ノ處大正十二年九月工場ノ一部燒失セル爲メ目下閉鎖中ナリ

種別	衛生事務所	千種汚物處理所	東川端汚物處理所	御器所汚物處理所	明治新田出張所	鴨浦工場	計
土	九 ^坪	一、〇九 ^坪	二五 ^坪	八〇 ^坪	一八九 ^坪	一、四七七 ^坪	三、九〇〇 ^坪
建	五九	一四四	二二	六三	五〇	一七三	五九九

四、事業功程

種別	屎尿搬出量	同上處分別		全市一日ノ產出量ノ一戸一日
		農家使用	其他	
大正十四年	一、三五、三六 ^石	九四、七九 ^石	三四六、五三 ^石	三、九三四 ^石
大正十三年	一、一六、六〇六	五二、五四二	六四、〇六五	三、八九三
大正十二年	一、二二、三七四	六二〇、七七七	五〇〇、五六七	三、四三三

五、職員以下従事者

種別	職員	員	船員	船夫	尿汲	尿處理	其他	計
衛生課	監視吏員	六						
	技術員	三						
東區衛生事務所	監視吏員	一五						
西區衛生事務所		一五						
中區衛生事務所		一八						
東部衛生事務所		一八						
中區衛生事務所		四三 ^名						
西部衛生事務所		一二						
南區衛生事務所		一五						
計		八四		四三	三七〇	三五	四五	五七六

六、大正十五年度屎尿處分ノ梗概
 一、市營處分區域内戸數約十四萬四千二百八十一戸、平均一日ノ屎尿排泄量四千十八石ニシテ其處分方法左ノ如シ

種別	淨化放流	耕作及淨化放流	其他
1、自家處分	一日 百十八石		
2、農民汲取	一日 千 百石		
3、直營汲取	一日 二千八百石		
內譯			
民有船へ積込ミ無償交付スルモノ	一日 三百石		
市有船ニ積込ミ有償交付スルモノ	一日 二千三百石		

貯溜場へ搬入スルモノ

一日二百石

三七四

二、公設便所

種別	東區衛生事務所	西區衛生事務所	中區東部衛生事務所	中區西部衛生事務所	南區衛生事務所	計
汲取便所	二六 ^{ヶ所}	一九 ^{ヶ所}	八 ^{ヶ所}	一五 ^{ヶ所}	九 ^{ヶ所}	七七 ^{ヶ所}
淨化装置所	一〇	一〇	六	六	三	三五

三、尿尿貯溜場

場所	容量	場所	容量	場所	容量
東區下飯田町	一、〇〇〇 ^石	西區西志賀町	四〇〇 ^石	南區八熊町	二、〇〇〇 ^石
東區千種町	一、〇〇〇	中區御器所町	二、五〇〇	南區鴨浦	三、〇〇〇
西區則武町	九〇〇	中區東川端町	一、五〇〇		

四、尿尿積込場

區別	場所	場所	場所
西區衛生事務所	堀川筋	景雲橋	中橋
中區東部衛生事務所	新堀川筋	東川端堀留	御器所町向田
	堀川筋	洲崎橋	山王橋
	堀川筋	瓶屋橋	新堀川筋
		浮島橋	古渡橋

五、尿尿處分用器具

名	稱	數	量	名	稱	數	量
曳	船	蒸氣發動機船	三二 ^隻	尿	運搬車		四二九 ^輛
積込	船		七七	尿	運搬桶		四、七六九 ^箇

六、尿尿處分ニ要スル人夫賃金ハ三十九萬千六百八圓ナリ

收		入		支		出	
尿尿賣拂代	尿尿汲取代執行收入	計	經常費	臨時費	計	收支過不足	
四、〇一四 ^四	七九 ^四	四、七三三 ^四	七九一、五六一 ^四	二二七、三五三 ^四	一、〇〇八、九一四 ^四	不足	一、〇〇四、一八二 ^四

第二百五十四 大正十五年六月十六日油機關及電動機増設竣工ニ付左ノ通り届出タリ
 衛發第二九號ノ三
 大正十五年六月十六日
 名古屋市長 田 阪 千 助

三七五